

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	読りむinちの推進活動事業	事業期間	平成 12 ~ 年度	整理番号	07010204
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	矢 沢 し ほ り
				連絡先	632

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
			施策 06 第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供			
			細施策 01 市民の生涯学習活動と市民参画参加型社会の充実			
			事務事業 01 読りむinちの推進活動事業			
	予算事業名	読りむinちの活動支援事業費		会計コード 001 款 10 項 05 目 01 事業 08		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	パートナーシップの手法により、事業を展開し、地域の教育力を高め、生涯学習とまちづくりさらに市民力の向上を図る。 ・読りむinちの推進活動事業…次代を担う子どもの「ことばと心を育てる読書活動」の推進。				
	現状と背景 （どうして）	子どもの生活時間や物事への興味、関心も多様化し、子供たちの読書離れ、文字離れによる思考力の低下が叫ばれているおり、心豊かに人生を生きる力が今求められている。そのために、次代を担う子どもの「ことばと心を育てる読書活動」を推進することの必要性が出てきた。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	受益者 乳幼児、幼保小中高生、広く一般市民			
		対象 （直接働きかける）	同上			
		意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことば体験を推進し、読書の楽しみや読書の力を生かすことによりまちづくり、ひとづくりにつなげていくために補助を行う。</li> <li>・朝の読書活動を行う団体を増やす。</li> </ul>			
	手段・方法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファーストブック・セカンドブックプレゼント</li> <li>・幼保小中高の全校の朝読書推進活動</li> <li>・読書環境向上に向けての活動（講演会の実施）</li> <li>・地域に根をはった読書活動等の実践（おはなし会の実施）</li> </ul>				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		読りむinちへの参加促進	加入の働きかけを行った件数	件	年間 ボランティア団体に加入を働きかけた件数	5
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		朝の読書活動推進団体数	朝の読書活動団体数	団体数	小学校・中学校・高校・保育園・幼稚園	34

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	2,521,082	2,452,658	2,262,297	2,368,841	2,367,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円		4,410	7,560	1,512	1,512	
一般財源	円	2,521,082	2,448,248	2,254,737	2,367,329	2,365,488	
職員数	人						
正規職員	人	0.55	0.55	0.55	0.55		
嘱託職員	人						
臨時職員	人	0.80	0.80	0.80	0.80		
合 計	人	1.35	1.35	1.35	1.35		
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	45.00	44.00	40.00	42.00	42.00	
D （ ）	活動指標	加入の働きかけを行った件数	目標 5	実績 5	達成率 100.00		
		—	目標 —	実績 —	達成率 —		
	成果指標	朝の読書活動団体数	目標 34	実績 31	達成率 91.18		
		—	目標 —	実績 —	達成率 —		

備考 市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号 03010303 03020303

事務事業名	読りーむinちの推進活動事業	事業期間	平成 12 ~	年度	整理番号	07010204
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	矢沢しほり	連絡先
						632

期	目 標	実 績	課 題
第1期	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/14よりセカンドブック手渡し会の実施</li> <li>5/28より保育園等絵本の時間見学会の実施</li> <li>5/30映画「じんじん」上映会に向けての試写会開催</li> <li>ボランティア交流会(講演会)の開催</li> <li>読りーむinちの15周年記念ロビー展・講演会・記念誌発行の企画立案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出生時、4ヶ月検診時におけるファーストブックプレゼントの実施</li> <li>小学1年生へのセカンドブック手渡し会の実施</li> <li>保育園等絵本の時間見学会の実施</li> <li>映画「じんじん」上映会に向けての試写会開催</li> <li>ボランティア交流会(講演会)の開催</li> <li>読りーむinちの15周年記念講演会の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市・読りーむinちの・地域の方の連携によりセカンドブックの手渡しを行った。取り組みは定着しているがより多くの会員が関わりを持てるよう呼びかけを行う。</li> <li>絵本の時間の見学会への参加が減少気味であるため、参加方法や見学内容を検討する。</li> <li>「第2次こども読書活動推進計画」の前期検証を行う。</li> </ul>
第2期	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園等の絵本の時間見学会の継続</li> <li>7/31映画「じんじん」上映会の実施</li> <li>8/10~8/21 15周年ロビー展示の実施</li> <li>広報ちの9月号15周年特集記事掲載</li> <li>「第2次こども読書推進計画」の前期検証の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セカンドブック反省会の実施</li> <li>映画「じんじん」上映会実施と還元金による絵本の寄贈</li> <li>15周年ロビー展示、おはなしの会の開催</li> <li>広報ちの掲載記事の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>15周年記念事業「講演会」「集い」の検討</li> <li>「第2次こども読書推進計画」の前期検証内容を共有し今後の活動に活かす検討が必要。</li> </ul>
第3期	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園等の絵本の時間見学会の継続</li> <li>10/24茅野市芸能祭おはなし会の実施</li> <li>11/6月夜のおはなし会実施</li> <li>11/28絵本を楽しむ会実施</li> <li>12/5講演会の実施 2/6集いの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園等の絵本の時間見学会の継続</li> <li>10/24茅野市芸能祭おはなし会の実施</li> <li>11/6月夜のおはなし会実施</li> <li>11/28絵本を楽しむ会実施</li> <li>12/5講演会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1/20 ボランティア交流会の検討</li> <li>2/23 市長と語る会の検討</li> <li>3/12 まとめの会の検討</li> <li>「第2次こども読書推進計画」の前期検証内容を共有し今後の活動に活かす検討が必要。</li> </ul>
第4期	<ul style="list-style-type: none"> <li>1/20 ボランティア交流会の実施</li> <li>2/23 市長と語る会の実施</li> <li>3/12 まとめの会の実施</li> <li>平成28年度事業の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1/20 ボランティア交流会の実施</li> <li>2/6 15周年記念の集い</li> <li>2/23 市長と語る会の実施</li> <li>3/12 まとめの会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読りーむinちの」の推進会議において、公民協働の読書活動について見直したいとの要望がありました。見直し内容を早い段階で結論を出し今後の方向性を決めたい。</li> </ul>

事 中 評 価																															
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今 後 の 方 向 性</td> <td>成 果 の 方 向 性</td> <td>拡 充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>現 状 維 持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>縮 小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>休 廃 止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大</td> <td colspan="4">コ ス ト 投 入 の 方 向 性</td> </tr> </table>	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦			現 状 維 持	③	⑥	⑨			縮 小	④	⑧	⑩			休 廃 止	①			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大		コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
今 後 の 方 向 性		成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦																									
			現 状 維 持	③	⑥	⑨																									
			縮 小	④	⑧	⑩																									
		休 廃 止	①																												
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大		コ ス ト 投 入 の 方 向 性																													
15周年記念事業として講演会・集いを行う中で、活動の周知、啓蒙を行い、どりーむinちのの活動の担い手を増やす。																															
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)																															

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	パートナリシップの手法により、事業を展開し、地域の教育力を高め、生涯学習のまちづくりを進めている。今後もこの方針で、市民団体が行う活動を支援しながら事業を推進してきましたが、推進会議において、公民協働の読書活動について見直したいとの要望がありました。見直し内容を早い段階で結論を出し今後の方向性を決めたい。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	07010204															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	読書活動も定着しつつあり、特に幼児から児童・生徒に与える集中力を高められるなどの影響は大きく、活動の効果が出ている。今後は更なる読書活動の定着のため、「家庭読書」へ繋げていく活動を実施する。	読書活動も定着しつつあり、特に幼児から児童・生徒に与える集中力を高められるなどの影響は大きく、活動の効果が出ている。今後は更なる読書活動の定着のため、「家庭読書」へ繋げていく活動を実施する。					読書活動も定着しつつあり、特に幼児から児童・生徒に与える集中力を高められるなどの影響は大きく、活動の効果が出ている。今後は更なる読書活動の定着のため、「家庭読書」へ繋げていく活動を実施する。推進会議において、公民協働の読書活動について見直したいとの要望がありました。見直し内容を早い段階で結論を出し今後の方向性を決めたい。			
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 ( ACTION )	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充		
		現 状 維 持	③	⑥	⑨		現 状 維 持			⑨
		縮 小	④	⑧	⑩		縮 小			⑩
		休 廃 止	①				休 廃 止			
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大		コ ス ト 投 入 の 方 向 性								
改 革 ・ 改 善 策	市民団体活動費としての市負担金を有効に活用できるよう、連絡調整を綿密に行うための打合せ会(三役事務局会議)を行う。また、「茅野市こども読書活動推進計画」に基づき、市の担う役割と市民の担う役割を明確にしながら事業の充実を図る。					市民団体活動費としての市負担金を有効に活用できるよう、連絡調整を綿密に行い「第2次茅野市こども読書活動推進計画」に基づき、市の担う役割と市民の担う役割を明確にしながら事業の充実を図る。推進会議において、公民協働の読書活動について見直したいとの要望がありました。見直し内容を早い段階で結論を出し今後の方向性を決めたい。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	小泉山体験の森整備活用事業	事業期間	平成 17 ~ 年度	整理番号	07010104
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	作成担当者名	両角 悠
				連絡先	633

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
			施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供			
			細施策 01 市民の生涯学習活動と市民参画参加型社会の充実			
			事務事業 02 小泉山体験の森整備活用事業			
	予算事業名			会計コード 001 款 10 項 05 目 01 事業 12		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	小泉山周辺地域の皆さんからなる「小泉山体験の森創造委員会」と行政がパートナーシップの理念と手法により整備事業を展開し、地域の教育力を高めるとともに市民力の向上を図る。整備の主眼は、小泉山を子どもたちの自然体験の場にするのだが、あわせてこの山が親子や地域の皆さんの憩いの場として広く市民一般に活用してもらえれば、という願いも込められている。平成13年に委員会が立ち上がり、平成14～16年で整備を、平成17年度からはその維持・管理活用を行っている。23年度は10周年を記念し「子どもたちの里山サ				
	現状と背景 （どうして）	経済のグローバル化の進展や少子高齢化社会の到来など、社会情勢が混迷する中、地域に根付いた次代を担う子どもの豊かな心を育てるため、自然体験の場、市民憩いの場を提供する必要性が出てきた。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	乳幼児、幼保小中高生、広く一般市民			
		対象 （直接働きかける）	同上			
		意図	小泉山を子どもたちの自然体験の場、また、祖父母や親子など異年齢間での自然とのふれあいの場、地域の人たちとのふれあいの場にしたい。 イベント参加者を増加させたい			
	手段・方法 （どうやって）	小泉山体験の森創造委員会で企画し、各種行事・研修会・学習会を開催する。また、利用しやすい自然体験の場となるように、看板類補充や補修を計画的に実施する。				
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		対象者への周知回数	対象者への周知	回	イベント数×2	10
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		山開きへの参加者の増加	参加者数	人	平均参加者数の10%増	280

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)	円	1,822,000	600,000	600,000	540,000	540,000
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円	1,822,000	600,000	600,000	540,000	540,000
職員数						
正規職員	人	0.65	0.50	0.50		
嘱託職員	人					
臨時職員	人					
合計	人	0.65	0.50	0.50		
対象（者）数						
延利用（者）数 (b)						
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	32.00	11.00	11.00	10.00	10.00
活動指標	対象者への周知	目標	10	10	10	10
		実績	10	10	10	10
	達成率	100.00	100.00	100.00	100.00	—
	—	目標	—	—	—	—
—	実績	—	—	—	—	
—	達成率	—	—	—	—	
成果指標	参加者数	目標	280	280	280	280
		実績	350	400	500	500
	達成率	125.00	142.86	178.57	178.57	142.86
	—	目標	—	—	—	—
—	実績	—	—	—	—	
—	達成率	—	—	—	—	
備考						

事務事業名	小泉山体験の森整備活用事業	事業期間	平成 17 ~	年度	整理番号	07010104
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	作成担当者名	両 角 悠	連絡先
						633

期	目 標	実 績	課 題
第1期	山開きの参加者を増やし、多くの方に小泉山体験の森の良さを感じていただく。また、子どもたちの登山サポートを積極的に行っていく。春の植物観察会の開催 オオムラサキに保護、カブトシの飼育を行う。	4月29日に春の植物観察会(外来植物の説明を兼ねて)の実施(30名の参加)。5月30日に山開きを開催約500人が参加。5月~6月には小泉山周辺の幼稚園、保育園、小学校の登山サポートを行った。4月に山頂整備(登山道)を行い階段の補修を行った。	山開きに参加していただいた方が、楽しんでいただけるように内容等についての検討をしていく。 研修先の検討
第2期	夏の植物観察会・オオムラサキ観察会を開き、自然体験の機会を設ける。また、観察会では、外来植物の駆除の啓発活動を行う。今後の活動に活かしていただくため、甲斐駒への研修視察を行う。	東京理科大学の地域に学の授業で小泉山体験の森での活動について講義を行った(7/11・25)聴講生12人。オオムラサキの観察会を7/12・19に開催した。7/12(日)放蜂会も合わせて行い約80名参加した。 8月26日(水)甲斐駒ヶ岳(駒ヶ岳神社)への研修視察を行った。	イベントのPR方法を工夫し、より多くの方が参加していただけるようにする。
第3期	秋の植物観察会(外来植物の学習)及びオオムラサキ観察会を開催し、自然体験の場を設ける。 玉川及び豊平の地区文化祭等で小泉山体験の森活動のパネル展示を行いPRしていく。 創造委員会を開催し、27年度の活動報告や28年度の活動計画について検討する。	10月3日に秋の植物観察会を開催し、約20人が参加した。また、11月9日に創造委員会及び市長への提言会を開催し、平成27年度活動について報告を行い、平成28年度活動計画について検討した。 10月4日、11月1日に玉川及び豊平地区に文化祭等でPR用のパネル展示を行う。	補修・改修の必要な遊歩道・看板があるため、随時創造委員会と検討し、補修・改修を行う。
第4期	元旦登山を開催し、多くの方に参加して頂けるように工夫する。	1月1日に元旦登山を開催し、約400人が参加した。また、3月にはオオムラサキ保護施設の網の取り付け。 3月に小泉山体験の森活動パネル展の開催	オオムラサキ保護について、今後も創造委員会内で検討を重ね、「小泉山がオオムラサキの舞う山」になるように工夫していく。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	整備開始から10年以上経過し、設置された看板や整備された施設等に老朽化がみられるようになった。そのため、それらの老朽化したものの補修や取替えを行っていく必要が出ている。 また、開催している各種イベントの内容がマンネリ化しない工夫も必要となっている。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	06010105															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	自然を活かした整備・活用を行っているため、時間の経過とともに、荒廃化や、木製案内板・自然木を活用した遊歩道などが老朽化している。 そのため、市民や周辺住民で組織する委員会と協力し、自分たちで実施可能な作業は積極的に実施していくなど、低コストの整備活動を目指す。	子どもたちに自然体験ができる場を創ることでスタートした本事業は、活用の段階に入っている。周辺小学校が授業の一環で老朽化した施設の補修を市民で組織する「小泉山体験の森創造委員会」と一緒に行うなど、新たな体験活動の場としての成果も挙げている。 なお、市のほぼ中心に位置し、街の近い身近な里山ということで、周辺の学校でも活用していただけており、開催するイベントにも多くの参加者が訪れることから市民ニーズは高いと考える。								
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 ( A C T I O N )	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	市民や周辺住民で組織する委員会と協力し、自分たちで実施可能な作業は積極的に実施していく。	自然を活かした整備・活用を行っているため、時間の経過とともに、荒廃化や木製案内板、自然木を活用した遊歩道などに老朽化が発生しています。 そのため、市民や周辺住民で設置する委員会と協力し、自分たちで実施可能な作業は積極的に実施していくなど、低コストの整備活動を目指す。								
今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	多留姫文学自然の里整備活用事業			事業期間	平成 16 ~	年度	整理番号	07010105
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	作成担当者名	両 角 悠		連絡先	633

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む								
				施策	06	第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供								
				細施策	01	市民の生涯学習活動と市民参画参加型社会の充実								
				事務事業	03	多留姫文学自然の里整備活用事業								
	予算事業名				会計コード	001	款	10	項	05	目	01	事業	12
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	パートナーシップの手法により、事業を展開し、地域の教育力を高め、生涯学習とまちづくりさらに市民力の向上を図る。 ・多留姫文学自然の里整備事業…「名勝」として茅野市文化財に指定されている「多留姫の里」周辺には、多留姫神社の他、歌碑等文学的遺産が多数存在する他、かつては「藤」の名所であった場所である。この景観と遺産を保全し、市民の憩いの場、自然体験の場を創造していく。												
	現状と背景 （どうして）	経済のグローバル化が進み少子高齢化社会を迎える現代、地域の次世代を担う子どもを心豊かに育てるため、自然体験の場、市民憩いの場を提供することの必要性が出てきた。												
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	乳幼児・幼保小中高生・一般市民の他、観光名所として茅野市を来訪する観光者											
		対象 （直接働きかける）	同上											
		意図 （どんな状態にしたいか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多留姫文学自然の里を祖父母や親子など世代間交流の触れ合いの場や、地域の人たちとのふれあいの場にするために補助を行う。</li> <li>・各種イベントを開催し、活用機会を増やす。</li> </ul>											
	手段・方法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多留姫文学自然の里創造委員会」を地元三区（中沢・御作田・田道）で組織する。</li> <li>・事務局は茅野市教育委員会生涯学習課生涯学習係</li> </ul>												
N （ ）	活動指標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		創造委員会開催	開催件数	回	年間計画による開催				3					
	成果 指 標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		里まつりへの参加者数	参加者	人	里まつり参加者				300					

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単 位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	697,689	228,989	481,321
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
職 員 数	一般財源	円	697,689	228,989	481,321	469,374	472,000
	正規職員	人	0.55	0.50	0.50	0.50	
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.55	0.50	0.50	0.50	
延 利 用 （ 者 ） 数 （ b ）	対象（者）数						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
	市民一人当たりのコスト	円	12.00	4.00	9.00	8.00	8.00
活 動 指 標	開催件数	目標	3	3	3	3	
		実績	3	3	3	3	
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-
	-	目標	-	-	-	-	-
実績		-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-	
成 果 指 標	参加者	目標	300	300	300	300	300
		実績	100	110	120	150	150
	達成率	%	33.33	36.67	40.00	50.00	50.00
	-	目標	-	-	-	-	-
実績		-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-	
備 考							

事務事業名	多留姫文学自然の里整備活用事業	事業期間	平成 16 ~	年度	整理番号	07010105
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	作成担当者名	両 角 悠	連絡先
						633

期	目 標	実 績	課 題
第1期	創造委員会を開催し、平成27年度の活動計画について検討する。また、田植まつりを開催し、多くの方に伝統的なもち米づくりを体験していただく。	4月13日に創造委員会を開催し、平成27年度の活動計画について検討した。5月23日に田植えまつりを開催し約 人が参加した。6月6日の稲虫まつり、里まつりを開催し、約 人が参加しました。	多くの方にイベントに興味、関心を持っていただけるように広報を工夫し参加者の増加につなげる。
第2期	大泉山山腹の遊歩道の危険個所の整備。9月の創造委員会を開催し、秋のイベントについて創造委員会内容等の検討を行う。	9月15日に創造委員会を開催し、秋のイベントについて検討をおこなった。9月26日(土)神田において機械を使わない収穫祭を行った。	多くの方にイベントに興味、関心を持っていただけるように広報を工夫し参加者の増加につなげる。
第3期	脱穀まつり、餅つき大会の開催し機械を使わない、農業体験を行う。また、文学碑を訪ねる会を開催し多くの人に多留姫文学自然の里の良さを感じていただき機会にする。創造委員会を開催し27年度の活動報告及び28年度の活動計画を検討する。	9月26日に収穫祭、10月10日に脱穀まつり、10月17日に文学碑を訪ねる会、11月15日に餅つき大会を開催した。10月4日及び11月1日に玉川・豊平地区の文化祭等でPR用のパネル展示をおこなった。12月1日市長への提言会の開催。	どのイベントにおいても、地元の方だけでなく、市内他地域・市外からの参加者も多くなってきているが、より多くの方に参加していただけるように工夫していく。
第4期	市長への提言会の開催と、平成27年度の事業計画の検証と28年度事業の検討 多留姫文学祭とパネル展の事業の検討	2月22日から3月4日まで多留姫文学祭・パネル展の開催 28年度の事業計画案の検討を行った。	多留姫文学自然の里に興味・関心を持っていただけるように工夫する。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	多留姫文学自然の里創造委員会は、「パートナーシップのまちづくり基本条例」のモデルケースである。平成16年度に委員会が発足し、平成17年度から整備が開始され平成21年度をもってその大部分を完了している。整備事業と併せ、現地の利用促進を図るため、各種イベントを開催している。現状で負担金等の廃止・減額があった場合、イベントの継続は困難であり、周辺環境の荒廃も懸念される。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	06010109															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	多留姫文学自然の里創造委員会を組織する3つの部会「文学碑調査・イベント部会」「施設・環境整備部会」「多留姫神田部会」が、事業の計画立案において、主体的な機能を担い連携できるよう、委員会の運営方法を検討していきたい。	多留姫文学自然の里創造委員会は、「パートナーシップのまちづくり基本条例」のモデルケースである。平成16年度に委員会が発足し、平成17年度から整備が開始され平成21年度をもってその大部分を完了している。整備事業と併せ、現地の利用促進を図るため、各種イベントを開催している。現状で負担金等の廃止・減額があった場合、イベントの継続は困難であり、周辺環境の荒廃も懸念される。								
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	各々整備が完了し、委員会の活動・経費とも中心はイベント開催にシフトしている。ただし、安全対策や経年劣化に伴う修繕費などが、各年必要である。平成24年度はイベント事業の他、遊歩道の危険個所について対策を検討していく。	各々整備が完了するため、事業総額は縮小した。ただし、安全対策や経年劣化に伴う修繕費などが、各年必要である。平成22年度にパンフレットの改定版を製作する。平成23年度には事業実施地の歴史・環境等をまとめた解説本を刊行した。								

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	ファミリー演劇鑑賞事業	事業期間	平成 12 ~ 年度	整理番号	07010203
担当部署	生涯学習課	作成担当者名	矢 沢 し ほ り	連絡先	632

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政 策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む 施 策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供 細 施 策 01 市民の生涯学習活動と市民参画参加型社会の充実 事務事業 04 ファミリー演劇鑑賞事業		
	予算事業名	ファミリー演劇鑑賞事業		会計コード 001 款 10 項 05 目 01 事業 07		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	優れた演劇の鑑賞を通して、親子の絆を強めると共に知識や教養を深め、情操豊かな市民（特に児童・青少年）を育成するため、市民の方々と実行委員会を組織し、ファミリー演劇鑑賞事業を実施する。				
	現状と背景 （どうして）	茅野市内で優良な演劇を鑑賞する機会が少ない。 市民の文化芸術の意識を高めたい。				
目 的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受 益 者 （誰のために）	市内の幼稚園・保育園の園児、小中学校・高校の児童・生徒、及びその親と市民全般（特に児童・青少年）				
	対 象 （直接働きかける）	(1) 市内の幼稚園・保育園の園児、小中学校・高校の児童・生徒及びその家族 (2) 市民全般（特に児童・青少年）				
手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	意 図	より多くの方に優れた芸術を鑑賞してもらい、生きる勇気や希望、心豊かな人間性を身につける。 優良な演劇の鑑賞を通して、親子の絆を深める。				
	手段・方法	(1) 市民による実行委員会を立ち上げ、パートナーシップの手法で運営する。 (2) 実行委員会が上映作品の選定を行い、茅野市民館で公演する。 事前に学校を通じてチラシを配布するほか、広報誌、ホームページ等で周知。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		鑑賞会の宣伝	鑑賞会チラシ配布数	枚	保育園～中学校までの全児童・生徒の人数 （平均値）	7,500
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		鑑賞会参加	鑑賞会参加者数	人	茅野市民館の収容人数560人	560

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）		
事業費等 (a)	円	550,000	1,150,000	950,000	950,000	750,000		
財源内訳								
国庫支出金	円							
県支出金	円							
地方債	円							
その他特定財源	円							
一般財源	円	550,000	1,150,000	950,000	950,000	750,000		
職員数	人	0.20	0.20	0.20	0.20			
正規職員	人							
嘱託職員	人							
臨時職員	人							
合計	人	0.20	0.20	0.20	0.20			
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	10.00	21.00	17.00	17.00	13.00		
D O （ ）	活動指標	鑑賞会チラシ配布数	目標	枚	7,500	7,500	7,500	7,500
			実績	枚	7,500	7,500	7,500	7,500
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	—	
	—	目標	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	
	達成率	%	—	—	—	—	—	
成果指標	鑑賞会参加者数	目標	人	560	560	560	560	
		実績	人	411	487	379	344	
	達成率	%	73.39	86.96	67.68	61.43	71.43	
	—	目標	—	—	—	—	—	
実績	—	—	—	—	—	—		
達成率	%	—	—	—	—	—		
備考								

事務事業名	ファミリー演劇鑑賞事業	事業期間	平成 12 ~	年度	整理番号	07010203	
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	矢沢 しほり	連絡先	632

期	目 標	実 績	課 題
第1期	4月上旬実行委員会を開催しPR方法の検討をする。 こどもまつりでのPR方法を検討する	全小学校のPTA総会でのPR 幼稚園・保育園。小中高等学校へチラシとポスターを配布 6月日こどもまつりでのPR ・風船づくり 折り紙での手裏剣づくりをとおしてPR	より多くの方に鑑賞してもらえるようPRを工夫する。
第2期	6月～7月実行委員会を開催し役割分担を決定。 7月5日演劇鑑賞会の実施	7月5日(日) ぼくはにんじやのあやし丸(劇団うりんこ)公演を実施。 鑑賞アンケートの実施。	鑑賞人数が減少傾向にある。 実行委員会への出席率が低下している。
第3期	実行委員会を開催しまとめと反省を行う。 次年度の役員の選出 決算報告	9月28日、10月19日実行委員会を開催し、会計報告、アンケート結果報告、次年度役員選出、次年度演目の検討を行った。	今年度の反省とまとめを来年度の公演に活かすよう演目の選定、PR方法を検討する。
第4期	実行委員会を開催し、次年度の公演の準備を行う。	2月26日実行委員会を開催し、次年度の役員体制、予算、演目、PR方法について検討を行った。 29年度以降のあり方について市長と懇談を行う方向で決定。	28年度はより多くの方に鑑賞してもらえるよう、PR方法を検討する。(ホームページの充実、ちーぽフェイスブック、どんぐり通信の活用)

事 中 評 価																	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 当初10年間は継続するというで始まった事業であるため、今までの成果を検証し今後のあり方を検討する必要がある。	今 成 果 の 方 向 性 後 の 方 向 性																
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	<table border="1"> <tr> <td>拡 充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現 状 維 持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮 小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休 廃 止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡 充	②	⑤	⑦	現 状 維 持	③	⑥	⑨	縮 小	④	⑧	⑩	休 廃 止	①		
拡 充	②	⑤	⑦														
現 状 維 持	③	⑥	⑨														
縮 小	④	⑧	⑩														
休 廃 止	①																
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性																

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
現在の実行委員会形式での開催が難しくなっている。10年間の成果と問題点を検証し、今後のあり方演目、日程などさらに参加者ニーズの把握が必要である。					4					4					4					4	A
記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要																					
	前年度総合評価判定																				A
	前年度評価シート整理番号																				07010206

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	現状では、市内で「親子でチケットを購入して劇場に出かける場」としてこの事業に変わるものがない。地域の文化振興のためにも必要な事業である一方、実行委員会の衰退、鑑賞者の減少等課題も生じている。 鑑賞するターゲットを絞り、それにあった演目を選定するなど、魅力ある事業として継続していかれるよう実行委員会のあり方とともに検討していく必要がある。	1日1公演とし、市民参加型にすることで多くの市民に鑑賞してもらうことができた。 PR活動をして、多くの市民がこの事業を知るようになった。会場アンケートでは、この活動が有効であることがわかった。								
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後								
	成果の方向性	拡 充	②	⑤	⑦	現 状 維 持	③	⑥	⑨	縮 小	④	⑧	⑩	休 廃 止
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性								

改 革 ・ 改 善 策	改 革 ・ 改 善 策
休日家族で演劇に行くには参加者の意識がまだ希薄と考えられ、市が関与し、安価で優良な演劇を提供する場が必要である。 演目を市民ニーズに合わせたものにし、さらに話題性のあるものに変えていくことで、芸術に関心のない市民にも市民館に足を運んでもらえるようにする。	休日家族で観劇に行くには参加者の意識がまだ希薄と考えられ、市が関与し、安価で優良な演劇を提供する場が必要である。 演目をより市民ニーズに合わせたものにし、さらに話題性のあるものに変えていくことで、市民館に足を運んでもらう。

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	どんぐりネットワーク茅野活動支援事業	事業期間	平成 15 ~ 年度	整理番号	06010111
担当部署	こども部	作成担当者名	今井明彦	連絡先	312

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む			
				施策 06 第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供			
				細施策 02 子どもと家庭を応援する組織の充実とネットワークの強化			
				事務事業 02 どんぐりネットワーク茅野支援事業			
予算事業名	どんぐりネットワーク茅野活動支援事業費			会計コード 001 款 10 項 05 目 10 事業 09			
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市内の子育て・子育てに関わる活動団体等を結んだ「茅野市こども・家庭応援計画推進ネットワーク委員会（通称：どんぐりネットワーク茅野）」と行政は、パートナーシップのまちづくりの手法により、子どもが生まれる前から18歳になるまでを一貫して応援する「こども家庭応援計画（愛称：どんぐりプラン）」を推進している。行政とともにこの計画の推進を行っている「どんぐりネットワーク茅野」の活動費を支援する。						
現状と背景 （どうして）	どんぐりプランは、市民と行政が一体となって推進している。「どんぐりネットワーク茅野」では、団体間の情報交換や交流の場の設定、子育て情報、子育てに関わる事例の収集や広報等を通じて、各団体がより活発に活動できることを目指して活動している。						
対 象 （ 直 接 動 き か け る ）	受益者 （ 誰 の た め に ）	市内の子どもとその家庭					
	対象 （ 直 接 動 き か け る ）	どんぐりネットワーク茅野					
意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	どんぐりプランの啓発・情報誌の発行・HPの更新管理・こども館の運営応援などを通して、一人ひとりの子どもが「たくましく・やさしく・夢のある」子どもに育ち、家庭では安心して子育てができるようにする。						
手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	手段・方法	どんぐりネットワーク茅野	補助金総額	1,200,000円			
	手段・方法	前年度の活動内容と次年度の事業計画により額を決定。任意の市民団体が経費は全額市費負担。 ・どんぐりプランの普及・啓発 ・関係情報の一元化と情報誌・ホームページによる提供 ・地区こども館の運営支援 ・子育てに関する市民活動の応援					
評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		情報部会の開催	開催回数	回	情報収集と編集会議	6	
	成果指標	成果・効果は何？	幹事会の開催	開催回数	回	どんぐりプランの推進と評価	4
			子育て・子育て情報による応援	HPの更新回数	回	講座・相談等の最新情報を週1回ペースで更新	50

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)	円	1,500,000	1,500,000	1,300,000	1,200,000	1,000,000
財 源 内 訳	国庫支出金	円				
	県支出金	円				
	地方債	円				
	その他特定財源	円				
一般財源	円	1,500,000	1,500,000	1,300,000	1,200,000	1,000,000
職 員 数	正規職員	人	0.40	0.30	0.30	
	嘱託職員	人				
	臨時職員	人				
	合 計	人	0.40	0.30	0.30	
対象（者）数						
延利用（者）数 (b)						
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	27.00	27.00	23.00	22.00	18.00
活 動 指 標	開催回数	目標	回	6	6	6
		実績	回	4	4	2
	達成率	%	66.67	66.67	66.67	33.33
	開催回数	目標	回	4	4	4
実績		回	4	5	4	
達成率	%	100.00	125.00	75.00	100.00	
-	目標	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	
成 果 指 標	HPの更新回数	目標	回	50	50	50
		実績	回	48	48	48
	達成率	%	96.00	96.00	96.00	96.00
	-	目標	-	-	-	-
実績		-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	
備考						

事務事業名	どんぐりネットワーク茅野活動支援事業	事業期間	平成 15 ~	年度	整理番号	06010111
担当部署	子ども部	子ども課	子ども係	作成担当者名	今井明彦	連絡先
						312

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・負担金の支払 ・第1回正副代表幹事会 ・第1回幹事会 ・第1回情報部会	・負担金の支払 ・第1・2回正副代表幹事会(4/30・6/11) ・第1回幹事会・部会(5/14) ・第1回情報部会(6/5)	地区子ども館の運営見直し、ファミリーサポート新規事業の実施及び子ども会議の開催等に向けて、どんぐりネットワークとの協働により検討を進める。
第2期	・第3回正副代表幹事会 ・第2回幹事会 ・第2回情報部会	・第2回幹事会(7/2) ・第3回正副代表幹事会(9/18)	地区子ども館の運営見直し、ファミリーサポート新規事業の実施及び子ども会議の開催等に向けて、どんぐりネットワークとの協働により検討を進める。
第3期	・第4回正副代表幹事会 ・第3・4回幹事会 ・第2回情報部会 ・どんぐりプラン推進のつどい	・第4回正副代表幹事会(11/20)・第3・4回幹事会(10/5・12/11)・第2回情報部会(10/9) ・第8回茅野市子ども会議&どんぐりプラン推進のつどい2015(11/29)	地区子ども館の運営見直し、ファミリーサポート新規事業の実施及び子ども会議の開催等に向けて、どんぐりネットワークとの協働により検討を進める。
第4期	・地区子ども館関係者会議 ・第5回正副代表幹事会	・地区子ども館関係者会議(1/26) ・第5回正副代表幹事会(3/24)	引き続き、どんぐりネットワークとの協働によりプランの推進に向けた検討を行う。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 特になし	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) ネットワークの予算は、情報部会における予算執行率が高い。事業の見直しをすることで、負担金の予算要求額を見直す。	② レ ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					レ 3					4	B
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが生まれる前から18歳になるまでを一貫して応援する「子ども家庭応援計画(どんぐりプラン)」を推進している「どんぐりネットワーク茅野」の活動を支援している。今後も、「どんぐりネットワーク茅野」と行政が協働して、子ども・家庭への支援及び応援施策を進めていく必要がある。</li> <li>活動状況</li> <li>どんぐり通信マンスリーの発行(毎月1日発行) ・どんぐり通信ホームページの更新(随時)</li> <li>どんぐりサークル通信の発行(年1回発行) ・どんぐりだよりの発行(年1回発行)</li> <li>0123広場運営委員会、中高生広場サポート委員会への協力</li> <li>子どもまつり、茅野どんぱんなどへの協力</li> </ul>															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	B															
前年度評価シート整理番号	06010210															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	「どんぐりネットワーク茅野」によるホームページや情報誌による子育て・子育てに関する情報提供は、子育て家庭への大きな支援となっているため、今後も必要な補助金交付を行うことにより継続した支援をしていく必要があるが、情報提供の仕方を見直す事で、コスト削減を目指す。	「どんぐりネットワーク茅野」発信によるホームページや情報誌による子育て・子育てに関する情報提供は、子育て家庭への大きな支援となっているため、今後も必要な補助金交付を行うことにより継続した支援をしていく必要があるが、情報提供の仕方や内容を見直すことで、より効果的な事業の実施を目指す。								
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	レ	⑤	⑦	レ		
方向性	現 状 維 持		③		⑥	⑨				
性	縮 小		④		⑧	⑩				
	休 廃 止	①								
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	「どんぐりネットワーク茅野」の幹事会と専門部会の定期的な開催や、市民への適切な情報提供、どんぐりプラン推進のつどい開催等により、どんぐりプランの推進を担っていただく。					「どんぐりネットワーク茅野」の幹事会と専門部会の定期的な開催や地区子ども館運営委員会、地区子育て部会等との会議の開催、市民への適切な情報提供、どんぐりプラン推進のつどい開催等により、どんぐりプランの推進を担っていただく。				

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	子ども課長	両角勝元
---------	------------	---------	-------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	どんぐりプラン推進事業			事業期間	平成 24 ~ 年度	整理番号	06010102
担当部署	教育委員会	こども部	こども課	作成担当者名	今井明彦	連絡先	312
計	市民プランにおける位置づけ	有	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
			施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供		
			細施策	02	子どもと家庭を応援する組織の充実とネットワークの強化		
			事務事業	—			
画	予算事業名	どんぐりプラン推進事業費			会計コード	001	款 10 項 05 目 10 事業 03
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	「たくましく、やさしい、夢のある子ども」を基本理念とする「第2次どんぐりプラン(平成22年度～平成29年度までの8カ年計画)」の推進を図る。					
	現状と背景 (どうして)	「学ぶ」「支える」「つなぐ」「親育ち」を柱とする第2次どんぐりプランに基づき、各施策が進められている。今後は各施策の進捗状況を把握し進行管理をしていくことが必要となっている。					
	目的	受益者 (誰のために)	子どもとその家庭				
	対象 (直接働きかける)	市民					
	意図 (どんな状態にしたいか)	一人ひとりの子どもが「たくましく・やさしく・夢のある」子どもに育ち、家庭では安心して子育てができるよう、市民へ広く認識してもらい、市全体で子どもを育てる環境を構築する。					
A	手段・方法 (どうやって)	・子ども・家庭応援会議において、どんぐりプラン推進の進捗状況の把握と評価を行う。 ・どんぐりネットワーク茅野の協力のもと、各地区の子育て部会や地区こども館運営委員会等と連携し、第2次どんぐりプランの進捗状況の把握を行う。					
	N	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何?	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標			子ども・家庭応援会議の開催	子ども家庭応援会議開催回数	回	子ども・家庭応援会議の開催による進捗状況の把握・検証	2
		どんぐりネットワーク茅野幹事会の開催	幹事会開催回数	回	幹事会の開催によるプラン推進	3	
成果指標		成果・効果は何?	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		プラン推進の進捗状況の把握と評価	進行管理				

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算又は決算額)	平成28年度事業計画(予算)	
実	事業費等(a)	円	36,510	244,354	138,000	90,056	195,000	
	財源内訳	国庫支出金	円					
		県支出金	円					
		地方債	円					
		その他特定財源	円					
	職員数	人	0.42	0.42	0.42	0.20		
	D	活動指標	対象(者)数					
			延利用(者)数(b)					
		状況	単位コスト(a)/(b)	円	—	—	—	—
			受益者負担額	円				
O		成果指標	市民一人当たりのコスト	円	1.00	4.00	2.00	2.00
			子ども家庭応援会議開催回数	回	1	2	2	2
O		成果指標	幹事会開催回数	回	3	6	3	3
			進行管理	回	3	3	3	3
O		成果指標	達成率	%	100.00	50.00	100.00	50.00
			達成率	%	100.00	50.00	100.00	100.00
O	成果指標	達成率	%	—	—	—	—	
		達成率	%	—	—	—	—	
O	成果指標	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
O	成果指標	達成率	%	—	—	—	—	
		達成率	%	—	—	—	—	
備考	H27年度から活動指標を中間見直し専門委員会の開催からどんぐりネットワーク茅野幹事会の開催に変更 H27年度からプラン後期計画の策定を削除(後期計画が策定されたため)							

事務事業名	どんぐりプラン推進事業	事業期間	平成 24 ~	年度	整理番号	06010102
担当部署	教育委員会 子ども部 子ども課	作成担当者名	今井明彦	連絡先	312	

期	目標	実績	課題
第1期	地区子ども館のあり方検討と併せ、どんぐりプランの推進に向けどんぐりネットワーク茅野幹事会と検討する。	・4/30正副代表幹事会の開催 ・5/14幹事会の開催 ・6/11正副代表幹事会の開催	担当係長が5月から不在(療養休暇)となり、検討が停滞している。
第2期	地区子ども館のあり方検討と併せ、どんぐりプランの推進に向けた方策をどんぐりネットワーク茅野幹事会と検討する。	地区子ども館の利用者向けのアンケート調査表を作成し、その中にどんぐりプランの概要を周知する準備を実施した。	停滞しているどんぐりプランの推進をスピードアップしたい。
第3期	地区子ども館のあり方検討と併せ、どんぐりプランの推進に向けた方策をどんぐりネットワーク茅野幹事会と検討する。	9月にアンケート調査を実施する準備をしたが、各地区から意見が多数あり、実施を見送っている。	地区子ども館の見直し作業が字量クラブとの関連もあり、地区子ども館の設置目的をパートナーシップの手法より利用者が理解した上で検討することが求められているため、プランの推進が停滞している。
第4期	地区子ども館のあり方検討と併せ、どんぐりプランの推進に向けた方策をどんぐりネットワーク茅野幹事会と検討する。	1月26日に開催した地区子ども館関係者会議において、各地区からの検討結果が報告された。その中で、プランの推進が図られていないことが確認できた。	第3次のプラン策定に備え、現計画の進捗・浸透状況を的確に把握する必要がある。

事中評価																																																																									
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果</td> <td>拡</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の</td> <td>充</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>方</td> <td>現</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>向</td> <td>状</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td>性</td> <td>維</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>性</td> <td></td> <td>持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>縮</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>小</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>休</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>廃</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今	成果	拡	②	⑤	⑦	後	の	充				の	方	現	③	⑥	⑨	方	向	状				向	性	維	④	⑧	⑩	性		持						縮						小						休	①					廃						止									
今	成果	拡	②	⑤	⑦																																																																				
後	の	充																																																																							
の	方	現	③	⑥	⑨																																																																				
方	向	状																																																																							
向	性	維	④	⑧	⑩																																																																				
性		持																																																																							
		縮																																																																							
		小																																																																							
		休	①																																																																						
		廃																																																																							
		止																																																																							
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性																																																																								

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					3					4	B
チェック																
課題	地区子ども館の開館時間の変更について地域の皆さんと検討をしたが、そもそもどんぐりプランというのが市民に理解されていない現状が浮き彫りになった。第2次どんぐりプラン後期計画を確実に実施することを目標に、どんぐりネットワーク茅野との連携により、現プランの推進状況を的確に検証する必要がある。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	06010102															

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	どんぐりネットワーク茅野との連携を強化し、どんぐりプランの周知を地域に対して行い、第2次どんぐりプラン後期計画を確実に進め、子どもとその家庭への支援及び応援をより充実することが必要である。						どんぐりネットワーク茅野との連携を強化し、どんぐりプランの周知を地域に対して行い、第2次どんぐりプラン後期計画を確実に進め、子どもとその家庭への支援及び応援をより充実することが必要である。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性(ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後																																																																																																																												
	第2次茅野市子ども・家庭応援計画 どんぐりプランの4つの施策目標に基づき、平成29年度までの後期に取り組む施策を明確にした後期計画が策定された。この後期計画を確実に実施する。						第2次茅野市子ども・家庭応援計画 どんぐりプランの4つの施策目標に基づき、平成29年度までの後期に取り組む施策を明確にした後期計画が策定された。この後期計画を確実に実施する。 ※子ども係は業務量に対し職員が不足しており、通年超過勤務をする状態が続いている。正規職員増員が必要と考える。																																																																																																																											
今後の方向性	<table border="1"> <tr> <td>成果</td> <td>拡</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>充</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>現</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>向</td> <td>状</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>性</td> <td>維</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td></td> <td>持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>縮</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>小</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>休</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>廃</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					成果	拡	②	⑤	⑦	の	充				方	現	③	⑥	⑨	向	状				性	維	④	⑧	⑩		持					縮					小					休	①				廃					止									<table border="1"> <tr> <td>成果</td> <td>拡</td> <td></td> <td></td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>充</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>現</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td>状</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>性</td> <td>維</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>縮</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>小</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>休</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>廃</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					成果	拡			レ	の	充				方	現				向	状				性	維					持					縮					小					休					廃					止								
成果	拡	②	⑤	⑦																																																																																																																														
の	充																																																																																																																																	
方	現	③	⑥	⑨																																																																																																																														
向	状																																																																																																																																	
性	維	④	⑧	⑩																																																																																																																														
	持																																																																																																																																	
	縮																																																																																																																																	
	小																																																																																																																																	
	休	①																																																																																																																																
	廃																																																																																																																																	
	止																																																																																																																																	
成果	拡			レ																																																																																																																														
の	充																																																																																																																																	
方	現																																																																																																																																	
向	状																																																																																																																																	
性	維																																																																																																																																	
	持																																																																																																																																	
	縮																																																																																																																																	
	小																																																																																																																																	
	休																																																																																																																																	
	廃																																																																																																																																	
	止																																																																																																																																	

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	子ども課長	両角勝元
---------	------------	---------	-------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	家庭教育センター施設管理運営事業	事業期間	平成 7 ~ 年度	整理番号	07010402
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	作成担当者名	両 角 香 代	連絡先	73-0888

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む 施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供 細施策 02 子どもと家庭を応援する組織の充実とネットワークの強化 事務事業 06 親子の居場所充実事業		
	予算事業名	家庭教育センター施設管理費		会計コード 001 款 10 項 05 目 04 事業 03		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市民の身近な生涯学習の場として、多くの市民が利用できるよう快適な環境を提供するよう維持管理、設備の保守点検、清掃に努める。 自分自身の生き方や生活のあり方、家族のあり方、働き方、コミュニティのあり方など個人、家族、職場、地域社会等すべての方々の生涯にわたっての活動の拠点の施設とし、講座、情報提供をする。				
	現状と背景 （どうして）	平成7年建築後の老朽化が目立つようになってきている。 施設を使用する社会教育登録団体、サークル数は増えているが、家庭教育センター施設をいろいろな活動で利用できることを知らない市民もいる。				
目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	受益者 茅野市家庭教育センター利用者				
	対象 （直接働きかける）	茅野市家庭教育センター利用者				
手段・方法 （どうやって）	意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの方が、家庭教育センターを快適な環境のもとで利用する。</li> <li>利用者の年齢層、活動が広がる。</li> <li>茅野市環境方針のもと、環境への負荷の少ない施設を目指す。</li> </ul>				
	方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員による、朝、夕方の施設点検見回りを毎日実施する。</li> <li>効果的な早期改善の補修等を行い施設の延命化を図る。</li> <li>施設管理業務を業者へ委託する。 自動扉装置保守・エレベーター保守点検・火災報知機等保守・防火対象物定期点検等</li> <li>家庭教育センターの利用案内・周知をホームページ及び公民館利用者説明会の中で行う。</li> <li>施設利用者に省エネルギーを呼びかける。</li> </ul>				
状況 （ D O ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		施設使用について説明する	説明回数	回	公民館利用者説明会説明回数	4
		利用について案内する	周知数	回	周知数	2
	成果指標	施設維持のための業務委託	委託数	件	委託内容の充実及び内容の確認	8
		成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		利用者の活動を広げる。	利用者数	人	家庭教育センターの年間利用者数	44,000
使いやすく、清潔で安全な施設	苦情非発生率	%	$(365 - \text{苦情発生日数} / 365日) \times 100$	100		

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）
事業費等 (a)	円	5,928,651	5,749,716	5,472,781	3,388,395	3,283,000
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円	97,270	130,970	110,840	101,620	120,000
一般財源	円	5,831,381	5,618,746	5,361,941	3,286,775	3,163,000
職員数	人					
正規職員	人	0.25	0.22	0.25	0.25	
嘱託職員	人					
臨時職員	人					
合計	人	0.25	0.22	0.25	0.25	
対象（者）数						
延利用（者）数 (b)						
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	106.00	103.00	98.00	61.00	59.00
活動指標	説明回数	目標	4	4	4	4
		実績	4	4	4	5
	達成率	100.00	100.00	100.00	125.00	-
	周知数	目標	2	2	2	2
		実績	2	2	2	2
	達成率	100.00	100.00	100.00	100.00	-
委託数	目標	8	8	8	7	
	実績	8	8	8	7	
達成率	100.00	100.00	100.00	100.00	-	
成果指標	利用者数	目標	44,000	44,000	45,000	45,000
		実績	46,390	49,837	45,704	47,493
	達成率	105.43	113.27	101.56	105.54	
	1,000.00	1,000.00	100	100		
苦情非発生率	目標	100	100	100	100	
	実績	95	96	97	98	
達成率	95.00	96.00	97.00	98.00		
備考						

事務事業名	家庭教育センター施設管理運営事業	事業期間	平成 7 ~	年度	整理番号	07010402
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	家庭教育センター	作成担当者名	両角香代	連絡先	73-0888

期	目 標	実 績	課 題
第1期	施設の丁寧な利用、省エネルギーを呼びかける。	電気・水道等省エネルギーを呼びかける掲示をする。	どんぐりメイトを通じて、子どもたちに地区こども館を丁寧に利用してもらうように呼びかけていく。
第2期	暑い季節に向けて、節電・節約に心がける。	利用者に節電・冷房の設定温度の注意等の呼びかけを行った。 ピアノ補修・空調設備室外機補修の緊急修理を行った。	暑さ対策のためにカーテンを閉めてもらう等利用者への呼びかけに成果があり、冷房の経費が減少した前年度とほぼ同じとなった。
第3期	寒い季節に向けて、暖房の使用等に注意する。	利用者に暖房の設定温度の注意等の呼びかけを行った。 第1会議室東側雨漏り補修、自動ドア破損箇所補修の緊急修理を行った。	冬期に向けて、見回り等で気をつけ、異常の早期発見に努めていく。
第4期	冬期の水道凍結、除雪等適正な施設管理に心がける。	公民館利用者説明会で、施設利用についての説明をお願いをした。 破損があり、男子トイレ部品交換、2階会議室間仕切り調整、ストーブ補修の緊急修理を行った。	利用者には、引き続きルールを守りながら利用することをお願いしていく。 2階会議室パーティション修理、FFストーブオーバーオール、2階屋根雨漏り修理、裏側外壁修理を行った。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 2階会議室の間仕切り調整補修を定期的に行っているが、間仕切り開閉、机・いす等の移動の際に間仕切り及び壁を破損してしまうことが多く、丁寧に利用してもらうように呼びかけていく必要がある。利用者には、引き続きルールを守りながら利用することをお願いしていく。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 効果的な早期改善の補修等を行いたいが、経費が問題となる。経年劣化で交換が必要なものから順に予算要求を行っていく。	①
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成7年建築以後老朽化が進んでいるので、限られた予算の中で効果的な早期改善の補修等を行い、施設の延命化を図り、利用者の方に快適な環境の提供をしていくことが必要である。</li> <li>計画性のある修繕・改修により、公共施設の長寿命化と財政負担の軽減を図る必要がある。</li> <li>職員はこれからも、親切で、気持ちの良い対応をすることに務める。</li> <li>利用者の中には、使用上の注意を守れない方も出てきている。社会教育関係団体の方が多く、自分達は、地域のリーダーとしての役目もあることを認識してもらい、ルールを守りながら利用することの指導も必要となってきている。</li> <li>希望した日時に会場が取れないことがあるが、会場の予約方法について丁寧に説明し、会場利用にあたっては、当施設及び市の事業が優先になることをご理解いただくよう定期的にお願いしていく必要がある。</li> <li>施設の老朽化に伴い、現状維持するための経費が増えることが予想される。</li> <li>策定予定の公共施設等総合管理計画の中でこの施設の方向性の検討が必要となる。</li> </ul>															
記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	07010401															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充				
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ		
方向性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小					
方向性	休 廃 止	①				休 廃 止					
前年度改革・改善策の実施状況		一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充				
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ		
方向性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小					
方向性	休 廃 止	①				休 廃 止					
前年度改革・改善策の実施状況		一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				
改革・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化に対し、早期改善の補修等を行うために危険箇所、備品等をチェックを定期的に行う。</li> <li>利用者の施設使用についての意識改革を引き続き行い、気になることは声をかけてお願いしたり、張り紙等で周知していく。</li> <li>応対時での確認事項について、職員が定期的に話し合い、窓口でのトラブルを少なくするように努める。</li> </ul>										
改革・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化に対し、早期改善の補修等を行うために危険箇所、備品等をチェックを定期的に行う。</li> <li>利用者の施設使用についての意識改革を引き続き行い、気になることは声をかけてお願いしたり、張り紙等で周知していく。</li> <li>応対時での確認事項について、職員が定期的に話し合い、窓口でのトラブルを少なくするように努める。</li> </ul>										

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小島吉彦
---------	------------	---------	--------	------

平成27年度事務事業評価シート（施設整備等事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	保育所維持管理事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	06020101
担当部署	こども部	作成担当者名	松 沢 勝	連絡先	625

計	市民プランにおける位置づけ	有	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	03	保育所の充実
			事務事業	01	施設維持管理運営事業

予 算 事 業 名	会計コード	001	款	03	項	02	目	02	事業	07
-----------	-------	-----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
 ・ 保育所の老朽に伴う補修・改修を実施する。保育所における安全性の確保。  
 ・ 在園児や未就園児が健やかに安全に生活ができ、保育ができるための環境整備。改修や増築等を実施する。  
 ・ 保育園建設計画に基づき保育園の建設を進めていますが、新しい、建設計画の策定と保育園の建て替えまでに修理・改修が必要な箇所に入ることにより良好な状態で既存の保育園を使用していく。

現状と背景（どうして）  
 ・ 園の老朽化により、園児にとって危険な状態のものは、改善していかなければならない。  
 ・ 保護者も安心して保育園に預けたいという希望があるので、危険と思われるものは改善していく。保護者が安心して預けられることで市民サービスの向上にもつながる。

目的  
 受益者（誰のために）  
 ・ 保育園の在園児、子育て支援に参加する未就園児。  
 ・ 在園児と未就園児の保護者。  
 対象（直接働きかける）  
 同上

的 意 図（どんな状態にしたいか）  
 ・ 園児が安全かつ快適に園内生活を送ることができるようにする。それに伴う保育の充実。  
 ・ 保護者が安心して保育園に預けられるようにする。

L A 手 段・方 法（どうやって）	全体計画（総事業費）	平成26年度までの実績	平成27年度の実績	平成28年度以降の計画
	保育所の補修、改修、機能保全工事を実施していく。工事については、保育の支障にならないよう計画的に実施している。仮称・保育園管理計画の策定	市内保育園維持修繕工事（市内15保育園）	市内保育園維持修繕工事（市内15保育園） 湖東・玉川・北山・中大塩保育園の厨房に冷房設置 耐震診断の実施	市内保育園維持修繕工事（市内15保育園） 米沢・泉野・笹原・小泉保育園の厨房に冷房設置 保育園管理計画の策定実施

N 評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		工事箇所	工事件数	件	工事件数	30
		冷房が設置された厨房	冷房が設置された園数	件		15
		仮称・保育園管理計画の策定	計画策定	件		1
成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	安心で安全に保育できる市内保育園	安心で安全な保育園	園		18	

実 施 状 況	項 目	単 位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）
	事業費等(a)	円	9,991,705	14,579,907	9,556,598	21,906,209	12,580,000
	財源内訳						
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	9,991,705	14,579,907	9,556,598	21,906,209	12,580,000
	職員数	人					
	正規職員	人	0.45	0.16	0.33	0.80	0.80
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.45	0.16	0.33	0.80	0.80	
対象(者)数	人						
延利用(者)数(b)	人						
単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	178.00	260.00	171.00	391.00	225.00	

D O 活 動 指 標	工事件数	目標	件	30	30	30	30	30
		実績	件	34	45	37	37	30
	達成率	%	113.33	150.00	123.33	123.33	100.00	
	冷房が設置された園数	目標	件			15	15	15
		実績	件			7	11	13
	達成率	%	-	-	46.67	73.33	86.67	
	計画策定	目標	件				1	1
		実績	件				1	1
	達成率	%	-	-	-	100.00	100.00	
	成 果 指 標	安心で安全な保育園	目標	園	18	18	18	18
実績			園	10	12	13	13	
達成率		%	55.56	66.67	72.22	72.22		
-		目標	-	-	-	-	-	
実績	-	-	-	-	-	-		
達成率	%	-	-	-	-	-		

備考

事務事業名	保育所維持管理事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06020101
担当部署	こども部	幼児教育課	施設整備係	作成担当者名	松 沢 勝	連絡先	625

期	目 標	実 績	課 題
第1期	厨房冷房設備設置工事の発注 耐震診断の発注 第二四半期までの耐震診断の完了 計画策定のための調査検討	湖東、玉川、北山、中大塩保育園の厨房に冷房 施設を設置した。 耐震診断発注済 人口ビジョン・人口問題研究所園児数予想作成	残り、4園の厨房の冷房設置 本年度冷房設置事業は完了した。  引続き計画策定を進める。
第2期	耐震診断委託業務 内容分析 計画策定のための調査検討 (人口推計、入所園児推計、資料収集等)	中大塩・北山保育園耐震診断完了  計画策定中	小泉・第二・みどりヶ丘の耐震診断をする。  引き続き計画策定を進める。
第3期	耐震診断委託業務完了 内容分析 計画策定のための調査検討 (人口推計、入所園児推計、資料収集等)	耐震診断完了 10月14日理事者協議 民営化のアンケート調査	公共施設等総合管理計画との調整  引き続き計画策定を進める。
第4期	公共施設等総合管理計画との調整 引き続き計画策定を進める。	1月27日理事者協議 ・仮・茅野市保育園管理計画 ・保育園民営化の検証	公共施設等総合管理計画との調整  引き続き計画策定・検証を進める。

の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 中大塩保育園・北山保育園の耐震診断を実施した結果、「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。」ことを指摘された。 今後さらに、宮川第二保育園、小泉保育園、みどりヶ丘保育園の耐震診断を実施する予定であるが、いずれも新耐震基準改正前に建築された建物で、診断結果として、「倒壊する可能性が高いことが予想される。」	今 後 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	レ
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 仮称・保育園管理計画を作成すると並行して、北山保育園の耐震実施設計業務委託を発注したい。		現 状 維 持	③	⑥	⑨	
			縮 小	④	⑧	⑩	
			休 廃 止	①			
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック		レ			2			レ		3				レ	3	C

課 題 C H E C K 評 価	第1四半期中に冷房設置工事を完了する。 耐震診断の発注と診断を利用した「保育園管理計画の策定」 管理計画策定のための情報の収集をする。	記 号 の 定 義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定	
		前年度評価シート整理番号	06020101

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	平成27年度夏季には冷房装置を使用できるようにし、安心して安全な食の提供をすることができた。 昭和56年新耐震基準前の保育園の改築に関する「仮・茅野市保育園管理計画(案)」を作成した。	平成27年度夏季には冷房装置を使用できるようにし、安心して安全な食の提供をすることができた。 昭和56年新耐震基準前の保育園の改築に関する「仮・茅野市保育園管理計画(案)」を作成した。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策 A C T I O N	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	レ
		現 状 維 持	③	⑥	⑨		
		縮 小	④	⑧	⑩		
		休 廃 止	①				
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
引き続き、冷房装置未設置園への冷房設置を進める。 「仮・茅野市保育園管理計画(案)」について、工事費等の精査を行うとともに、平成28年度に策定する「公共施設総合管理計画」との整合を図り、計画を策定する。		引き続き、冷房装置未設置園への冷房設置を進める。 「仮・茅野市保育園管理計画(案)」について、工事費等の精査を行うとともに、平成28年度に策定する「公共施設総合管理計画」との整合を図り、計画を策定する。					

最終評価年月日	平成28年5月12日	最終評価責任者	幼児教育課長	牛 山 津 人 志
---------	------------	---------	--------	-----------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	一般経費事業（広域入所委託事業）			事業期間	平成	～	年度	整理番号	06020212
担当部署	こども部	幼児教育課	幼児教育係	作成担当者名	牛山 純一			連絡先	623

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む								
				施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供								
				細施策	03	保育所の充実								
				事務事業	03	広域入所委託事業								
	予算事業名				会計コード	001	款	03	項	02	目	02	事業	02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	就労・出産等の事情により、茅野市以外の市町村に所在する保育所への入所を他市町村と調整して受け入れてもらう。												
	現状と背景 （どうして）	市外の職場での就労や里帰り出産等により他市町村に所在する保育所への入所を希望する家庭ニーズがある。												
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	市外保育所に入所を希望する保護者及び児童											
		対象 （ 直 接 働 き か け る ）	市外保育所に入所を希望する保護者											
	意図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	保護者の就労状況等により児童の送迎に無理が生じる場合や里帰り出産等に保護者の子育てと就労の両立を支援する。												
	手段・方法 （ ど う や っ て ）	保護者から、他市町村に所在する保育所への入所申込みがあった場合は、当該市町村長に保育実施に係る協議を行い、受託可能である旨回答をいただければ、保護者あてに入所承諾書を送付している。 また、広域入所については、広報ちのにより周知している。 なお、当該市町村には締結した委託契約に基づき、委託費を支払っている。												
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値				
		広域入所の申し込み件数	申込件数	件						30				
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値				
		広域入所の入所率	広域入所率	%	広域入所件数/広域入所申込件数					100				

実 施 状 況 （ ）	項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	21,387,092	17,444,180	17,182,910
財 源 内 訳	国庫支出金	円	2,652,560	1,418,750	2,988,115	1,497,375	4,743,000
	県支出金	円	1,423,052	741,455	1,494,057	874,945	2,371,000
	地方債	円					
	その他特定財源	円	8,546,300	7,396,600	6,171,400	3,856,080	5,406,000
職 員 数	一般財源	円	8,765,180	7,887,375	6,529,338	8,214,113	9,199,000
	正規職員	人		0.02	0.01	0.02	
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人		0.02	0.01	0.02	
受 益 者 負 担 額	対象（者）数	人	28	37	31		
	延利用（者）数 (b)	人	278	299	246		
	単位コスト (a)/(b)	円	76,932	58,342	69,849	-	-
	市民一人当たりのコスト	円	381.00	312.00	307.00	258.00	388.00
活 動 指 標	申込件数	目標	50	50	50	30	30
		実績	30	45	36	25	25
	達成率	%	60.00	90.00	72.00	83.33	83.33
	-	目標	-	-	-	-	-
実績		-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-	
成 果 指 標	広域入所率	目標	100	100	100	100	100
		実績	96	82	86	80	80
	達成率	%	96.00	82.00	86.00	80.00	80.00
	-	目標	-	-	-	-	-
実績		-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	一般経費事業（広域入所委託事業）	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06020212
担当部署	こども部	幼児教育課	幼児教育係	作成担当者名	牛山 純一	連絡先	623

期	目標	実績	課題
第1期	・広域入所委託先との契約の締結 ・保育料の徴収についての取決めを行う	おおぞら福祉会、聖母の会と協議の上、契約を締結 公立においては、6市町村間は施設のある市町村が徴収を行う、箕輪町においては委託する市町村が徴収することとなった。	市町村によって、委託する市町村で徴収を行うか、施設のある市町村で徴収するかが異なるため、その整理が必要となっている。
第2期	・公立施設の公定価格の決定 ・広域入所委託先との契約の締結	・8月に6市町村の主管課長・事務担当者会議を経て、公立の公定価格を決定することができた。	契約の締結ができなかったため、未実施の市町村間においては早急に契約書の取り交わしが必要。
第3期	・広域入所委託先との契約の締結	・諏訪市、原村、下諏訪町、岡谷市、箕輪町、鹿兒島市と協議の上、契約を締結	委託先の保育園で定員都合のため受け入れてもらえないことがあるため、市内の保育園への入所をお願いすることがある。
第4期	・年度の委託費精算の実施。	・広域入所委託料の精算請求の実施	公立保育園における広域入所に係る保育料は、受け入れる市町村が徴収しているが、便宜上H28年度からは住民票のある市町村にて徴収するように協議をしたい。

事中評価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 年度途中の広域入所希望においては、委託先の利用定員の都合で特に3歳未満児の入所希望に応えられないことが多い。	今後の方向性																				
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 保護者の要望にに添った広域入所の手続きを行う。	方向性																				
	<table border="1"> <tr> <td>成果の方向性</td> <td>拡充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td></td> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td></td> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td></td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>	成果の方向性	拡充	②	⑤	⑦		現状維持	③	⑥	⑨		縮小	④	⑧	⑩		休廃止	①		
成果の方向性	拡充	②	⑤	⑦																	
	現状維持	③	⑥	⑨																	
	縮小	④	⑧	⑩																	
	休廃止	①																			

評価年度	当年度
------	-----

評価の観点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック		レ		レ	2					4					4	C
課題	<p>予算策定時には年度途中のニーズと委託先市町村の可否が見込めないことから予算見込みが困難である。委託先市町村の入所状況に依存するため、ニーズに応えることが難しいことがある。</p>															
記号の定義	<p>A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>															
前年度総合評価判定	C															
前年度評価シート整理番号	06020214															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	児童福祉法の規定に基づき、保護者の希望に沿った広域入所の事務処理を実施した。 近年は、未満児入所の希望者が増加し、要望先での受け入れが困難な場合が不得手いるため、要望に添えないケースでは、市内保育所で受け入れる等の対応に努めた。						児童福祉法の規定に基づき、保護者の希望に沿った広域入所の事務処理を実施した。 近年は、未満児入所の希望者が増加し、要望先での受け入れが困難な場合が不得手いるため、要望に添えないケースでは、市内保育所で受け入れる等の対応に努めた。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	拡充		②	⑤	⑦	成果の方向性	拡充		
	現状維持		③	⑥	⑨		現状維持		レ	
	縮小		④	⑧	⑩		縮小			
	休廃止	①					休廃止			
	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	引き続き、保護者の希望に沿った広域入所ができるよう対応する。					今後は、費用削減の観点から、保護者の希望ばかりでなく入所条件の見直しを検討し、保育ニーズに的確に対応した施策が実施できるよう取り組む必要がある。				

最終評価年月日	平成28年5月12日	最終評価責任者	幼児教育課長	牛山 津人 志
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	一般経費事業（保育料収納業務事業）			事業期間	平成	～	年度	整理番号	06020206
担当部署	こども部	幼児教育課	幼児教育係	作成担当者名	牛山 純一			連絡先	623

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む								
				施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供								
				細施策	03	保育所の充実								
				事務事業	05	保育料収納業務事業								
	予算事業名				会計コード	001	款	03	項	02	目	02	事業	02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	保育料は毎月口座振替により徴収していますが、残高不足による振替不能のため未納が発生しており、保育園の運営に支障をきたしています。財源（保育料）の確保および納期限までに納付された方との公平を保つために、保育料の未納を無くします。												
	現状と背景 （どうして）	平成25年度は保育料調定額437,503,710円に対して2,582,397円の未納がありました。保護者の納付意識の低下により、納期限までに納付しない保護者が増えています。												
	目的	対象	保育所入所児童、納期限までに納付した保護者											
		対象	保育所入所児童の保護者											
	的	意図	公平性の観点から保育料未納額を0円としたい。											
	手段・方法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育料の納付は指定金融機関からの口座振替としている。</li> <li>・口座振替により引落しできなかった保護者には園を通じて督促および催告を実施</li> <li>・納入がない保護者については電話催告、納付相談、児童手当からの徴収を実施</li> <li>・悪質な滞納者については財産の差押え等を実施</li> <li>・保育園入所の際に保証人届の提出を依頼、納付がない場合は保証人あての催告を実施</li> </ul>												
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		活動指標	電話催告・臨戸徴収する	電話催告・臨戸徴収件数	件					300				
			完納できない場合の分納誓約数	分納誓約	件					100				
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
			現年度分の保育料を確実に収納する	保育料収納率	%	収納額/調定額				100				

実施状況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	938,022	967,389	1,145,431
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
職員数	一般財源	円	938,022	967,389	1,145,431	1,063,755	1,439,000
	正規職員	人	0.70	0.38	0.41	0.42	
	嘱託職員 臨時職員 合計	人					
対象	対象（者）数	人	1,781	1,655	1,650	1,659	
	延利用（者）数 (b)	人	20,983	19,605	19,610	19,903	
	単位コスト (a)/(b)	円	45	49	58	53	-
活動指標	電話催告・臨戸徴収件数	目標	300	300	300	300	300
		実績	180	150	150	150	150
		達成率	60.00	50.00	50.00	50.00	50.00
	分納誓約	目標	100	100	100	100	100
		実績	12	12	12	12	20
		達成率	12.00	12.00	12.00	12.00	20.00
	-	目標	-	-	-	-	-
		実績	-	-	-	-	-
		達成率	-	-	-	-	-
	成果指標	保育料収納率	目標	100	100	100	100
実績			99.57	99.41	99.51	99.46	100
達成率		99.57	99.41	99.51	99.46	99.60	
-		目標	-	-	-	-	-
	実績	-	-	-	-	-	
備考	備考						

事務事業名	一般経費事業（保育料収納業務事業）	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06020206
担当部署	こども部	幼児教育課	幼児教育係	作成担当者名	牛山純一	連絡先	623

期	目標	実績	課題
第1期	現年度滞納の保護者・保証人に督促・催告状送付を実施するとともに、期日までに納入できない場合は、児童手当からの徴収、差押えを実施。	児童手当からの徴収については13件の申出がありました。滞納があり特別徴収の対象は26件。なお、1件の差押え（預貯金）を実施しました。また、27名の保証人宛に催告を実施しました。	コンタクトの取れない滞納者については、滞納処分等による強制的な徴収が必要です。
第2期	過年度滞納の保護者に催告書の送付、現年度滞納の保護者に、督促状及び催告状の送付、期日までに納入できない場合は、児童手当からの徴収、差押えを実施。	過年度滞納の保護者（55名）に催告書の送付。また、4名から児童手当からの徴収に係り申出書の記入をいただきました。	電話が繋がらない滞納者への文書での通知は、効果があったため継続して実施する必要があります。
第3期	現年度滞納の保護者に、督促状及び催告状の送付、過年度滞納の保護者に催告書送付を実施するとともに、期日までに納入できない場合は、児童手当からの徴収、差押えを実施。	9名の保護者から児童手当の申出徴収を実施。	市外転出者については、追跡調査を継続して実施していきます。
第4期	現年度滞納の保護者に、督促状及び催告状の送付、過年度滞納の保護者に催告書送付を実施するとともに、期日までに納入できない場合は、児童手当からの徴収、差押えを実施。	13名の保護者から児童手当の申出徴収を実施。	ごく一部の滞納金額が減らない（納入がない）滞納者への納付の推進、納付意識の向上をさせていきます。

事中評価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今後の方向性 ① 皆減縮小 ② 現状維持 ③ 現状維持 ④ 縮小 ⑤ 現状維持 ⑥ 現状維持 ⑦ 現状維持 ⑧ 現状維持 ⑨ 現状維持 ⑩ 現状維持 ⑪ 現状維持 ⑫ 現状維持 ⑬ 現状維持 ⑭ 現状維持 ⑮ 現状維持 ⑯ 現状維持 ⑰ 現状維持 ⑱ 現状維持 ⑲ 現状維持 ⑳ 現状維持 ㉑ 現状維持 ㉒ 現状維持 ㉓ 現状維持 ㉔ 現状維持 ㉕ 現状維持 ㉖ 現状維持 ㉗ 現状維持 ㉘ 現状維持 ㉙ 現状維持 ㉚ 現状維持 ㉛ 現状維持 ㉜ 現状維持 ㉝ 現状維持 ㉞ 現状維持 ㉟ 現状維持 ㊱ 現状維持 ㊲ 現状維持 ㊳ 現状維持 ㊴ 現状維持 ㊵ 現状維持 ㊶ 現状維持 ㊷ 現状維持 ㊸ 現状維持 ㊹ 現状維持 ㊺ 現状維持 ㊻ 現状維持 ㊼ 現状維持 ㊽ 現状維持 ㊾ 現状維持 ㊿ 現状維持
子ども・子育て支援新制度の施行により、給食費、預り保育料などの区分が増えたこともあり、1号認定の未納件数については増加傾向です。全体的には、多子軽減の拡充もあり、未納件数は減少傾向です。	
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	
現年度滞納者については児童手当からの特別徴収を実施していくとともに、保証人あての催告も引き続き実施することで収納率向上を図ります。	

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					3					4	B
チェック					4					3					4	
課題	児童手当からの特別徴収は現年度に限られるため、過年度分を徴収する保護者の同意が必要なため、いかに保護者と折衝するかが課題です。また、納付する意識がない悪質滞納者は差押えの実施のために、預金等の状況把握が必要なため継続的な調査が必要です。															記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 B 前年度評価シート整理番号 03030318

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	法改正により、児童手当からの徴収は大きな成果を挙げているが、金額には限度があるため、毎月の督促・催告に加え電話催告、納付相談を徹底して、未納を増やさないようにする。	法改正により、児童手当からの徴収は大きな成果を挙げているが、金額には限度があるため、毎月の督促・催告に加え電話催告、納付相談を徹底して、未納を増やさないようにする。					法改正により、児童手当からの徴収は大きな成果を挙げているが、金額には限度があるため、毎月の督促・催告に加え電話催告、納付相談を徹底して、未納を増やさないようにする。			
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前					細施策評価後					
	成果の方向性	拡充		②	⑤	レ	⑦	成果の方向性	拡充		
方向性	現状維持		③	⑥		⑨	現状維持				
	縮小		④	⑧		⑩	縮小				
	休廃止	①					休廃止				
	皆減縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性					
改革・改善策	悪質滞納者に対しては、差押の実施等の取り組みを強化する。					悪質滞納者に対しては、差押えの実施等の取り組みを強化する。					

最終評価年月日	平成28年5月16日	最終評価責任者	幼児教育課長	牛山津人志
---------	------------	---------	--------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	私立保育園支援事業費（私立保育園委託事業）	事業期間	平成 18 ~ 年度	整理番号	06020207
担当部署	こども部	幼児教育課	幼児教育係	作成担当者名	牛山 純一
				連絡先	623

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む			
			施策 06 第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供				
			細施策 03 保育所の充実				
			事務事業 06 私立保育園委託事業				
	予算事業名			会計コード 001 款 03 項 02 目 02 事業 06			
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	私立保育園は国の定める保育所運営費で運営されており、市は年齢別入所児童数により、運営費を支弁しています。また、特別保育および運営費補助により、質の高い保育が行われるように支援しています。					
	現状と背景 （どうして）	私立保育園において保育を行うことに要する費用（運営費）は市町村が支払いをしなければならないこととなっている。また、延長保育や乳児保育に係る経費について、国県が補助金を交付する制度を設けているため、公立と同じ基準で保育を行い、補助金交付を行っている。さらに、公立私立では、園児1人あたりの費用負担に格差が生じているため、運営費の一					
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	私立保育園入所児童及び保護者				
		対象 （直接働きかける）	私立保育園運営者				
		意図	入所児童が安心安全な保育を受けられ、保護者も安心して預けられる保育園 公立保育園と連携し地域に根ざした保育園運営の確保 質の高い保育の提供の確保				
	手段・方法 （どうやって）	公立保育園との連携を図り、互いに刺激しあい保育の向上を図る					
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		活動指標	年次計画的に基づく入所児童の確保	保育園入所率	%	児童数/定員	100
			補助金交付率	補助率	%	交付決定額/交付申請額	100
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
			非待機児童数	非待機児童率	%	入所希望数/入所児童数	100
			公立保育園と同基準の職員配置	配置率	%	私立職員数/市基準職員数	100

実施状況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）		
			事業費等 (a)	円	127,590,611	129,046,570	229,032,807	325,847,675	372,313,000
財源内訳	国庫支出金	円	25,321,732	24,634,000	39,064,380	63,370,705	77,733,000		
	県支出金	円	16,612,000	16,440,000	27,137,215	43,197,675	46,469,000		
	地方債	円							
	その他特定財源	円	58,987,990	64,660,000	90,008,820	106,792,860	118,775,000		
	一般財源	円	26,668,889	23,312,570	72,822,392	112,486,435	129,336,000		
職員数	正規職員	人	0.17	0.09	0.53	0.67			
	嘱託職員	人							
	臨時職員	人							
	合計	人	0.17	0.09	0.53	0.67			
状況	対象（者）数		207	215	335	448			
	延利用（者）数 (b)		2,429	2,518	3,993	5,282			
	単位コスト (a)/(b)	円	52,528	51,250	57,359	61,690	-		
	受益者負担額	円	58,987,990						
O （ ）	活動指標	保育園入所率	目標	%	100	100	100	100	
			実績	%	99	100	81	85	90
		達成率	%	98.57	99.92	81.00	84.50	90.00	
		補助率	目標	%	100	100	100	100	100
			実績	%	100	100	100	100	100
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
	成果指標	非待機児童率	目標	%	100	100	100	100	
			実績	%	100	100	100	100	
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		配置率	目標	%	100	100	100	100	
			実績	%	100	100	100	100	
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
備考	事務事業07私立保育園特別保育事業補助金、08民間保育所運営費補助金交付事業を含む								



平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	一般事業（通学路管理事業）			事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030102				
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日	雅彦	連絡先	602					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む							
			施策	06	第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供								
			細施策	04	小中学校の充実								
			事務事業	01	学校維持管理事業								
	予算事業名			会計コード	001	款	10	項	01	目	02	事業	02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	部活等で下校時刻が遅くなる中学生の安全を考慮し、区と区を結ぶ通学路で、どちらの区も街路灯を必要としていない箇所に街路灯を設置する。また、切れた蛍光灯についてはLED灯へ取替え省エネ化を図る。											
	現状と背景 （どうして）	部活等で下校時刻が遅くなる中学生の通学路の安全確保。											
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	生徒										
		対象 （直接働きかける）	通学路に設置した街灯										
		意図	生徒に安全な通学路を確保する。通学路の街灯が常時点灯しているようにする。また、危険な場所には街路灯を設置する。										
	手段・方法 （どうやって）	職員による夜間点検の実施及び市民からの通報制度の実施。照明切れなどの支障を生じないこと及び環境対策としてLED灯の設置を進める。											
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		街灯の点検	点検回数	回	春・秋・冬の時期				12				
		環境対策配慮省エネ化	LED灯設置	%	LED灯/通学路灯				100				
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		街灯の設置、蛍光灯の交換による工事	工事件数	件	発注工事件数				50				
		LED灯設置による電気料節約	省エネ化	%	削減率				25				

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	3,863,081	4,460,896	3,902,061	4,260,276	4,203,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	3,863,081	4,460,896	3,902,061	4,260,276	4,203,000	
	職員数	人	0.20	0.20	0.10	0.10	0.10	
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人	0.20	0.20	0.10	0.10	0.10		
	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	69.00	80.00	70.00	77.00	89.00	
活 動 指 標 （ ）	点検回数	目標	回	3	3	12	12	12
		実績	回	3	3	12	12	12
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	—
	LED灯設置	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	31	31	31	40	—
		達成率	%	31.00	31.00	31.00	40.00	—
	—	目標	—	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—	—
		達成率	%	—	—	—	—	—
	成 果 指 標 （ ）	工事件数	目標	件	50	50	50	50
			実績	件	40	29	32	17
			達成率	%	80.00	58.00	64.00	34.00
省エネ化		目標	%	100	100	100	100	
		実績	%	27	29	30	30	
		達成率	%	27.00	29.00	30.00	30.00	
備考	※外灯数 551ヶ所 平成27年度末221ヶ所LED灯に取替済み							

事務事業名	一般事業（通学路管理事業）	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030102
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日 雅彦	連絡先	602

期	目 標	実 績	課 題
第1期	電球が切れた連絡があった場合は、省エネ化を図るため早急にLED灯へ取替える。	5件(9灯) 623,430円	予算の関係上切れた電球しか変更できない。
第2期	電球が切れた連絡があった場合は、省エネ化を図るため早急にLED灯へ取替える。	4件(3灯) 168,372円	切れた電球の確認方法。
第3期	電球が切れた連絡があった場合は、省エネ化を図るため早急にLED灯へ取替える。	6件(14灯) 174,960円	電球取替後の確認
第4期	電球が切れた連絡があった場合は、省エネ化を図るため早急にLED灯へ取替える。	2件(5灯) 675,918円	電球取替後の確認

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	通学路灯は、生徒が毎日利用するので緊急対応の必要があります。切れているを確認してからすぐに業者に取替工事を依頼するのですが、その間どうしても通学路が暗い状況となってしまふ。															
記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	06030101															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今年度実施した通学路灯の設置工事に灯具の寿命が長く、経年劣化も少ない、環境にも配慮されたLED灯の設置を行った。消費電力は大幅に減少したが街灯料金基準で経費の削減にはならなかった。灯具の寿命が長く取り換えの手間等の経費は今後大幅に縮減される。	今年度実施した通学路灯の設置工事に灯具の寿命が長く、経年劣化も少ない、環境にも配慮されたLED灯の設置を行った。消費電力は大幅に減少したが街灯料金基準で経費の削減にはならなかった。灯具の寿命が長く取り換えの手間等の経費は今後大幅に縮減される。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充			
改 革 ・ 改 善 策	今 後 の 方 向 性	現 状 維 持	③	⑥	⑨	現 状 維 持	現 状 維 持			⑨	
		縮 小	④	⑧	⑩	縮 小	縮 小				
		休 廃 止	①			休 廃 止	休 廃 止				
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性						
		通学路灯を環境にも配慮されるLED灯に変えることにより、灯具の長寿命化と修繕コスト削減が図られる。取り換えの時期にはLEDへの検討が必要である。					通学路灯を環境にも配慮されるLED灯に変えることにより、灯具の長寿命化と修繕コスト削減が図られる。取り換えの時期にはLEDへの検討が必要である。				

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	学校教育課長	平 出 信 次
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	小学校給食関連費事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030113							
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	泉山 百合絵			連絡先	603							
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む										
			施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供											
			細施策	04	小中学校の充実											
			事務事業	01	学校維持管理事業											
予算事業名							会計コード	001	款	10	項	02	目	01	事業	07
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	安全で安心な学校給食の提供を安定的に行う。															
現状と背景 （どうして）	経費の削減のために、調理業務を総合サービスに委託して行っている。献立は、担当栄養士が行い、よりバランスのよい給食を提供する。															
目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	児童、生徒および保護者														
	対象 （ 直 接 働 き か け る ）	担当栄養士が献立を立てて、調理を委託で実施する。														
	意図	学校給食を安定した価格で安全に提供する。														
手段・方法 （ ど う や っ て ）	食育を優先的に進めて、生徒、児童の食に関する意欲を高めて、心身ともに健康な体づくりを行う。特に地場産の野菜等を活用して、体験を通じて、教育としての食育を行う。															
N （ ）	活動 指 標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値							
		調理を委託して安定的に安全な給食を提供する。	調理業務委託	%	今年度委託料/前年度委託料×100				95							
		アレルギーに関する危機管理	アレルギー対応	%	研修会実施施設/小学校数×100				100							
	成 果 指 標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値							
		調理業務の委託により学校給食安定供給	調理業務委託	%	今年度委託料/今年度予算×100				95							
		アレルギーに関する研修会の実施	アレルギー対応	%	研修会実施施設/小学校数×100				100							

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
			事業費等(a)	円	104,555,000	99,856,950	104,495,000
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	104,555,000	99,856,950	104,495,000	101,705,380	107,380,000
職 員 数	正規職員	人	0.30	0.30	0.30	0.60	0.60
	嘱託職員	人				0.30	0.30
	臨時職員	人					
	合計	人	0.30	0.30	0.30	0.90	0.90
対 象 （ 者 ） 数	延利用（者）数(b)						
	単位コスト(a)/(b)	円	—	—	—	—	—
受 益 者 負 担 額	市民一人当たりのコスト	円	1,862.00	1,784.00	1,874.00	1,832.00	2,034.00
	活 動 指 標	調理業務委託	目標	%	95	95	95
実績			%	99	99	99	99
達成率		%	104.21	104.21	104.21	104.21	
アレルギー対応		目標	%				
		実績	%				
達成率		%	—	—	—	—	
—	目標	%					
実績	%						
達成率	%	—	—	—	—		
成 果 指 標	調理業務委託	目標	%	95	95	95	95
		実績	%	98	98	98	98
	達成率	%	103.16	103.16	103.16	103.16	
	アレルギー対応	目標	%				
実績		%					
達成率	%	—	—	—	—		
備考	H28からアレルギー対応を成果指標に追加						

事務事業名	小学校給食関連費事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030113
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	泉山 百合絵	連絡先	603

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・調理業務委託契約 ・調理員研修会の計画、衛生管理マニュアル確認 ・集団給食衛生講習会開催 ・アレルギー除去食実施状況の把握	・調理業務委託契約 ・調理員研修会(衛生管理マニュアルの確認) ・集団給食衛生講習会(諏訪保健福祉事務所6月) ・アレルギー除去食実施状況把握	・食物アレルギーの対応について除去が必要な食物が多様化、アナフィラキシーショックがある児童生徒も多いので、引き続き細心の注意が必要。 ・ノロウイルス対策の検討。
第2期	・調理員研修会、夏季講習会開催 ・調理品細菌検査 ・グリストラップ、排水管清掃 ・食器補充	・調理員夏期講習会にてアレルギー学習会実施 ・調理品細菌検査実施し、引き続き食品の管理をしっかりと行う。 ・グリストラップ等清掃実施 ・食器補充	・衛生監視指導で指摘された事項の改善。 ・ノロウイルスは流行る季節に向けて対策の検討。
第3期	・調理員研修会	・調理員研修会(衛生、調理技術について情報交換、食器の諸検査など)	・調理員研修会の内容をさらに日々の業務に活かす。
第4期	・調理員研修会 ・換気扇清掃 ・新年度調理業務委託契約準備	・調理員研修会(煮物料理の研究、情報交換) ・換気扇清掃実施 ・新年度調理業務委託契約	・換気扇清掃の範囲が本体に留まっているため、周辺部分が不衛生。

の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦
	・新しい調理員が多いので、調理員等で衛生管理や調理技術について研修を行ってきたい。 ・ノロウイルス対策の検討。		現 状 維 持	③	⑥	⑨	
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)		縮 小	④	⑧	⑩	
			休 廃 止	①			
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

評価年度	
------	--

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定						
チェック					4										3						B
課題	調理業務委託が定型化されて、経費の削減の検討余地はある。安全に確実に給食が提供されることは、最も大切であるが、総合サービスとの随意契約を実施しているために基準の明確さが必要です。栄養士はこの業務を委託して実施している内容を熟知してより高率性を提案してほしい。																				
CHICK	前年度総合評価判定					前年度細施策評価における今後の方向性					前年度評価シート整理番号					06030111					

評 価 課 題	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定
CHICK	栄養士が委託先の調理員の適正指示ができない。安全性は最優先だが、より高率的に調理委員活用するそんな意識改革がほしい。関係栄養士の協力により、地場産関係団体が各学校に整備できた。食育推進事業と合わせて、いろいろな面でPRができた。					栄養士が委託先の調理員の適正指示ができない。安全性は最優先だが、より高率的に調理委員活用するそんな意識改革がほしい。関係栄養士の協力により、地場産関係団体が各学校に整備できた。食育推進事業と合わせて、いろいろな面でPRができた。				
CHICK	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	今 後 の 方 向 性					改 革 ・ 改 善 策					
	成 果 の 方 向 性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	成 果 の 方 向 性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	
	今 後 の 方 向 性										
	改 革 ・ 改 善 策	アレルギー対策の除去食による増員配置は必要である。給食調理委員配置基準の見直しは、必要がないと考える。以前との変化の要因がない。					アレルギー対策の除去食による増員配置は必要である。給食調理委員配置基準の見直しは、必要がないと考える。以前との変化の要因がない。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	学校教育課長	平 出 信 次
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	中学校給食関連費事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030114
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	泉山 百合絵			連絡先	603
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む				
			施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供				
			細施策	04	小中学校の充実				
			事務事業	01	学校維持管理事業				
予算事業名								会計コード	001 款 10 項 03 目 01 事業 06
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	安全で安心な学校給食の提供を安定的に行う。								
現状と背景 （どうして）	経費の削減のために、調理業務を総合サービスに委託して行っている。献立は、担当栄養士が行い、よりバランスのよい給食を提供する。								
目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	児童、生徒および保護者							
	対象 （ 直 接 働 き か け る ）	担当栄養士が献立を立てて、調理を委託で実施する。							
	意図	学校給食を安定した価格で安全に提供する。							
手段・方法 （ ど う や っ て ）	食育を優先的に進めて、生徒、児童の食に関する意欲を高めて、心身ともに健康な体づくりを行う。特に地場産の野菜等を活用して、体験を通じて、教育としての食育を行う。								
N （ ）	活動 指 標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		調理を委託して安定的に安全な給食を提供する。	調理業務委託	%	今年度委託料/前年度委託料×100			95	
		アレルギーに関する危機管理	アレルギー対応	%	研修会実施校/中学校数×100			100	
	成 果 指 標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		調理業務の委託により学校給食安定供給	調理業務委託	%	今年度委託料/今年度予算×100			95	
		アレルギーに関する研修会の実施	アレルギー対応	%	研修会実施校/中学校数×100			100	

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）		
事業費等 (a)	円	52,110,000	49,618,850	51,422,000	50,826,985	53,759,000		
財源内訳								
国庫支出金	円							
県支出金	円							
地方債	円							
その他特定財源	円							
一般財源	円	52,110,000	49,618,850	51,422,000	50,826,985	53,759,000		
職員数	人							
正規職員	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.03		
嘱託職員	人							
臨時職員	人							
合計	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.03		
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	928.00	2,841.00	922.00	916.00	975.00		
D O （ ）	活動 指 標	調理業務委託	目標	%	95	95	95	95
			実績	%	99	99	99	99
		達成率	%	104.21	104.21	104.21	104.21	
	—	アレルギー対応	目標	%				
			実績	%				
		達成率	%	—	—	—	—	
成 果 指 標	調理業務委託	目標	%	95	95	95	95	
		実績	%	98	98	98	98	
	達成率	%	103.16	103.16	103.16	103.16		
アレルギー対応	目標	%						
	実績	%						
達成率	%	—	—	—	—			
備考	H28からアレルギー対応を成果指標に追加							

事務事業名	中学校給食関連費事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030114
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	泉山 百合絵	連絡先	603

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・調理業務委託契約 ・調理員研修会の計画、衛生管理マニュアル確認 ・集団給食衛生講習会開催 ・アレルギー除去食実施状況の把握	・調理業務委託契約 ・調理員研修会(衛生管理マニュアルの確認) ・集団給食衛生講習会(諏訪保健福祉事務所6月) ・アレルギー除去食実施状況把握	・食物アレルギーの対応について除去が必要な食物が多様化、アナフィラキシーショックがある児童生徒も多いので、引き続き細心の注意が必要。 ・ノロウイルス対策の検討。
第2期	・調理員研修会、夏季講習会開催 ・調理品細菌検査 ・グリストラップ、排水管清掃 ・食器補充	・調理員夏期講習会にてアレルギー学習会実施 ・調理品細菌検査実施し、引き続き食品の管理をしっかりと行う。 ・グリストラップ等清掃実施 ・食器補充	・衛生監視指導で指摘された事項の改善。 ・ノロウイルスが流行する季節に向けて、対策検討。
第3期	・調理員研修会	・調理員研修会(衛生、調理技術について情報交換、食器の諸検査など)	・調理員研修会の内容をさらに日々の業務に活かす。
第4期	・調理員研修会 ・換気扇清掃 ・新年度調理業務委託契約準備	・調理員研修会(煮物料理の研究、情報交換) ・換気扇清掃実施 ・新年度調理業務委託契約	・換気扇清掃の範囲が本体に留まっているため、周辺部分が不衛生。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 ・新しい調理員が多いので、調理員会等で衛生管理や調理技術について研修を行ってきたい。 ・ノロウイルス対策の検討。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定						
チェック					4										3						B
課題	調理業務委託が定型化されて、経費の削減の検討余地はある。安全に確実に給食が提供されることは、最も大切であるが、総合サービスとの随意契約を実施しているために基準の明確さが必要です。栄養士はこの業務を委託して実施している内容を熟知してより高率性を提案してほしい。															記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要					
	前年度総合評価判定																				
	前年度評価シート整理番号															06020113					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	改革・改善の方向性	栄養士が委託先の調理員の適正指示ができない。安全性は最優先だが、より高率的に調理委員活用するそんな意識改革がほしい。関係栄養士の協力により、地場産関係団体が各学校に整備できた。食育推進事業と合わせて、いろいろな面でPRができた。					栄養士が委託先の調理員の適正指示ができない。安全性は最優先だが、より高率的に調理委員活用するそんな意識改革がほしい。関係栄養士の協力により、地場産関係団体が各学校に整備できた。食育推進事業と合わせて、いろいろな面でPRができた。			
	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後						
	改革・改善の方向性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	レ	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充			レ
	現 状 維 持		③	⑥		⑨	現 状 維 持					
	縮 小		④	⑧		⑩	縮 小					
	休 廃 止	①					休 廃 止					
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					

改革・改善策	アレルギー対策の除去食による増員配置は必要である。給食調理委員配置基準の見直しは、必要がないと考える。以前との変化の要因がない。	アレルギー対策の除去食による増員配置は必要である。給食調理委員配置基準の見直しは、必要がないと考える。以前との変化の要因がない。
--------	--	--

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	学校教育課長	平 出 信 次
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	教職員住宅管理・修繕事業	事業期間	平成 〇〇 ~ 〇〇 年度	整理番号	06030104
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日 雅彦
				連絡先	602

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む 施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供 細施策 04 小中学校の充実 事務事業 01 学校維持管理事業			
	予算事業名			会計コード 001 款 10 項 01 目 02 事業 02			
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）			教職員に児童生徒の教育に専念してもらうため、教職員住宅（市所有の住宅、民間借り上げアパート）に入居を希望される教職員へ住宅を提供し、入退去時の契約事務と家賃徴収・支払い事務を行っている。 また、老朽化が進む市所有の教職員住宅が支障なく入居できるよう、随時修繕工事を行う。			
	現状と背景 （どうして）			市所有の教職員住宅は老朽化が進んでいるため、なるべく良い状態で長く使用できるように、随時工事・修繕等を行う。			
目的	対象 （誰のために）			市内小中学校に勤務する教職員			
	対象 （直接働きかける）			教職員及び教職員住宅			
的 意 図 （どんな状態にしたいか）	手段・方法 （どうやって）			市内小中学校に勤務する教職員に教職員住宅を提供する。 市所有の教職員住宅を入居者が快適に生活できるように、また教職員住宅をなるべく良い状態で長く使用していけるようにする。			
				学校教育課と教職員住宅担当の学校長が入退去を希望する教職員の把握。学校教育課で空いている（空く予定の）住宅を住宅担当の学校長に連絡し、入居を希望する教職員を募集する。学校教育課で入居資格等を審査のうえ、賃貸契約の手続きをする。毎月決められた家賃を口座振替により徴収する。 工事・修繕については、100万円を超えるような規模の工事については、前年度に計画をし予算を確保し次年度に実施する。それ以外は教職員住宅を見回り、補修が必要な箇所を見つかったり、入居されている教職員から修繕の希望が出された箇所を確認し適切に修繕を行う。			
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		活動指標	市所有の教職員住宅への入居戸数	市所有教職員住宅入居戸数	戸	入居済戸数	48
		借り上げ教職員住宅への入居戸数	借り上げ教職員住宅入居戸数	戸	入居済戸数	22	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	市所有の教職員住宅への入居戸数	市所有教職員住宅入居率	%	入居済戸数/市所有戸数×100	100		
	借り上げ教職員住宅への入居戸数	借り上げ教職員住宅入居率	%	入居済戸数/借り上げ戸数×100	100		

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）
事業費等 (a)	円	778,928	846,567	934,472	884,746	1,193,000
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円	778,928	846,567	934,472	884,746	1,193,000
職員数	人					
正規職員	人	0.10	0.20	0.20	0.20	0.20
嘱託職員	人					
臨時職員	人					
合計	人	0.10	0.20	0.20	0.20	0.20
対象（者）数						
延利用（者）数 (b)						
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	14.00	15.00	17.00	16.00	49.00
D （ ）	市所有教職員住宅入居戸数	目標	戸	39	35	35
		実績	戸	22	17	15
	達成率	%	56.41	43.59	54.29	42.86
	借り上げ教職員住宅入居戸数	目標	戸	16	17	17
		実績	戸	12	13	8
	達成率	%	75.00	76.47	47.06	47.06
-	目標	戸	-	-	-	
	実績	戸	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	
O （ ）	市所有教職員住宅入居率	目標	%	100	100	100
		実績	%	56	43	54
	達成率	%	56.00	43.00	54.00	42.00
	借り上げ教職員住宅入居率	目標	%	100	100	100
		実績	%	76	41	47
	達成率	%	76.00	41.18	47.00	47.00
備考	事業費は住宅借り上げ料・更新手数料と市所有住宅の敷地使用料及び市所有の教職員住宅の工事費 長年空き家である住宅を平成23年度に2棟4戸・平成25年度に1戸・平成26年度に2棟4戸の住宅を地域福祉推進課に所管替えを行っている。					

事務事業名	教職員住宅管理・修繕事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030104
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日 雅彦	連絡先	602

期	目 標	実 績	課 題
第1期	修繕箇所があった場合の迅速な対応と入居者の確保	修繕工事 1件 16,200円	老朽化が進む中での入居者の確保
第2期	修繕箇所があった場合の迅速な対応と入居者の確保	修繕工事 1件 21,600円	老朽化が進む中での入居者の確保
第3期	修繕箇所があった場合の迅速な対応と入居者の確保	実績なし	冬期間の水回り関係
第4期	修繕箇所があった場合の迅速な対応と入居者の確保	修繕工事 6件 567,820円	老朽化による入居者の減

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定						
チェック			レ		3					4					4	B					
課題	<p>教員住宅は、今後新しいものを建設する計画はなく建物自体も老朽化しており、住居手当を貰えば家賃は少し高いが新しく綺麗な住宅に住居できるので入居希望者は少なくなっている。維持負担を少なくするために、借地で入居者のない教員住宅の解体を平成22年度に実施した。また、平成23年度から入居希望のない、学校近辺の住宅を地域福祉推進課に所管替えを行い、有効に利用促進をはかっている。</p>																記号の定義				
																前年度総合評価判定	B				
																前年度評価シート整理番号	06020103				

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	市所有の教員住宅で建設年度の新しいものの空家が多い。利用料の見直しが必要がある。	教員住宅は、外装、内装も古く利用率は4割程度（35戸中16戸利用）である。今後空いている教員住宅の活用について使用目的外の使用も含め検討が必要がある。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	空家家で確保するより、教職員の負担減をして入居できるように使用料の金額調整の実施が必要。入居希望のない教員住宅はできるだけ整理の方向。	教員住宅を維持管理して確保するか、教職員の住居確保をするための負担軽減策（住居手当など）をすることで、入居希望のない教員住宅はできるだけ整理の方向が望ましい。または、目的外の使用を進めることができるか検討する必要がある。								

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	学校教育課長	平出 信次
---------	------------	---------	--------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	小学校施設管理事業	事業期間	平成 27 ~ 28 年度	整理番号	06030109
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日 雅彦
				連絡先	602

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
			施策 06 第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供			
			細施策 04 小中学校の充実			
			事務事業 01 学校維持管理事業			
	予算事業名			会計コード 001 款 10 項 02 目 01 事業 03		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市内学校の施設（校舎、運動場、プール等）の状況に応じ、施設の補修や、設置等の営繕工事を実施します。工事にあたっては、毎年各学校から提出してもらった営繕要望書や、各種点検等での指摘を参考に、緊急性を勘案し各学校公平になるように実施します。市内9小学校の各種点検、清掃等委託料（自家用電気工作物保守点検、消防用設備点検、害虫防除、受水槽・高架水槽清掃等）				
	現状と背景 （どうして）	定期的に学校施設の点検、清掃等を行うことで、児童、生徒が快適に又、安全に学校生活を送れるようにするため				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	児童及び教職員			
		対象 （直接働きかける）	学校施設			
		意図	児童及び教職員が安全で快適な学校生活を送れるように学校の財産全般を適切に維持管理すること			
	手段・方法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種点検や清掃業務に適した業者を的確に判断し契約、発注</li> <li>前年度各学校より修繕要望の提出→担当職員が現場確認→本年度改善すべき次年度予算要求するか判断</li> <li>緊急の修繕が発生した場合→直ちに学校教育課に連絡→担当者が現場確認の上業者に見積依頼→予算内で修繕依頼</li> <li>授業等に支障のある場合→学校から直接業者に修繕依頼</li> </ul>				
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		良好な学習環境を提供するため必要な工事を行う。	工事発注件数	件	発注工事件数のうち、ライフサイクルコスト対応した件数	50
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		良好な学習環境を提供する。	工事発注率	%	発注工事件数/目標工事件数×100	100

実 施 状 況 （ D O ）	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	61,213,163	35,777,204	41,142,778
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
職 員 数	一般財源	円	61,213,163	35,777,204	41,142,778	52,425,700	38,300,000
	正規職員	人	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
対 象 （ 者 ） 数	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
市 民 一 人 当 た り の コ ス ト	市民一人当たりのコスト	円	1,090.00	639.00	735.00	937.00	765.00
	活動指標	工事発注件数	目標 20 実績 28 達成率 % 140.00	目標 20 実績 27 達成率 % 135.00	目標 50 実績 85 達成率 % 170.00	目標 50 実績 83 達成率 % 166.00	目標 50 実績 - 達成率 % -
		-	目標 - 実績 - 達成率 % -	目標 - 実績 - 達成率 % -	目標 - 実績 - 達成率 % -	目標 - 実績 - 達成率 % -	目標 - 実績 - 達成率 % -
	成果指標	工事発注率	目標 100 実績 100 達成率 % 100.00	目標 100 実績 - 達成率 % -			
-		目標 - 実績 - 達成率 % -	目標 - 実績 - 達成率 % -	目標 - 実績 - 達成率 % -	目標 - 実績 - 達成率 % -	目標 - 実績 - 達成率 % -	
備考							



平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	中学校施設管理事業	事業期間	平成 〇〇 ~ 〇〇 年度	整理番号	06030110
担当部署	教育委員会事務局	作成担当者名	春日 雅彦	連絡先	602

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
				施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供		
				細施策 04 小中学校の充実		
				事務事業 01 学校維持管理事業		
予 算 事 業 名				会計コード 001 款 10 項 03 目 01 事業 02		
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市内学校の施設（校舎、運動場、プール等）の状況に応じ、施設の補修や、設置等の営繕工事を実施します。工事にあたっては、毎年各学校から提出してもらった営繕要望書や、各種点検等での指摘を参考に、緊急性を勘案し各学校公平になるように実施します。市内4中学校の各種点検、清掃等委託料（自家用電気工作物保守点検、消防用設備点検、害虫防除、受水槽・高架水槽清掃等）					
現状と背景 （どうして）	定期的に学校施設の点検、清掃等を行うことで、児童、生徒が快適に又、安全に学校生活を送れるようにするため					
対 象	受益者 （誰のために）	生徒及び教職員				
	対象 （直接働きかける）	学校施設				
意 図 （どんな状態にしたいか）	生徒及び教職員が安全で快適な学校生活を送れるように学校の財産全般を適切に維持管理すること					
手 段 ・ 方 法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種点検や清掃業務に適した業者を的確に判断し契約、発注</li> <li>前年度各学校より修繕要望の提出→担当職員が現場確認→本年度改善すべき次年度予算要求するか判断</li> <li>緊急の修繕が発生した場合→直ちに学校教育課に連絡→担当者が現場確認の上業者に見積依頼→予算内で修繕依頼</li> <li>授業等に支障のある場合→学校から直接業者に修繕依頼</li> </ul>					
評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		良好な学習環境を提供するため必要な工事を行う。	工事発注件数	件	発注工事件数のうち、ライフサイクルコスト対応した件数	40
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	良好な学習環境を提供する。	工事発注率	%	発注工事件数/目標工事件数×100	100	

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)	円	61,213,163	59,903,651	18,768,626	18,762,276	18,780,000
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円	61,213,163	59,903,651	18,768,626	18,762,276	18,780,000
職員数	人	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
正規職員	人					
嘱託職員	人					
臨時職員	人					
合計	人	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
対象（者）数						
延利用（者）数 (b)						
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	1,090.00	1,070.00	335.00	335.00	416.00
活動指標	工事発注件数	目標	20	20	40	40
		実績	28	27	38	38
	達成率	140.00	135.00	95.00	95.00	-
	達成率	%				
成果指標	工事発注率	目標	100	100	100	100.00
		実績	100	100	100	100
	達成率	100.00	100.00	100.00	100.00	-
	達成率	%				

備考

事務事業名	中学校施設管理事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	06030110
担当部署	教育委員会事務局	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日 雅彦	連絡先	602

期	目 標	実 績	課 題
第1期	各学校改修工事、営繕工事の把握委託契約の締結	工事件数 中学校 4件 1,399,680円 委託契約 中学校 7件 862,898円	老朽化等による修繕や改修工事が多く優先順位を決定するのに、正確に現地の状況を把握する必要がある。
第2期	各学校改修工事、営繕工事の把握し迅速に対応する	工事件数 中学校 7件 2,329,597円 委託契約 中学校 12件 1,200,637円	昭和50年代に建設された学校が多く、老朽化により漏水・雨漏り等も同時期に発生しており、大規模な改修が必要。
第3期	各学校改修工事、営繕工事の把握し迅速に対応する	工事件数 中学校 7件 2,151,360円 委託契約 中学校 12件 1,020,647円	永明中学校の維持修繕
第4期	各学校改修工事、営繕工事の把握し迅速に対応する	工事件数 中学校 20件 4,054,370円 委託契約 中学校 12件 1,835,480円	老朽化が進んでいる永明小・中学校は現状維持するのどの程度費用をかけるか判断が難しい。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の の 現 状 維 持 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4					4	A
課題	<p>毎年修繕費・改修費が増大している。建築年数が経過して、老朽化しているため対応箇所が増加している。早めの修繕が必要であるが緊急性のものを主に対応しているため、修繕費が増大している。ライフサイクルコストを検討しながら計画的に対応する必要がある。財政状況から修繕の集中を避ける必要があります。そのため、別事業として中長期整備計画の策定を進める必要がある。</p>															記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要				
	前年度総合評価判定					A					前年度評価シート整理番号					06020112					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	40件を超える工事を実施。老朽化が進む校舎の安全を維持するため、必要と判断した箇所については、早めに対応していく。	安全を優先し必要と判断した箇所は、先送りするのではなく、早めの対応に心がけ、出来るだけ効率的に改修を実施する。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後										
	今 成 拡 充 後 果 の の 現 状 維 持 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止					②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性 休 廃 止							
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性										
改革・改善策	市内学校の施設（校舎、運動場、プール等）の状況に応じ、施設の補修、営繕工事を優先順位の高いものから実施する。中長期計画の中に含め検討していく必要がある。					市内学校の施設（校舎、運動場、プール等）の状況に応じ、施設の補修を必要とする箇所は、優先順位の高いものから実施する。大きな工事は、中長期計画と整合を図り検討していく必要がある。施設の老朽化に伴い、補修箇所が増えている。また計画していない突発的な修繕が増えている現状にある。将来を見据えて検討する。										

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	学校教育課長	平 出 信 次
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	小学校運営事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	06030115
担当部署	こども部	作成担当者名	吉田 菜未	連絡先	603

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む 施策 06 第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供 細施策 04 小中学校の充実 事務事業 01 学校維持管理事業	
	予算事業名	小学校運営費（教育振興費）		会計コード 001 款 10 項 02 目 02 事業 01	
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	小学校9校の授業や行事等の学校生活に必要な物品・役務の調達などにより、小学校運営の充実を図る。			
	現状と背景 （どうして）	子どもたちの「生きる力」をはぐくむためには、児童が充実して学べるよりよい環境を提供することが必要であるため。			
目的	受益者 （誰のために）	学校・児童・保護者			
	対象 （直接働きかける）	学校・児童・保護者			
目的	意図 （どんな状態にしたいか）	学校における教育環境の充実を図ることにより、教育効果の向上を目指す。			
	手段・方法 （どうやって）	各学校現場の実情に合わせて迅速な予算執行を可能とするために、学校運営上必要な学校管理（消耗品費の購入）に関しては、学校配当予算を計上する。			
N 評 価 指 標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	活動指標	小学校に予算配当をし、児童が充実して学べるよりよい環境を提供するために、適切な予算執行を行う 児童数	人	小学校9校の在席児童数（毎年5月1日現在の学校基本調査より）	3,136
	活動指標	小学校に予算配当をし、児童が充実して学べるよりよい環境を提供するために、適切な予算執行を行う 小学校運営費（教育振興費）総額	千円	小学校9校の運営に要した本事業費の合計額（予算・決算額より）	50,676
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など
成果指標	よりよい学習環境の支援	児童一人当たりの学校運営費	千円/人	小学校9校の運営に要した本事業費の合計額（予算・決算額より）/小学校9校の在席児童	16,159

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）		
事業費等 (a)	円	38,107,462	35,675,949	34,223,408	49,856,692	32,131,000		
財源内訳								
国庫支出金	円							
県支出金	円							
地方債	円							
その他特定財源	円							
一般財源	円	38,107,462	35,675,949	34,223,408	49,856,692	32,131,000		
職員数	人							
正規職員	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30		
嘱託職員	人							
臨時職員	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30		
合計	人	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60		
対象（者）数		3,352	3,315	3,241	3,135	3,070		
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	679.00	637.00	614.00	898.00	631.00		
D 活 動 指 標	児童数	目標	人	3,352	3,315	3,241	3,135	
		実績	人	3,352	3,315	3,241	3,135	
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-	
	小学校運営費（教育振興費）総額	目標	千円	38,486	37,909	36,553	50,676	32,131
実績		千円	38,107	35,675	34,223	50,676		
達成率	%	99.02	94.11	93.63	100.00	-		
O 成 果 指 標	児童一人当たりの学校運営費	目標	千円/人	11,369	10,762	10,560	15,287	10,466
		実績	千円/人	11,368	10,790	10,559	15,287	
	達成率	%	99.99	100.26	99.99	100.00	-	
	目標	-						
実績	-							
達成率	%	-	-	-	-	-		
備考	H27教科書改訂のため、教師用教科書・指導書を購入した。そのため、11需用費①消耗品費の予算額が約17,000(千円)増。							

事務事業名	小学校運営事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	06030115
担当部署	こども部	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	吉田 茉未	連絡先	603

期	目標	実績	課題
第1期	各学校に配分された予算の範囲で、学校運営に必要な学校運営費の適切な予算執行を行う。	各学校の授業・行事等の学校生活に必要な物品の購入により、小学校運営の充実を図った。	学校運営面において、教職員と共にコスト意識を共有するとともに、効率化に努めながら執行する。
第2期	各学校に配分された予算の範囲で、学校運営に必要な学校運営費の適切な予算執行を行う。	学校運営に関わった経費を執行し、学校運営の充実を図った。	学校に配分された予算と残額を的確に把握し、残りの半期においても学校と共にコスト意識を共有しながら、効率化に努め執行する。
第3期	各学校運営費の残額を的確に把握し、適格な予算執行を行う。	運営費の実績の把握に努め、学校との連絡を頻繁に行うことで常に状況を把握し、小学校運営の充実を図った。	学校に配分された予算と残額を的確に把握し、学校と共にコスト意識を共有しながら、効率化に努め執行する。
第4期	予算の執行状況を把握し、適格な予算執行を行う。	運営費の実績の把握に努め、学校との連絡を頻繁に行い、常に状況を把握しながら小学校運営の充実を図った。	配分された予算の範囲で、適切な予算執行を行い、学校と共にコストを意識する。

事中評価																										
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td></td> <td colspan="3">皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	今	成果の方向性	②	⑤	⑦	後	現状維持	③	⑥	⑨	の	縮小	④	⑧	⑩	方	休廃止	①			向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性		
今	成果の方向性	②	⑤	⑦																						
後	現状維持	③	⑥	⑨																						
の	縮小	④	⑧	⑩																						
方	休廃止	①																								
向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																								
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）																										

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																

課題	コスト削減の意識を持って、予算執行を行う。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 06030111
	前年度総合評価判定	
	前年度評価シート整理番号	

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	節約意識を持って、的確な予算執行に努める。						節約意識を持って、的確な予算執行に努める。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	②	⑤	⑦						
現状維持	③	⑥	⑨							
縮小	④	⑧	⑩							
休廃止	①									
皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性						皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	コスト削減に努め、予算執行を行うこと。					学校現場でコスト削減に努め、予算執行を行うこと。節約できるところは、見直しを行う。				

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	学校教育課長	平出 信次
---------	------------	---------	--------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	中学校運営事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030116
担当部署	こども部	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	吉田 菜未	連絡先	603

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む									
				施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供									
				細施策	04	小中学校の充実									
				事務事業	01	学校維持管理事業									
	予算事業名	中学校運営費（教育振興費）				会計コード	001	款	10	項	03	目	02	事業	01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	中学校4校の授業や行事等の学校生活に必要な物品、役務の調達などにより、中学校運営の充実を図る。													
	現状と背景 （どうして）	子どもたちの「生きる力」をはぐくむためには、生徒が充実して学べるよりよい環境を提供することが必要であるため。													
	対象	受益者 （誰のために）	学校・生徒・保護者												
		対象 （直接働きかける）	学校・生徒・保護者												
	目的	学校における教育環境の充実を図ることにより、教育効果の向上を目指す。													
	手段・方法 （どうやって）	各学校現場の実情に合わせて迅速な予算執行を可能とするために、学校運営上必要な学校管理費（消耗品の購入）に関しては、学校配当予算を計上する。													
N 評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など							最終目標値			
		中学校に予算配当をし、生徒が充実して学べるよりよい環境を提供するために、適切 中学校に予算配当をし、生徒が充実して学べるよりよい環境を提供するために、適切	生徒数	人	中学校4校の在席生徒数（毎年5月1日現在の学校基本調査による）							1,660			
		中学校運営費（教育振興費）総額	千円	中学校4校の運営に要した本事業費の合計額（予算・決算額）							19,464				
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など							最終目標値			
	よりよい学習環境の支援	生徒一人当たりの学校運営費	千円/人	中学校4校の運営に要した本事業費の合計額（予算・決算額）/中学校4校の在席生徒数							11,725				

実 施 状 況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
	D 活 動 指 標	事業費等 (a)	円	28,991,723	22,351,950	20,707,472	19,123,199	27,983,000
財源内訳								
国庫支出金		円						
県支出金		円						
地方債		円						
その他特定財源		円						
一般財源		円	28,991,723	22,351,950	20,707,472	19,123,199	27,983,000	
職員数		人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	
嘱託職員		人						
臨時職員		人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	
合計	人	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60		
O 成 果 指 標	対象（者）数		1,637	1,653	1,641	1,661	1,620	
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	516.00	399.00	371.00	344.00	556.00	
	生徒数	目標	人	1,637	1,653	1,641	1,661	1,620
		実績	人	1,637	1,653	1,641	1,661	
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-
	中学校運営費（教育振興費）総額	目標	千円	28,648	21,894	20,810	19,464	
実績		千円	28,991	22,351	20,707	19,464		
達成率		%	101.20	102.09	99.51	100.00	-	
達成率		%	101.20	102.09	99.51	100.00	-	
生徒一人当たりの学校運営費	目標	千円/人	17,710	13,245	12,681	11,718	17,273	
	実績	千円/人	17,720	13,521	12,618	11,718		
	達成率	%	100.06	102.08	99.50	100.00	-	
	達成率	%	100.06	102.08	99.50	100.00	-	
備考	目標							
	実績							

事務事業名	中学校運営事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	06030116
担当部署	こども部	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	吉田 茉未	連絡先	603

期	目標	実績	課題
第1期	各学校に配分された予算の範囲で、学校運営に必要な学校運営費の適切な予算執行を行う。	各学校の授業・行事等の学校生活に必要な物品の購入により、小学校運営の充実を図った。	学校運営面において、教職員と共にコスト意識を共有するとともに、効率化に努めながら執行する。
第2期	各学校に配分された予算の範囲で、学校運営に必要な学校運営費の適切な予算執行を行う。	学校運営に関わった経費を執行し、学校運営の充実を図った。	学校に配分された予算と残額を的確に把握し、残りの半期においても学校と共にコスト意識を共有しながら、効率化に努め執行する。
第3期	各学校運営費の残額を的確に把握し、適格な予算執行を行う。	運営費の実績の把握に努め、学校との連絡を頻繁に行うことで常に状況を把握し、小学校運営の充実を図った。	学校に配分された予算と残額を的確に把握し、学校と共にコスト意識を共有しながら、効率化に努め執行する。
第4期	予算の執行状況を把握し、適格な予算執行を行う。	運営費の実績の把握に努め、学校との連絡を頻繁に行い、常に状況を把握しながら小学校運営の充実を図った。	配分された予算の範囲で、適切な予算執行を行い、学校と共にコストを意識する。

事中評価																													
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果</td> <td>拡充</td> <td></td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の</td> <td>現状維持</td> <td></td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>方向性</td> <td>縮小</td> <td></td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方向性</td> <td>方向性</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今	成果	拡充		②	⑤	⑦	後	の	現状維持		③	⑥	⑨	の	方向性	縮小		④	⑧	⑩	方向性	方向性	休廃止	①			
今	成果	拡充		②	⑤	⑦																							
後	の	現状維持		③	⑥	⑨																							
の	方向性	縮小		④	⑧	⑩																							
方向性	方向性	休廃止	①																										
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	<table border="1"> <tr> <td colspan="7">皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																											
皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																													

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック					4					4					4	

課題	的確な予算執行を行う。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 06030113

総合評価	細施策評価前	細施策評価後
経費の見直しや無駄のないよう心掛けた確な予算執行を行う。	経費の見直しや無駄のないよう心掛けた確な予算執行を行う。	経費の見直しや無駄のないよう心掛けた確な予算執行を行う。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性	

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後						
	成果	拡充		②	⑤	⑦	成果	拡充		②	⑤	⑦
今後の方向性	現状維持			③	⑥	⑨	現状維持			③	⑥	⑨
	縮小			④	⑧	⑩	縮小			④	⑧	⑩
	休廃止	①					休廃止					
	方向性	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					
改革・改善策	学校の判断で執行しているが、常にコスト削減に努め、見直す意識を持って予算執行を行うこと。					常にコスト削減に努め、見直す意識を持って予算執行を行うこと。						

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	学校教育課長	平出 信次
---------	------------	---------	--------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	小学校図書館事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	06030119
担当部署	教育委員会 子ども部 学校教育課	教育総務係	作成担当者名	渡邊 雄一	連絡先
					602

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
			施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供			
			細施策 04 小中学校の充実			
			事務事業 01 学校維持管理事業			
予 算 事 業 名	学校図書館運営に関わる事業			会計コード 001 款 10 項 02 目 02 事業 03		
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	学校図書館運営に関わる事業					
現状と背景 （どうして）	児童生徒の読書活動を支援するため、学校図書館の充実を図るため					
目 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	学校・児童生徒				
	対象 （直接働きかける）	学校・児童生徒				
	意 図	学校図書館の充実				
手 段 ・ 方 法 （どうやって）	「はじめよう本の旅」の作成や、図書館司書の資質向上を図る					
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		はじめよう本の旅の作成	本の作成	回	本を作成し、生徒に配布した回数	1
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		児童が図書館を利用する	図書館利用者数	人	一日の平均利用者数を「50人」に設定する	50

項 目	単 位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	7,589,315	7,622,109	7,846,607	5,468,004	5,429,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	7,589,315	7,622,109	7,846,607	5,468,004	5,429,000	
職員数	人						
正規職員	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
対象（者）数		3,352	3,315	3,241	3,135	3,070	
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	135.00	136.00	141.00	98.00	112.00	
D （ ）	活動指標	本の作成	目標	回	1	1	1
			実績	回	1	1	1
	達成率	%	-	100.00	100.00	100.00	-
	-	目標	-				
		実績	-				
	達成率	%	-	-	-	-	-
O （ ）	成果指標	図書館利用者数	目標	人	50	50	50
			実績	人	50	50	50
	達成率	%	-	100.00	100.00	100.00	-
	-	目標	-				
実績		-					
達成率	%	-	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	小学校図書館事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030119
担当部署	教育委員会 こども部 学校教育課	教育総務係	作成担当者名	渡邊 雄一	連絡先	602	

期	目標	実績	課題
第1期	学校図書館の充実	学校司書の任用 学校司書会の開催 4月10日、6月5日 児童・生徒図書展示会への参加 5月14日	司書の就業時間、及び業務内容が適正であるか、次年度予算編成に向けて検討する必要がある。
第2期	学校図書館の充実	学校司書会の開催 7月3日、9月4日 調べ学習合同研修会の実施 7月3日 各校における就業時間、業務内容の実態を把握した	児童の登校日数210日余。司書の勤務日数は165日。児童の登校日数に比べ司書の勤務日数が35日程少ない。児童が学校に在る間は、図書館運営を司書に任せたい。大規模校で定型業務が停滞している。
第3期	学校図書館の充実	学校司書会の開催 10月2日、11月6日、12月4日	図書館及び読書教育の充実を図るため、司書を増員するか司書の勤務時間を増やす必要があるかもしれない。
第4期	学校図書館の充実	学校司書会の開催 1月8日、3月4日	司書の勤務体制の見直しを次年度中に検討したい。

事中評価																	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今後の方向性																
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充	②	⑤	⑦	現状維持	③	⑥	⑨	縮小	④	⑧	⑩	休廃止	①		
	拡充	②	⑤	⑦													
	現状維持	③	⑥	⑨													
	縮小	④	⑧	⑩													
休廃止	①																
皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																	

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック					4					4					4	

課題	<p>全ての子供の要求に応えられるような選書に努めたい。 児童が学校に在る間は、図書館に司書が在館できるようにしたい。</p>	<p>記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>
	前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号		06030109

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	<p>今後も引き続き継続し、より一層の充実を図る</p>						<p>今後も引き続き継続し、より一層の充実を図る</p>			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前					細施策評価後																				
	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充	②	⑤	⑦	現状維持	③	⑥	⑨	縮小	④	⑧	⑩	休廃止	①			皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性			
拡充	②	⑤	⑦																							
現状維持	③	⑥	⑨																							
縮小	④	⑧	⑩																							
休廃止	①																									
<p>より多くの利用者が増えるよう、本の選定をより良くする</p>						<p>より多くの利用者が増えるよう、本の選定をより良くする</p>																				

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	学校教育課長	平出 信次
---------	------------	---------	--------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	中学校図書館事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	06030120
担当部署	教育委員会 子ども部 学校教育課	教育総務係	作成担当者名	渡邊 雄一	連絡先
					602

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む 施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供 細施策 04 小中学校の充実 事務事業 01 学校維持管理事業		
	予算事業名	学校図書館運営に関わる事業				
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	児童生徒の読書活動を支援するため、学校図書館の充実を図るため				
	現状と背景 （どうして）	児童生徒の読書活動を支援するため、学校図書館の充実を図るため				
目的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	学校・児童生徒				
	対象 （ 直 接 働 き か け る ）	学校・児童生徒				
	意図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	学校図書館の充実				
手段・方法 （ ど う や っ て ）	「本ともだちになろう」の作成や、図書館司書の資質向上を図る					
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		本ともだちになろうの作成	本の作成	回	本を作成し、生徒に配布した回数	1
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		生徒が図書館を利用する	図書館利用者数	人	一日の平均利用者数を「50人」に設定する	50

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	4,972,405	4,993,891	5,140,978	3,586,655	3,565,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	4,972,405	4,993,891	5,140,978	3,586,655	3,565,000	
職員数	人						
正規職員	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
対象（者）数		1,637	1,653	1,641	1,661	1,620	
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	89.00	89.00	92.00	65.00	78.00	
D （ ）	活動指標	本々の作成	目標 回	1	1	1	1
		実績	1	1	1	1	
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	-	
	目標	実績	達成率	%	-	-	-
O （ ）	成果指標	図書館利用者数	目標 人	50	50	50	50
		実績	50	50	50	-	
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	-	
	目標	実績	達成率	%	-	-	-
備考							

事務事業名	中学校図書館事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	06030120
担当部署	教育委員会 こども部 学校教育課	教育総務係	作成担当者名	渡邊 雄一	連絡先	602	

期	目標	実績	課題
第1期	学校図書館の充実	学校司書の任用 学校司書会の開催 4月10日、6月5日 児童・生徒図書展示会への参加 5月14日	司書の就業時間、及び業務内容が適正であるか、次年度予算編成に向けて検討する必要がある。
第2期	学校図書館の充実	学校司書会の開催 7月3日、9月4日 調べ学習合同研修会の実施 7月3日 各校における就業時間、業務内容の実態を把握した	生徒の登校日数210日余。司書の勤務日数は165日。生徒の登校日数に比べ司書の勤務日数が35日程少ない。生徒が学校に在る間は、図書館運営を司書に任せたい。
第3期	学校図書館の充実	学校司書会の開催 10月2日、11月6日、12月4日	図書館及び読書教育の充実を図るため、司書を増員するか司書の勤務時間を増やす必要があるかもしれない。
第4期	学校図書館の充実	学校司書会の開催 1月8日、3月4日	司書の勤務体制の見直しを次年度中に検討したい。

事中評価																													
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果</td> <td>拡充</td> <td></td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の</td> <td>現状維持</td> <td></td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>方向性</td> <td>縮小</td> <td></td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方向性</td> <td>方向性</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今	成果	拡充		②	⑤	⑦	後	の	現状維持		③	⑥	⑨	の	方向性	縮小		④	⑧	⑩	方向性	方向性	休廃止	①			
今	成果	拡充		②	⑤	⑦																							
後	の	現状維持		③	⑥	⑨																							
の	方向性	縮小		④	⑧	⑩																							
方向性	方向性	休廃止	①																										
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	皆減縮小現状維持 コスト投入の方向性																												

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																

課題	<p>全ての子供の要求に応えられるような選書に努めたい。 生徒が学校に在る間は、図書館に司書が在館できるようにしたい。</p>	<p>記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>
	前年度総合評価判定	A
	前年度評価シート整理番号	06030109

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	<p>今後も引き続き継続し、より一層の充実を図る</p>						<p>今後も引き続き継続し、より一層の充実を図る</p>			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前					細施策評価後																																																				
	<table border="1"> <tr> <td>成果</td> <td>拡充</td> <td></td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>現状維持</td> <td></td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>方向性</td> <td>縮小</td> <td></td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方向性</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	成果	拡充		②	⑤	⑦	の	現状維持		③	⑥	⑨	方向性	縮小		④	⑧	⑩	方向性	休廃止	①				皆減縮小現状維持 コスト投入の方向性					<table border="1"> <tr> <td>成果</td> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>方向性</td> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>方向性</td> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					成果	拡充					の	現状維持				レ	方向性	縮小					方向性	休廃止			
成果	拡充		②	⑤	⑦																																																					
の	現状維持		③	⑥	⑨																																																					
方向性	縮小		④	⑧	⑩																																																					
方向性	休廃止	①																																																								
成果	拡充																																																									
の	現状維持				レ																																																					
方向性	縮小																																																									
方向性	休廃止																																																									
<p>より多くの利用者が増えるよう、本の選定をより良くする</p>						<p>より多くの利用者が増えるよう、本の選定をより良くする</p>																																																				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	学校教育課長	平出 信次
---------	------------	---------	--------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	小学校施設整備事業	事業期間	平成 9 ~ 年度	整理番号	06030111
担当部署	教育委員会 こども部 学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日 雅彦	連絡先
					602

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む 施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供 細施策 04 小中学校の充実 事務事業 01 学校維持管理事業		
	予算事業名		会計コード	001 款 10 項 02 目 01 事業 04		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	平成23年に発生した東日本大震災において、多くの学校施設で天井材及びバスケットゴール・照明器具等の非構造部材が落下し大きな被害が発生したため、学校施設の非構造部材耐震対策の促進が文部科学省から求められており、昨年度点検・設計を行った9小学校（泉野小は耐震化発注済）の体育館の非構造部材耐震化工事（落下防止対策）を実施する。また、永明・宮川小学校給食室エアコン設置をし熱中症対策を講じる。				
	現状と背景 （どうして）	近年の大規模地震に加え多くの学校施設で天井材やバスケットゴール、照明機器、窓ガラス、外壁・内壁等様々な非構造部材の被害が発生しており、児童が負傷する被害や避難所として使用できないことも考えられるため、平成27年度までに学校設備の点検を行い非構造部材の落下防止対策に取り組む。				
目的	受益者 （誰のために）	学校・児童				
	対象 （直接働きかける）	学校・児童				
的 意 図 （どんな状態にしたいか）	意図	落下防止対策を施工することにより、児童の安全確保・避難所としての機能保持をする。				
	手段・方法 （どうやって）	学校行事、地区行事に支障がないように、学校と日程調整し落下防止対策工事を発注する。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		非構造部材の落下防止対策	改善	箇所	修繕箇所	9
		永明・宮川小学校給食室熱中症対策	改善	箇所	修繕箇所	2
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		落下する非構造部材をなくす	危険箇所（非構造部材）	箇所	危険な非構造部材をなくす	9
		熱中症対策を講じる	危険箇所（厨房室）	箇所	厨房室の暑さを和らげる	2

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	2,378,500	13,734,000	7,187,400	79,791,213	23,080,000	
財源内訳							
国庫支出金	円				21,659,000		
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	2,378,500	13,734,000	7,187,400	58,132,213	23,080,000	
職員数	人	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	
対象（者）数				4,858			
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	42.00	245.00	129.00	1,437.00	471.00	
D O （ ）	改善 活動指標	目標	箇所	9	9	9	3
		実績	箇所	9	9	9	9
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00
	改善 活動指標	目標	箇所			2	2
		実績	箇所			2	2
		達成率	%	-	-	100.00	-
成果 指標	目標	箇所	9	9	9	9	
	実績	箇所	9	9	9	9	
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
成果 指標	目標	箇所			2	2	
	実績	箇所			2	2	
	達成率	%	-	-	100.00	-	
備考	H26小学校、中学校で予算を分ける H27非構造部材落下防止工事完了のため厨房室の整備を指標とする。						

事務事業名	小学校施設整備事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	06030111
担当部署	教育委員会 子ども部 学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日 雅彦	連絡先	602	

期	目標	実績	課題
第1期	学校と日程調整を行い、学校行事、地区行事に支障のないように工事を発注する。	[契約額] 永明小学校体育館 11,556,000円 宮川小学校体育館 10,152,000円 玉川小学校体育館 8,532,000円 夏季休暇工事実施	本来なら全校学校行事のない夏季休暇中に工事を発注したかったが、ゴール補強のできる業者が限られており、3校のみの発注となってしまった。
第2期	残りの5小学校について学校と日程調整して工事発注する。	永明小、宮川小、玉川小落下物防止工事完了。 [契約額] 米沢小 2,311,200円、豊平小 2,808,000円 金沢小 2,462,400円、湖東小 2,894,400円 北山小 2,376,000円 工事日程調整済	工事日程の調整が困難
第3期	耐震化工事の完了を目指す。	米沢小 2,311,200円 10/26 豊平小 2,808,000円 11/20 金沢小 2,462,400円 12/9 湖東小 2,894,400円 10/18 北山小 2,376,000円 11/11 しゅん工	9小学校すべて非構造部材耐震化完了
第4期	9小学校すべて非構造部材耐震化完了	9小学校すべて非構造部材耐震化完了	9小学校すべて非構造部材耐震化完了

事中評価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今後の方向性
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） <small>①廊下に冷暖設備が設置されていない。米沢小、豊平小、奥野小、金沢小、湖東小、北山小の4小学校に冷暖設備を設置する。②児童が安全で快適な教育環境下で水泳の授業が行えるよう老朽化プール施設のろ過材・支持砂利を取替、内部塗装を計画的に改修する。③漏水ポンプが学校建設当初から更新されておらず、故障した場合に校内の水道が使用できなくなるので、児童が衛生的な学校生活が行えるよう経年劣化した漏水ポンプの入れ替えを計画的に実施する。（※豊平小学校は1号機に不具合が生じている 34年度版）④豊平小学校体育館屋根をカバー工法により、ガルバリウム鋼板を体育館屋根全体に置き替えて耐震性を高める。（1500㎡）</small>	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
	皆減縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック					4					4				4		
課題	小学校の体育館は地区行事等でも使用するので、支障がないように調整が必要。															
記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	06030112															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	永明小、宮川小、米沢小、豊平小学校、玉川小、金沢小、湖東小、北山小学校体育館の非構造部材落下防止工事が主な工事となる。学校の授業や地区行事に支障がないよう工事計画を立て、安全に進めることが求められる。また、近隣市町村においても同様の工事を行っており、授業に支障のない長期休暇等に工事が集中することから業者も限られる。学校との調整や業者選定、工事発注の時期など調整を図り、工事を完了することができた。						永明小、宮川小、米沢小、豊平小学校、玉川小、金沢小、湖東小、北山小学校体育館の非構造部材落下防止工事が主な工事となる。学校の授業や地区行事に支障がないよう工事計画を立て、安全に進めることが求められる。また、近隣市町村においても同様の工事を行っており、授業に支障のない長期休暇等に工事が集中することから業者も限られる。学校との調整や業者選定、工事発注の時期など調整を図り、工事を完了することができた。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	②	⑤	⑦						
現状維持	③	⑥	⑨							
縮小	④	⑧	⑩							
休廃止	①									
皆減縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性						皆減縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	今年度中に、市内中学校における非構造部材落下防止工事をすべて完了し、耐震対策を完了。					今年度中に、市内中学校における非構造部材落下防止工事をすべて完了し、耐震対策を完了。				

最終評価年月日	平成28年4月11日	最終評価責任者	学校教育課長	平出 信次
---------	------------	---------	--------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	中学校施設整備事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030112
担当部署	教育委員会 こども部 学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日 雅彦	連絡先	602	

計	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
				施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
				細施策	04	小中学校の充実
				事務事業	01	学校維持管理事業

予 算 事 業 名	会計コード	001	款	10	項	03	目	01	事業	03
-----------	-------	-----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
(簡潔にわかりやすく)  
平成23年に発生した東日本大震災において、多くの学校施設で天井材及びバスケットゴール・照明器具等の非構造部材が落下し大きな被害が発生したため、学校施設の非構造部材耐震対策の促進が文部科学省から求められており、昨年度点検・設計を行った3中学校（長峰中は耐震化済）の体育館の非構造部材耐震化工事（落下防止対策）を実施する。また、東部中学校体育館屋根改修工事を施工し雨漏りを改善し床滑りをなくし、永明中学校給食室のエアコン設備を設置し熱中症対策を講じる。

現状と背景  
(どうして)  
近年の大規模地震に加え多くの学校施設で天井材やバスケットゴール、照明機器、窓ガラス、外壁・内壁等様々な非構造部材の被害が発生しており、児童が負傷する被害や避難所として使用できないことも考えられるため、平成27年度までに学校設備の点検を行い非構造部材の落下防止対策に取り組む。

目 対 象  
受益者 (誰のために)  
学校・生徒  
対象 (直接働きかける)  
学校・生徒

的 意 図  
(どんな状態にしたいか)  
落下防止対策を施工することにより、児童の安全確保・避難所としての機能保持をする。

手 段 ・ 方 法  
(どうやって)  
学校行事、地区行事に支障がないように、学校と日程調整し落下防止対策工事を発注する。

N 評価指標の作成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		非構造部材の落下防止対策	改善	箇所	修繕箇所	3
		永明中学校給食室熱中症対策	改善	箇所	修繕箇所	1
	東部中学校体育館雨漏対策	改善	箇所	修繕箇所	1	
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		落下する非構造部材をなくす	危険箇所（非構造部材）	箇所	危険な非構造部材をなくす	3
熱中症対策・雨漏対策		危険箇所（厨房室）	箇所	厨房室の暑さを和らげ、雨漏りの床滑りをなくす	2	

項 目	単 位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算又は決算額)	平成28年度事業計画(予算)	
事業費等(a)	円	2,000,000	—	4,962,600	68,394,240	1,140,000	
財源内訳	国庫支出金	円			19,418,000		
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
一般財源	円	2,000,000	—	4,962,600	48,976,240	1,140,000	
職員数	正規職員	人	0.40		0.40	0.40	
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.40	—	0.40	0.40	0.40
対象(者)数							
延利用(者)数(b)							
単位コスト(a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	36.00		89.00	1,232.00	75.00	
D 活動指標	改善	目標	箇所	3	3	3	
		実績	箇所	3	3	3	
	達成率	%	100.00	—	100.00	100.00	—
	改善	目標	箇所			1	1
		実績	箇所			1	1
	達成率	%	—	—	—	100.00	—
改善	目標	箇所			1	1	
	実績	箇所			1	1	
達成率	%	—	—	—	100.00	—	
O 成果指標	危険箇所（非構造部材）	目標	箇所	3	3	3	
		実績	箇所	3	3	3	
	達成率	%	100.00	—	100.00	100.00	—
	危険箇所（厨房室）	目標	箇所			2	2
実績		箇所			2	2	
達成率	%	—	—	—	100.00	—	
備考	H26小学校、中学校で予算を分ける H27非構造部材落下防止工事完了のため厨房室の整備を指標とする。						

事務事業名	中学校施設整備事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	06030112
担当部署	教育委員会 子ども部 学校教育課	教育総務係	作成担当者名	春日 雅彦	連絡先	602	

期	目標	実績	課題
第1期	学校と日程調整を行い、学校行事、地区行事に支障のないように工事を発注する。	[契約額] 永明中学校体育館 8,640,000円 実施	本来なら全校学校行事のない夏季休暇中に工事を発注したかったが、ゴール補強のできる業者が限られており、1校のみの発注となってしまった。
第2期	学校と調整し東部中学校について工事発注する。	永明中落下物防止工事完了。 【契約額】 東部中 1,674,000円	工事日程の調整が困難
第3期	耐震化工事の完了を目指す。	東部中 1,674,000円 12/2 しゅん工。	4中学校すべて非構造部材耐震化工事完了。
第4期	4中学校すべて非構造部材耐震化工事完了。	4中学校すべて非構造部材耐震化工事完了。	4中学校すべて非構造部材耐震化工事完了。

期中評価													
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今後の方向性												
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	方向性												
①廊下に冷房設備が設置されていない、北部中に冷房設備を設置する。②生徒が安全で快適な教育環境下で水泳の授業が行えるよう老朽化プール施設のろ過材・支持砂利を取替、内部塗装を計画的に改修する。③漏水ポンプが学校建設当初から更新されておらず、故障した場合に校内の水道が使用できなくなるので、生徒が衛生的な学校生活が行えるよう経年劣化した漏水ポンプの入れ替えを計画的に実施する。	<table border="1"> <tr> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>	②	⑤	⑦	③	⑥	⑨	④	⑧	⑩	①		
②	⑤	⑦											
③	⑥	⑨											
④	⑧	⑩											
①													

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																
課題	中学校の体育館は地区行事等でも使用するので、支障がないように調整が必要。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	06030112															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	永明中学校体育館、東部中学校体育館の非構造部材落下防止工事が主な工事となる。学校の授業や地区行事に支障がないよう工事計画を立て、安全に進めることが求められる。また、近隣市町村においても同様の工事を行っており、授業に支障のない長期休暇等に工事が集中することから業者も限られる。学校との調整や業者選定、工事発注の時期など調整を図り、工事を完了することができた。	永明中学校体育館、東部中学校体育館の非構造部材落下防止工事が主な工事となる。学校の授業や地区行事に支障がないよう工事計画を立て、安全に進めることが求められる。また、近隣市町村においても同様の工事を行っており、授業に支障のない長期休暇等に工事が集中することから業者も限られ、発注が心配されたが、学校との調整や業者選定、工事発注の時期など調整を図り、工事を完了することができた。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後				
	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	③	⑥	⑨	④	⑧
	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性								
改革・改善策	今年度中に、市内中学校における非構造部材落下防止工事をすべて完了し、耐震対策を完了。					今年度中に、市内中学校における非構造部材落下防止工事をすべて完了。				

最終評価年月日	平成28年4月11日	最終評価責任者	学校教育課長	平出 信次
---------	------------	---------	--------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		学校基金積立金事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030106							
担当部署		教育委員会	こども部	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	渡邊	雄一	連絡先	602							
計	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む											
				施策	06	第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供											
				細施策	04	小中学校の充実											
				事務事業	01	学校維持管理事業											
画	予算事業名							会計コード	001	款	10	項	01	目	02	事業	04
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	学校林賃賃料を今後の学校施設建築等の資金とするため、積み立てる															
	現状と背景 (どうして)	学校林収入を学校建築に生かすため															
	目的	対象	受益者 (誰のために)	学校・茅野市													
		対象 (直接働きかける)	学校・茅野市														
的	意図 (どんな状態にしたいか)	学校林収入の積立															
	手段・方法 (どうやって)	学校基金として積み立てる															
N	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値											
		基金積立	積立金	回	学校林収入と利子	1											
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値											
		積立金	積立金	回	学校林収入と利子	1											

実	施	状	況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算 又は決算額)	平成28年度 事業計画(予算)
						事業費等(a)	円	2,007,360	2,722,072	2,614,845
財	源	内	訳	国庫支出金	円					
				県支出金	円					
				地方債	円					
				その他特定財源	円					
				一般財源	円	2,007,360	2,722,072	2,614,845	2,526,528	2,439,000
				正規職員	人	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
職	員	数	嘱託職員	人						
			臨時職員	人						
			合計	人	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
対	象	(者)数	延利用(者)数(b)		5,326	5,326	5,223	4,796	4,690	
			単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受	益	者	負担額	市民一人当たりのコスト	円	36.00	49.00	47.00	46.00	45.00
				目標	回	1	1	1	1	1
活	動	指	標	実績	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-
				目標	%	-	-	-	-	-
				実績	%	-	-	-	-	-
				達成率	%	-	-	-	-	-
成	果	指	標	目標	回	1	1	1	1	1
				実績	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-
				目標	%	-	-	-	-	-
				達成率	%	-	-	-	-	-
備考										

事務事業名	学校基金積立金事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	06030106
担当部署	教育委員会 こども部 学校教育課	教育総務係	作成担当者名	渡邊 雄一	連絡先	602	

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期			
	第2期			
	第3期			
	第4期	学校基金の積立	学校基金積立の実施	

事 中 評 価										
今 後 の 方 向 性	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	成 果 的 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦				
		現 状 維 持		③	⑥	⑨	④	⑧	⑩	
		縮 小		④	⑧	⑩				
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	休 廃 止	①							
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性										

評価年度	
------	--

評 価 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定	
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定		A
	チェック					4					4					4		

課 題 （ C H E C K ）	学校林の貸付を継続していく。	記 号 の 定 義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 06030114	
	前年度総合評価判定		A
	前年度評価シート整理番号		06030114

総 合 評 価 （ C H E C K ）	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
	引き続き継続する。	引き続き学校林の貸付収入を基金として積立てる。
	前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ A C T I O N ）	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
	成果の方向性	拡 充 ② ⑤ ⑦ 現 状 維 持 ③ ⑥ ⑨ 縮 小 ④ ⑧ ⑩ 休 廃 止 ①	成果の方向性 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	
改革・改善策	学校基金は、将来の学校建設、改築のために必要である。今後も引き続き継続する。	学校基金は、将来の学校建設、改築のために必要である。将来のために、今後も引き続き積立ていく。	

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	学校教育課長	平 出 信 次
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	教育委員会運営事務			事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030101
担当部署	こども部	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	渡辺 雄一			連絡先	602
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有 政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む				
			施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供				
			細施策	04	小中学校の充実				
			事務事業	04	中長期学校施設整備事業				
	予算事業名							会計コード	001 款 10 項 01 目 01 事業 01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	教育委員会は、市町村等におかれる合議制の執行機関です。創造的で人間性豊かな人材を育成するため、教育の振興、生涯学習の推進、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたる教育行政を一体的に推進していく上で、重要な役割を担っています。そこで、乳幼児期から高齢期に至るまでの様々な教育環境の整備を推進するため、責任ある教育行政を進展させる教育委員会を開催しています。							
	現状と背景 （どうして）	教育行政の方針及び諸施策を決定する合議制の執行機関である。							
	目的 対象	受益者 （誰のために）	市民、園児、児童、生徒、教員および教育関係者等。						
		対象 （直接働きかける）	より良い教育方針、教育施策を定める。						
		意図 （どんな状態にしたいか）	豊かな市民を育む。						
	手段・方法 （どうやって）	豊かな市民生活の向上を育むために、より活力のある教育委員会にする。							
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		市長部局との懇談	総合教育会議開催回数	回	最低年1回以上、総合教育会議を開催する。			1	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		総合教育会議検討結果の反映	検討結果の反映数	項目	総合教育会議で検討された内容がどれだけ反映されたか			1	

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	4,278,493	15,431,533	15,335,441	15,218,469	21,218,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	4,278,493	15,431,533	15,335,441	15,218,469	21,218,000	
	職員数	人						
	正規職員	人	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35	
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35		
	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	76.00	276.00	275.00	274.00	431.00	
活動指標	総合教育会議開催回数	目標	1	1	1	1	1	
		実績	1	1	1	2	—	
	達成率	100.00	100.00	100.00	200.00	—		
	目標	—	—	—	—	—		
	実績	—	—	—	—	—		
	達成率	—	—	—	—	—		
成果指標	検討結果の反映数	目標	2	2	2	1	1	
		実績	1	1	1	1	—	
	達成率	50.00	50.00	50.00	100.00	—		
	目標	—	—	—	—	—		
実績	—	—	—	—	—			
達成率	—	—	—	—	—			
備考	この事務事業は、機構改革により平成27年度からは学校教育課に移管された。 H28は教育指導主事2名を嘱託職員として任用							

事務事業名	教育委員会運営事務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06030101
担当部署	こども部	学校教育課	教育総務係	作成担当者名	渡辺 雄一	連絡先	602

期	目 標	実 績	課 題
第1期	総合教育会議開催に向けた調整	総合教育会議運営要綱の作成した。 総合教育会議開催時期の決定した。	総合教育会議開催に関する市民等への周知について、迅速に行う必要がある。
第2期	総合教育会議の開催 茅野市教育大綱(素案)の検討	総合教育会議を開催し、茅野市教育大綱(素案)について検討した。	市長部局、教育委員会の意見を踏まえ、茅野市教育大綱(案)の早期作成し、第2回総合教育会議で諮る。
第3期	茅野市教育大綱(案)の作成 第2回総合教育会議の開催	茅野市教育大綱(案)を作成した。	茅野市教育大綱(案)作成が予定より遅れた。これにより第2回総合教育会議の開催時期に影響が出た。
第4期	第2回総合教育会議の開催 茅野市教育大綱の策定	第2回教育総合会議を開催し、茅野市教育大綱を策定した。	教育委員会の施策について市長部局と整合を図ること。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	教育委員会の会議をより活性化させる必要がある。そのためには、各委員が研修、学校訪問等で自己研鑽を積み、教育委員会主催の行事等にも積極的に参加し、教育委員会において積極的な意見交換をする必要がある。															
CH E C K	記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 07020110															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	活性化の方向性を模索する中、先進地の教育委員会視察研修は効果がある。教育委員自体は学識・経験が豊かで人格が高潔であるが、教育専門家ではないレイマン(素人)なので、大変有効な手段と思われる。また教育委員長の任期継続方針検討中。ある程度の教育経験が必要と思われる、教員人事との絡みもあるため継続していただく必要がある。	これからも教育委員の考えを深めるため、先進地の視察研修は効果がある。教育委員自体は学識・経験が豊かで人格が高潔であるが、教育専門家ではないレイマン(素人)なので、大変有効な手段と思われる。また教育委員長の任期継続方針検討中。ある程度の教育経験が必要と思われる、教員人事との絡みもあるため継続していただく必要がある。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	委員に教育現場の経験がある方を増やしていく方が好ましい。委員の経験や考え方で新しい方向性が見えてくる場合もある。教育委員の構成を工夫し、委員会活動の活性化を進める。	教育委員会は、教育長を含め5人という少人数で構成されている。教育の現場では、新たな問題、課題が日々発生している。委員に教育現場の経験がある方を増やしていく方が好ましい。委員の経験や考え方で新しい方向性が見えてくる場合もある。教育に情熱を持たれている方など教育委員の構成を工夫し、委員会活動の活性化を進める。								
今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									

最終評価年月日	平成28年4月28日	最終評価責任者	学校教育課長	平 出 信 次
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	公民館施設管理事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010302								
担当部署	教育委員会	生涯学習部	生涯学習課	教育係（公民館）	作成担当者名	五味 健志		連絡先	72-3266								
計	市民プランにおける位置づけ	有	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む												
			施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供												
			細施策	05	公民館の充実												
			事務事業	01	施設維持・管理・運営事業												
画	予算事業名							会計コード	001	款	10	項	05	目	02	事業	03
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	昭和53年建設の茅野市文化センター（茅野市公民館・茅野市勤労青少年ホーム）の施設維持管理を行います。生涯学習の場であり、出会いの場であり、成果発表の場である文化センターを多くの市民に気持ちよく使用いただくよう維持・管理及び修繕等を行っていくものです。															
	現状と背景 （どうして）	文化センターは、建築から30年以上経過し施設の経年劣化や機械・器具・備品類の故障等が現れてきています。これらの修理、補修、更新が必要です。また、施設利用者は年間約45,000人以上であり、生涯学習都市としての重要な施設であることから、今後も良好に維持管理することが必要です。															
	目的	対象 （誰のために）	茅野市文化センター（茅野市公民館・茅野市勤労青少年ホーム）利用者														
対象 （直接働きかける）		茅野市文化センター（茅野市公民館・茅野市勤労青少年ホーム）															
的	意図 （どんな状態にしたいか）	茅野市文化センター（茅野市公民館・茅野市勤労青少年ホーム）の維持・管理・補修・機械等の更新を行い、使用者が安全良好に利用できるようにする。															
	手段・方法 （どうやって）	老朽化対策には予防修繕を基本としつつ、場合によって必要になる緊急修繕の両方の方法により、施設の維持管理を図ります。また、職員体制上の理由もあることから、委託事業を活用する方法で、維持管理に係る費用の適正化を進めます。															
N	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値								
		整備事業	整備箇所数	箇所	工事発注数				2								
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値								
		整備進捗率	整備率	%	整備箇所数/予算工事業数				100								

実	施	状	況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）		
						事業費等(a)	円	26,624,784	23,247,548	24,748,054	17,574,179	52,660,000
財	源	内	訳	国庫支出金	円					8,427,000		
				県支出金	円							
				地方債	円					21,200,000		
				その他特定財源	円	251,595	98,235	94,419	223,811	224,000		
職	員	数	計	一般財源	円	26,373,189	23,149,313	24,653,635	17,350,368	22,809,000		
				正規職員	人	0.20	0.20	0.20	0.25	0.30		
				嘱託職員	人	0.15	0.15	0.15	0.15	0.70		
				臨時職員	人	0.60	0.60	0.60	0.60			
				合計	人	0.95	0.95	0.95	1.00	1.00		
対	象	(者)数	延利用(者)数(b)									
			単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-			
受	益	者	負	担	額	市民一人当たりのコスト	円	474.00	415.00	442.00	314.00	1,014.00
						整備箇所数	目標	箇所	9	3	1	2
活	動	指	標	実績		9	3	1	5			
				達成率	%	100.00	100.00	100.00	250.00	-		
				目標								
				実績								
成	果	指	標	達成率	%	-	-	-	-	-		
				目標		100	100	100	100	100		
				実績		100	100	100	100	100		
				達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00		
備	考	目標										
		実績										
達	成	率	目標									
			実績									

※旧事務事業名称「公民館施設修繕事業」を平成25年度から変更した。従前は工事請負を主な事業としていたが、平成24年度から維持管理経費及び館の運営全般に係る事業に変更したため、平成23年度以前の事業費と平成24年度の事業費は内訳が異なる。  
 ※平成25年度から、事業費に嘱託職員の人件費を含む。※事務事業の整理統合・見直しにより、H26に事務事業名変更。

事務事業名	公民館施設管理事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010302
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	教育係 (公民館)	作成担当者名	五味 健志	連絡先	72-3266	

期	目 標	実 績	課 題
第1期	和室の畳替え工事の発注と、屋根改修工事の改修内容の確認と設計委託。	和室の畳替え工事を行った。 屋根改修工事の内容を確認し、担当課に設計依頼をした。	老朽化しているため、予定していなかった修理・修繕対応が発生している。
第2期	入札により業者選定をし、屋根改修工事に着工する。 次年度の修繕箇所を検討する。	入札により業者が決まり、工事に着工した。 次年度の修繕箇所を検討した。	修繕必要箇所を確認したが、予算確保が必要になる。 新たにアスベスト対策費用がかなりかかる。
第3期	維持管理費用の予算計上。	屋根改修工事竣工。陶芸窯緊急修理。 屋根改修工事Ⅱ (塗装)、アスベスト除去工事を予算計上。修繕料も増額計上。	ボイラーなど緊急修理に係る予算計上が必要。 前年に比べ水量が増えているため原因の特定が必要。
第4期	緊急修理個所の特定。	ボイラー取替工事の予算を追加計上。 ボイラー緊急修理、トイレ手洗いの水栓化。	施設の延命化に向けて、総点検をして修繕計画を立てる。特に給排水設備の修繕は必要。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項 (改革・改善策)	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定										
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定											
チェック					4					4					4	A										
課題	多くの市民の方に使用いただいている施設であり、建設から37年が経過するため修繕等の箇所が増えている。施設をより長く使用するためにも、早めの修理、改修が必要となっている。予防修繕の視点から計画的な修理補修を行うことが適当である。																									
CHICK	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					前年度総合評価判定					A										
	建設後37年を経過し、施設の老朽化が進み修繕費用が増嵩している。今後も施設の延命化による有効利用を図るために、計画的な修繕が必要である。															建設後30年以上を経過し、修繕費用が増嵩している。今後も施設の有効利用を図るために計画的に修繕を行うことが必要である。					前年度評価シート整理番号					07010303

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後									
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定					
今 後 の 方 向 性					4					4					
改 革 ・ 改 善 策	建設後37年を経過し、壁の中など目に見えない部分の劣化が進んでおり、不具合が突然発生するケースが増えている。特に水漏れ、配水管の詰り、設備の破損など、放置すれば重大事故につながる事象も増えている。原因の特定と速やかな対応が必要である。										突発的な修繕が必要となり、経費が嵩んでいる。建設から30年以上が経過し、壁の中などの目に見えない部分の劣化が突然発生するケースが増えている。水道漏れ、雨漏り、壁タイルのはがれ、排水管の詰まり、避難設備の不具合等、事前に予測できない事象が増えているが、長寿命化を図りたい。				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後									
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定					
今 後 の 方 向 性					4					4					
改 革 ・ 改 善 策	建設後37年を経過し、壁の中など目に見えない部分の劣化が進んでおり、不具合が突然発生するケースが増えている。特に水漏れ、配水管の詰り、設備の破損など、放置すれば重大事故につながる事象も増えている。原因の特定と速やかな対応が必要である。										突発的な修繕が必要となり、経費が嵩んでいる。建設から30年以上が経過し、壁の中などの目に見えない部分の劣化が突然発生するケースが増えている。水道漏れ、雨漏り、壁タイルのはがれ、排水管の詰まり、避難設備の不具合等、事前に予測できない事象が増えているが、長寿命化を図りたい。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	公民館運営事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010301			
担当部署	教育委員会	生涯学習部	生涯学習課	教育係（公民館）	作成担当者名	五味 健 志		連絡先	72-3266			
計	市民プランにおける位置づけ	有	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む							
	施策		06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供								
画	予 算 事 業 名		細 施 策	05	公民館の充実							
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		事務事業	02	公民館活動事業							
P	現 状 と 背 景 (どうして)		会計コード	001	款	10	項	05	目	02	事業	02
	目 対 象	受益者 (誰のために)	公民館利用者									
L	的 意 図 (どんな状態にしたいか)	対象 (直接働きかける)	公民館運営審議会委員及び専門委員、社会教育関係団体等									
	手 段 ・ 方 法 (どうやって)	生涯学習推進のため、公民館の事業及び企画について、活発な審議が行われるようにする。また、社会教育関係団体等の育成を図り、公民館活動が広く行われるようにする。										
N	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
	活動指標	審議会の開催	審議会開催数	回	審議会開催数				4			
成 果 指 標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
	委員出席者数	審議会出席者率	%	延出席委員数/委員数×開催数				80				
	専門委員出席者数	出席率	%	延出席委員数/委員数×開催数				80				

項 目	単 位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算 又は決算額)	平成28年度 事業計画(予算)
事業費等(a)	円	176,500	195,700	1,734,000	12,304,488	15,861,000
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円	176,500	195,700	1,734,000	12,304,488	15,861,000
職員数	人	0.10	0.10	0.65	0.65	0.65
正規職員	人					
嘱託職員	人					
臨時職員	人					
合計	人	0.10	0.10	0.65	0.65	0.65
対象(者)数						
延利用(者)数(b)						
単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	3.00	3.00	31.00	220.00	371.00
活動指標	審議会開催数	目標 4	実績 4	4	4	4
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	-
団体数	目標 32	実績 29	32	32	32	
	達成率	%	-	90.63	-	-
成果指標	審議会出席者率	目標 80	実績 72	80	80	80
	達成率	%	89.58	102.50	98.75	110.00
出席率	目標 80	実績 46	80	80	80	
	達成率	%	-	57.50	79.38	80.00
備考	評価事務事業の整理統合見直しにより、H27年度評価から事務事業名を予算事業名に統一した					

事務事業名	公民館運営事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010301
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	教育係 (公民館)	作成担当者名	五味 健志	連絡先	72-3266	

期	目 標	実 績	課 題
第1期	第1回審議会及び合同専門委員会を開催。	4月24日合同専門委員会を開催。5月27日第1回審議会を開催し、社会教育関係団体として2団体認定した。	第2回審議会を適切な時期に開催すること。各専門委員会を開催していくこと。
第2期	第2回審議会の開催と研修視察の実施。講座開催を通じた社会教育関係団体の育成。	第2回審議会及び、飯田市龍江公民館への視察を9月29日に実施した。	社会教育関係団体認定に向けた指導のあり方の検討。会議の適切な時期の開催。
第3期	第3回審議会の開催。	第3回審議会を12月16日に開催し、社会教育関係団体として2団体認定した。専門委員会も適宜開催した。専門委員の交流会を11月26日に実施した。	分館職員研修会の内容の充実。
第4期	第4回審議会の開催。分館職員研修会の準備を踏まえた合同専門委員会の開催。	第4回審議会を3月28日に開催し、社会教育関係団体として7団体認定した。合同専門委員会を1月19日に開催するとともに、各専門委員会を予定どおり開催した。	審議会、専門委員会の内容の充実。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 休 廃 止 方 向 性
新年度の実施計画・予算要求事項 (改革・改善策)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	審議会、委員会の開催にあたり事前に会議資料を委員に配布し、会議内容を把握いただいている。このことで、会議がスムーズに運営され、内容も充実したものになっている。今後もできる限り会議資料を事前配布し、会議内容が充実するよう努める必要がある。また、社会教育関係団体の育成には、補助金交付は有効な手段である。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	07010301															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性			

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 ( ACTION )	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充			
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
方向性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
方向性	休 廃 止	①				休 廃 止				
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性										
改革・改善策	委員としてより活発な審議をしてもらうため、今後も会議内容、資料などを事前に配布し、効率のよい審議をしていくようにする。					委員としてより活発な審議をしてもらうため、今後も会議内容、資料などを事前に配布し、効率のよい審議をしていくようにする。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	公民館報発行事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010303				
担当部署	教育委員会	生涯学習部	生涯学習課	教育係（公民館）	作成担当者名	百瀬 一郎		連絡先	72-3266				
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む							
			施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供								
			細施策	05	公民館の充実								
			事務事業	03	公民館報発行事業								
	予算事業名			会計コード	001	款	10	項	05	目	02	事業	04
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市公民館や地区公民館、分館活動の周知・報告や、市民への学習情報の提供、生活の話題や地域の課題の調査・提唱等の記事を掲載した公民館報を月1回発行している。											
	現状と背景 （どうして）	公民館やコミュニティ活動の情報、地域の話や課題を提供することにより、公民館活動やコミュニティ活動へ参加する機会を増やし、公民館活動の原点である「地域づくり」や「仲間づくり」を進める。平成17年度から各戸配布の事務量を減らす為、広報ものに挟み込む形で配布している。											
目的	対象 （誰のために）	市民全般											
	対象 （直接働きかける）	同上											
	意図 （どんな状態にしたいか）	公民館活動やコミュニティ活動の情報、地域の話や課題の情報を誰もが同じように得られる状態にする。											
	手段・方法 （どうやって）	毎月1回公民館報を発行し、広報ものに挟み込み、区長を通じて市民に配布する。入居していない市民に対しては、コンビニ、金融機関等で情報を入手できるようにする。											
（ N ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		市民への情報提供	館報発行回数	回	月1回×12月=12回				12				
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		市内各戸に配布されているか	配布率	%	配布数/市内世帯数				80				

実施状況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	2,248,724	2,267,704	1,872,173	1,753,598
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
職員数	一般財源	円	2,248,724	2,267,704	1,872,173	1,753,598	2,111,000	
	正規職員	人	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35	
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35	
状況	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
（ O ）	活動指標	館報発行回数	目標	回	12	12	12	12
			実績	回	12	12	12	12
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
		目標	-					
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-		
	成果指標	配布率	目標	%	80	80	80	80
			実績	%	83	83	83	83
		達成率	%	103.75	103.75	103.75	103.75	
		目標	-					
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-		
備考	館報モニターを受けていただけの方がいないため、モニター評価による事業評価が難しくなりました。平成21年度作成のシートから活動指標と成果指標を変更しました。							

事務事業名	公民館報発行事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010303
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	教育係 (公民館)	作成担当者名	百瀬 一郎	連絡先	72-3266	

期	目標	実績	課題
第1期	計画通りの発行と縄文プロジェクト関連事業に積極的取り組み。	「縄文土器に触れ、描いてみよう」の関係記事を約2ページ掲載した。	縄文プロジェクト関連事業を取り上げると一般記事のスペースが減り、行事が結果だけになってしまう。
第2期	計画通りの発行と縄文プロジェクト関連事業・地区公民館・各専門委員会の取組を広報する。また、テーマを決めて取材のための視察研修を実施する。	縄文月間に3頁、体レク関係に2頁、公民館講座及び各地区事業の内容を掲載しました。地場産業の発信について三条市を、縄文文化の発信について十日町市を視察した。	時期的に募集案内の記事が増えてしまった。
第3期	計画通りの発行と縄文プロジェクト関連事業・人権週間に合わせ人権の取組を積極的に広報する。	芸術祭関係、人権特集、先進地視察報告として「縄文と地場産業」について掲載した。	時期的に芸術祭関連の内容が多くなった。
第4期	計画通りの発行と縄文プロジェクト関連事業を積極的に広報する。分館報コンクールの実施。	1年間を通じて計画通りの発行ができた。分館報コンクールを実施し、分館職員研修会で表彰した。「分館職員研修会報告」、「公民館ってどんなところ」、「お宝マップづくり」の特集を掲載した。	今期は毎年公民館に直接関係する内容が多くなってしまった。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項 (改革・改善策)	① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定						
チェック					4					4					4	A					
課題	現在、館報は広報ものに折り込み、区長あて文書として区長に依頼し、配布する仕組みになっている。未入区者等への配布が直接できないという課題がある。直送するには、コスト、作業等大きく、難しい課題がある。こうしたことを補うため、各地区コミュニティセンター、コンビニ、金融機関等へ「広報もの」とともに設置し、いつでも受け取れるようにしている。今後、身近なコンビニや金融機関がない地域への設置が課題である。																				
総合評価	広報ものに折り込むことで、館報単独の配布作業は軽減したが、市内全戸に周知するには、未入区者、別荘地等の難しい課題がある。また、月1回の発行は妥当と考えているが、コスト削減を考えると、館報のスタイルを工夫するなど研究していきたい。										細 施 策 評 価 後					公民館にとって館報の役割は大きいものがあります。広報ものに折り込むことで、館報単独の配布作業は軽減したが、市内全戸に周知するには、未入区者、別荘地等の難しい課題がある。また、月1回の発行は妥当と考えているが、コスト削減を考えると、館報のスタイルやホームページとの工夫でページの削減が出来ないか研究していきたい。					
改革・改善策	前年度改革・改善策の実施状況										実 施 済					前年度細施策評価における今後の方向性					

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成 果 の 方 向 性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	成 果 の 方 向 性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止
今 後 の 方 向 性		②	③	④	①			レ		
改 革 ・ 改 善 策	月1回の発行だが、公民館講座の開催周知のためにも継続して発行していく。また、公民館報ならではの学習的要素の記事を増やしていきたい。					公民館報は、学習的な要素もあり役割は大きいものがあります。月1回の発行ですが、公民館講座の開催周知のためにも継続して発行していきます。ただ、公民館報ならではの地域の課題や学習的要素を増やしていきたい。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小島吉彦
---------	------------	---------	--------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	公民館講座事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	07010304
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	作成担当者名	小倉克彦	連絡先	72-3266

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
				施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供		
				細施策 05 公民館の充実		
				事務事業 04 公民館講座充実事業		
	予算事業名			会計コード 001 款 10 項 05 目 02 事業 05		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	「いつでも どこでも だれでも学べる」を公民館活動の基本として、市民の様々な学習要求に応え、教養、趣味、地域課題・生活課題、技術等の幅広い学習講座を開催している。生涯学習活動を実践して豊かな生活を送る生涯学習社会の発展のため、縄文文化の探求のための縄文文化講座、親子のスキップのための親子で英語遊び講座、絵画を描いて楽しもう講座、手話講座など市民の要望や時代に即した課題や地域課題を捉えた講座の開設など幅広い分野の講座を実施している。				
	現状と背景 （どうして）	健康、芸術、伝統等の幅広い分野にわたり各種講座を開設している。急激に変化する市民の学習要求を的確に把握し、団体育成のため各種講座の開講や新しい事業の開発を考えていく必要がある。また、時代に即した生活課題や地域課題を捉えた講座の開設も公民館の使命である。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	講座参加者			
		対象	同上			
		意図	講座への参加者数を増やす。			
	手段・方法 （どうやって）	アンケートの実施や講座終了時の聞き取りにより市民ニーズを的確に把握し、新しい講座の開発や参加募集方法の工夫をする。比較的参加者が少ない地域課題・生活課題をテーマにした講座開催については、内容や実施方法等を工夫して参加者を増やす。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		新しい講座数	新講座数割合	%	当年度新講座数/当年度講座数	50
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		講座参加者数	参加者割合	%	参加者数/講座定員数	100

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	1,709,286	1,384,914	1,245,729	1,004,780	1,466,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円	876,000	327,000	223,000	206,000	695,000	
一般財源	円	833,286	1,057,914	1,022,729	798,780	771,000	
職員数	人						
正規職員	人			0.10	0.10	0.90	
嘱託職員	人	0.90	0.90	0.90	0.90	0.10	
臨時職員	人						
合計	人	0.90	0.90	1.00	1.00	1.00	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	30.00	25.00	22.00	18.00	152.00	
D O （ ）	活動指標	新講座数割合	目標	%	50	50	50
			実績	%	38	25	36
	達成率	%	76.92	50.00	72.00	66.00	-
	-	目標	-				
		実績	-				
	達成率	%	-	-	-	-	-
成果指標	参加者割合	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	101	103	81	88
	達成率	%	101.31	102.55	81.00	88.00	90.00
	-	目標	-				
実績	-						
達成率	%	-	-	-	-	-	
備考	市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号 03050102 03050201						

事務事業名	公民館講座事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010304
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	教育係(公民館)	作成担当者名	小倉克彦	連絡先	72-3266	

期	目 標	実 績	課 題
第1期	9講座を開講する。	9講座を開講し、延487人の参加があった。また、長年継続している講座の一部について、経費負担の見直しをした。	参加者のニーズと社会教育機関として取り組む必要性との整合性。
第2期	3講座を開講する。	3講座を開講し、延390人の参加があった。	定員に達しない講座もあり、募集情報の発信に工夫が必要。
第3期	5講座を開講する。次年度の講座内容を検討する。	5講座を開講し、延323人の参加があった。また、働いている人が参加できる夜の講座を3講座実施。	参加人数に年による変動があり、講座内容及び日程の広報活動の工夫が必要。
第4期	4講座を開講する。	4講座を開講し、延198人の参加があった。	新しい講座の開講に向け、講師の情報獲得が必要。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 新規に発生した問題はないが、社会教育機関として取り組むべき課題と、受講対象者の要望とどちらを講座として重視するかは引き続き課題である。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 青年を対象とした講座等の取組について検討する。	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	講師の都合等もあり昼間の開設が中心となるため、成人男性、青年層の参加者が少ない。今後こうした層の実情に合った講座の企画や受講しやすいように開設時間等工夫する必要がある。また、長年にわたって実施している一部の講座については、費用対効果から適当か、市民ニーズも重要なものの要望に応えることだけが公民館活動の本来の趣旨に適合しているのか、ヒト、モノ、カネの有効利用につながっているかを再度検証することも課題である。本事業に限らず、社会教育に関係する事業は、モノを生産する事業と異なり、短期間での成果指標を設定することが困難であり、数字として表れる評価に馴染みにくいことが課題である。															
	前年度総合評価判定					A					前年度評価シート整理番号					07010305

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	アンケートの実施や講座を通しての聞き取りにより、市民ニーズを把握しながら講座を企画した。年間で23講座を企画し、約400名が受講した。講座内容として、時代ニーズに対応した内容とともに、生活課題や地域課題をテーマとした講座の開設もさらに検討していく必要がある。また、運営に係る資源の有効活用の観点から、継続実施している講座の見直しを行い、次年度の計画に反映した。	アンケートの実施や講座を通しての聞き取りにより、市民ニーズを把握しながら講座を企画した。年間で合計22講座を実施し多くの市民の方が受講している。講座内容は、時代ニーズに対応した講座とともに、生活課題や地域課題をテーマとした講座の開設もさらに検討していく必要がある。また、運営に係る資源の有効活用の観点から、一部の継続実施している講座の見直しを行い次年度の計画に反映した。								
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 ( ACTION )	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充			レ
	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持				
	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
	休 廃 止	①				休 廃 止				
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		
改革・改善策	時代に即した生活課題や地域課題をテーマとした講座、若者や男性が参加できる講座、会員が減少している団体との協働による講座の開設を検討していきたい。評価としては、長年継続しているものの、その効果が必ずしも十分でないと思われる一部の講座に代わって、新しい講座を検討する(スクラップアンドビルドの方法)等、コスト総量を変えずに、成果の方向性を高めることを目指す。					これからも、時代に即した生活課題や地域課題をテーマとした講座の開設を検討する。また、若者や男性が参加できる講座を考えていきたい。なお、会員の減少している団体との協働も検討していく。評価としては、長年継続しているものの、その効果が必ずしも十分でないと思われる一部の講座に代わって、新しい講座を検討する(スクラップアンドビルドの方法)等、コスト総量を変えずに、成果の方向性を高めることとする。(継続実施等の一部の講座を終了とし、新規講座を開設し、参加者が増加する方向を目指す)				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小島吉彦
---------	------------	---------	--------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	人権教育事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010306											
担当部署	教育委員会	生涯学習部	生涯学習課	教育係（公民館）	作成担当者名	小倉克彦		連絡先	72-3266											
計	市民プランにおける位置づけ	有	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む															
			施策	06	第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供															
			細施策	05	公民館の充実															
			事務事業	05	人権教育事業															
画	予算事業名								会計コード	001	款	10	項	05	目	02	事業	07		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	人権教育について、身近な課題をテーマに啓発を行い、あらゆる差別をなくし、市民一人ひとりの人権が尊重される「まちづくり」を進めている。																		
	現状と背景 （どうして）	人権は、人々が幸せに生活するための権利であり、すべての人に共通する権利であることから、茅野市公民館報による啓発活動、高齢者大学、学級・講座等で積極的にテーマとして取り組んでいる。																		
	目的	対象	受益者 （誰のために）	人権尊重について問題意識・関心のある市民																
		対象 （直接働きかける）	同上																	
		意図 （どんな状態にしたいか）	あらゆる差別が無く、市民一人ひとりの人権が尊重されている状態。																	
手段・方法 （どうやって）	館報への啓発記事の掲載、講座の開設を通して、人権尊重意識の啓発活動に努める。																			
	行政活動の結果からつくりだすものは何？																			
評価指標の作成	活動指標	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値															
		講座開設	開設講座回数	回	講座開設数	3														
		館報記事掲載	館報記事掲載回数	回	公民館報への人権啓発特集記事の掲載回数	1														
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値														
	講座参加者	参加者割合	%	参加者数/講座定員数	100															

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実	事業費等 (a)	円	74,942	74,984	70,990	70,774	71,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円	23,000	25,000	25,000	25,000	25,000	
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	51,942	49,984	45,990	45,774	46,000	
状	職員数	人						
	正規職員	人						
	嘱託職員	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	臨時職員	人						
	合計	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
況	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	1.00	1.00	1.00	1.00	6.00	
D	活動指標	開設講座回数	目標	回	3	3	3	3
			実績	回	3	3	2	2
		達成率	%	100.00	100.00	66.67	66.67	—
		館報記事掲載回数	目標	回	1	1	1	1
	実績		回	1	1	1	1	—
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	—	
	—	目標	—					
		実績	—					
達成率	%	—	—	—	—	—		
O	成果指標	参加者割合	目標	%	100	100	100	100
			実績	%	93	67	80	94
	達成率	%	93.33	67.00	80.00	94.10	83.00	
	—	目標	—					
実績	—							
達成率	%	—	—	—	—	—		
備考	市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号 03050201							

事務事業名	人権教育事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010306
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	教育係(公民館)	作成担当者名	小倉克彦	連絡先	72-3266	

期	目 標	実 績	課 題
第1期	前年度の事業の検証を行い、事業報告書を作成する。	5月中に、補助金実績報告書を県教育事務所に提出した。	前年の反省を踏まえ、事業をどう展開するか。
第2期	人権に関わる講座の募集を行う	「手話講座」の募集を実施した。高齢者大学で、「人権の話」を実施した。	受講者の拡大。
第3期	手話講座を開催する。 館報へ人権特集記事の掲載。	10回にわたる講座を実施し、のべ100人の参加があった。また当該事業に関わる補助金交付申請も併せて実施した。 館報へ人権特集の記事を掲載した。	新規参加者があったものの、定員から見れば十分とはいえない。
第4期	事業の実施について、補助金交付の手続きを行う。	第3期中に実施した報告に基づき、年度内交付がされるべく県に督促した。	速やかな補助金交付。 人権の内容の検討。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	館報記事の内容は毎年検討しその分野の方々に原稿を依頼して掲載している。講座は受講者のご意見を伺い参考にして企画している。															
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	07010307															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	人権尊重は、日常生活の中で常に意識する必要がある。公民館としては、機会を捉え、継続して啓発している。これからも講座等に取り入れ啓発していく必要がある。	人権尊重は、日常生活の中で常に意識する必要がある。公民館としては、機会を捉え、継続して啓発している。これからも講座等に取り入れ啓発していく必要がある。								
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今後の方向性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充		
	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
	休 廃 止	①				休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	日常生活の中で常に意識する必要があることから、公民館活動、講座の中に機会を捉え啓発していく必要がある。					日常生活の中で常に意識する必要があることから、公民館活動、講座の中に機会を捉え啓発していく必要がある。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小島吉彦
---------	------------	---------	--------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	芸術祭等事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	07010307
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	公民館	作成担当者名	野 明 香 織
				連絡先	72-3266

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
				施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
				細施策	05	公民館の充実
				事務事業	06	各種市民祭開催事業
	予算事業名			会計コード	001	款 10 項 05 目 02 事業 08
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市内の公民館等を拠点に活動している市民の学習成果を発表する場を提供する事業である。市公民館や地区公民館、分館等で活動している団体や個人まで幅広く市民から参加、作品を募り、市民館での音楽祭、芸能祭及び市文化センター全館を使用して作品を展示する芸術祭を開催している。				
	現状と背景 （どうして）	公民館活動を行っている団体にとって、日頃の学習成果を発表する場があることは、個人や団体の学習意欲の向上につながる。				
	目的	対象	受益者 （誰のために）	市民		
			対象 （直接働きかける）	日頃から市内を拠点として、芸術文化活動に関係している個人や団体		
		意図 （どんな状態にしたいか）	市内において芸術・文化に関係している団体の活動が活発になる。			
	手段・方法 （どうやって）	参加希望の団体の代表者からなる実行委員会、運営委員会を組織し、出場者・出品者と主催者とに分かれるのではなく、出場者・出品者も主催者である協働の手法を取り入れている。また、市内で活動している個人や団体へはその内容を基に呼びかけ出品点数、参加団体の確保を図っている。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		出品点数	出品点数	点	総出品点数	1,000
		音楽祭運営委員会開催	開催回数	回	委員会開催回数	4
		芸能祭実行委員会開催	開催回数	回	委員会開催回数	4
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		来館者数	来館者数	人	総来館者数	2,500

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	573,271	628,988	1,312,270	1,407,167
財 源 内 訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	573,271	628,988	1,312,270	1,407,167	1,649,000	
職 員 数	正規職員	人	0.30	0.30	0.55	0.55	0.55	
	嘱託職員	人			0.15	0.15	0.40	
	臨時職員	人			0.25	0.25		
	合計	人	0.30	0.30	0.95	0.95	0.95	
	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	10.00	11.00	23.00	25.00	122.00	
活 動 指 標	出品点数	目標	点	1,300	1,300	1,100	1,000	1,000
		実績	点	928	905	845	782	
	達成率	%	71.38	69.62	76.82	78.20	-	
	開催回数	目標	回			4	4	4
		実績	回			4	4	
	達成率	%	-	-	100.00	100.00	-	
開催回数	目標	回			4	4	4	
	実績	回			4	4		
達成率	%	-	-	100.00	100.00	-		
成 果 指 標	来館者数	目標	人	2,500	2,500	2,500	2,500	
		実績	人	2,000	2,000	2,507	2,611	2,500
	達成率	%	80.00	80.00	100.28	104.44	100.00	
	-	目標	-					
実績	-							
達成率	%	-	-	-	-	-		

※評価事務事業の整理統合見直しによりH26予算額は芸術祭事業、音楽祭事業及び芸能祭事業の合算額、H25以前は芸術祭事業費のみ。

事務事業名	芸術祭等事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010307
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	公民館	作成担当者名	野明香織	連絡先	72-3266

期	目標	実績	課題
第1期	開催日程の検討。	前回開催時に実行委員会等で提示された課題の検討を行いました。	進行方法をどうするか。
第2期	参加団体の代表からなる実行委員会、運営委員会の開催。詳細の決定。	説明会を実施した後、実行委員会、運営委員会を開催し、詳細も決定した。	スムーズな進行、展示のためには、一部の参加者の希望を断らざるを得ないこと。準備、片付けのスムーズな進行。
第3期	音楽祭、芸能祭及び芸術祭の開催。	ほぼ前年並みの参加団体、出品があった。ステージ発表、作品展示とも、事前の打合せをきちんと行うことができた。	延2,600人余の観覧がありましたが、規模としてはまだ少ないこと。
第4期	出された反省点のうち、取り入れるものを反映した準備を行うこと。	次年度の会場も確保し、日程も調整を行った。	参加団体、出品数を増やすこと。

事中評価																																									
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果</td> <td>拡</td> <td>充</td> <td></td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の</td> <td>現</td> <td>状</td> <td>維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>方</td> <td>縮</td> <td>小</td> <td></td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>向</td> <td>休</td> <td>廃</td> <td>止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td>性</td> <td colspan="6">皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性</td> </tr> </table>	今	成果	拡	充		②	⑤	⑦	後	の	現	状	維持	③	⑥	⑨	の	方	縮	小		④	⑧	⑩	方	向	休	廃	止	①			向	性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					
今	成果	拡	充		②	⑤	⑦																																		
後	の	現	状	維持	③	⑥	⑨																																		
の	方	縮	小		④	⑧	⑩																																		
方	向	休	廃	止	①																																				
向	性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性																																							
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）																																									

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定					
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定						
評価の観点					4					4					4	A					
チェック					4					4					4						
課題	<p>芸術祭、音楽祭及び芸能祭はいずれも茅野市芸術文化協会との共催事業である。参加者自身による自主的な運営で開催されるようになることが望ましいと考えている。運営面で参加者主導型事業にできていない部分が課題である。また、部屋の広さや出品数のバランスもあり、出品数に比して展示スペースが狭くなる分野、またその逆もあり、苦慮している。施設の総面積は変わらないことから展示の工夫、施設の有効利用等を検討していく必要がある。</p>															記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要				
総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					前年度総合評価判定					A					
	<p>利用団体の増加と出品数の増加が比例していない。洋画や日本画、書、陶芸といった作品から、水引細工や俳句、といった伝統的なものまで約800点の多種多様な作品展示となっている。今後、芸術文化協会との共催として実行委員会を設けていくが、より参加者主導型の事業にしていく必要がある。</p>															前年度評価シート整理番号					07010309

改革・改善の方向性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果	拡	充			成果	拡	充		
今後の方向性					②	⑤	⑦			
方向性					③	⑥	⑨			
性					④	⑧	⑩			
					①					
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									

改革・改善策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果	拡	充			成果	拡	充		
今後の方向性					②	⑤	⑦			
方向性					③	⑥	⑨			
性					④	⑧	⑩			
					①					
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									
改革・改善策	<p>参加者が運営に参画してもらい仕組みづくりをしていきたい。各団体の活動が内向きとも言える内容になっている傾向も見受けられることから、日頃の活動の成果を発表する場を提供することを通じ、学習意欲の向上につなげる働きかけを行っていく。</p>					<p>参加者が運営に参画してもらい仕組みづくりをしていきたい。各団体の活動が内向きとも言える内容になっている傾向も見受けられることから、日頃の活動の成果を発表する場を提供することを通じ、学習意欲の向上につなげる働きかけを行っていく。</p>				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小島吉彦
---------	------------	---------	--------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	分館活動促進事業	事業期間	平成 〇〇 ~ 〇〇 年度	整理番号	07010309
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	作成担当者名	五味 健志	連絡先	72-3266

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む 施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供 細施策 05 公民館の充実 事務事業 07 地区館、分館活動事業		
	予算事業名		会計コード	001 款 10 項 05 目 02 事業 10		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	当市には、公民館1と各地区に10の地区公民館、各集落等に81の分館があり、年間を通じ積極的に事業を推進している。これらの地区公民館や81の分館には、地域住民から選出された方が市の特別職である地区館長、分館長及び主事に就いている。こうした役職に就いた方に報酬を支払うとともに、事業の促進のために事業交付金を交付する。また、地区単位での文化祭・公民館まつり・コミュニティまつりや各種スポーツ大会を実施し、住みよい地域づくりと連帯感の醸成を図っている。				
	現状と背景 （どうして）	地区公民館や分館は活発な生涯学習活動を行っているが、この活動の根幹となる役員の労力に対しては条例に規定する報酬を支払う必要がある。また、住民の要望に応えられる事業が実施されたり、新しい事業実施を促したりするために、交付金というインセンティブ要件を設けている。				
目的	対象 （誰のために）	地域住民				
	対象 （直接働きかける）	地区公民館長、分館長及び主事				
的 意 図 （どんな状態にしたいか）	意 図	生涯学習推進のため、地区公民館、分館の事業が活発に行われている状態にする。				
	手段・方法 （どうやって）	地区館長、分館長及び主事に対して報酬を支払う。また事業交付金は、対象となる事業例の紹介、申請書の書き方をレクチャーすることで事業を促進する。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		交付申請分館数を増やす	交付申請分館数	館	申請分館数	80
		各集落等の分館役員との連絡調整の場所	会議開催回数	回	各地区分館長主事連絡会の開催回数	110
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		各分館において事業が行われる	申請事業数	件数	分館から交付申請された事業数	486
		分館事業への参加者	各分館事業への延べ参加者	人	各分館事業への参加者数	8,000

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	7,776,300	7,491,300	7,461,300	7,913,700	8,166,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	7,776,300	7,491,300	7,461,300	7,913,700	8,166,000	
職員数							
正規職員	人	0.31	0.10	0.30	0.30	0.30	
嘱託職員	人	0.20					
臨時職員	人	0.07					
合計	人	0.58	0.10	0.30	0.30	0.30	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	138.00	134.00	133.00	141.00	186.00	
D （ ）	交付申請分館数	目標	館	80	80	80	80
		実績	館	59	76	76	76
	達成率	%	73.75	95.00	95.00	93.83	-
	会議開催回数	目標	回	110	110	110	110
		実績	回	111	110	110	110
	達成率	%	100.91	100.00	100.00	100.00	-
-	目標	-	-	-	-	-	
実績	-	-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-	
O （ ）	申請事業数	目標	件数	560	560	486	480
		実績	件数	370	384	384	360
	達成率	%	66.07	68.57	68.57	67.08	75.00
	各分館事業への延べ参加者	目標	人	7,800	7,800	7,800	8,000
実績		人	7,475	6,950	8,125	33,005	33,000
達成率	%	95.83	89.10	104.17	412.56	100.00	
備考	評価事務事業の整理統合見直しにより、評価事務事業名変更のためH26予算額は当該事業の細節の経費を記入。成果指標中、H26までは地区事業もへの参加者数。						

事務事業名	分館活動促進事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	07010309
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	教育係(公民館)	作成担当者名	五味 健志	連絡先	72-3266	

期	目 標	実 績	課 題
第1期	地区CC職員に対し、分館事業交付金について、前年度の未申請分がないか注意喚起する。 役員の報酬支払口座の設定を完了する。	地区職員会で制度の説明をし、周知徹底した。	職員の確津もあり、職員間の理解度に差がある。
第2期	対象事業の早期交付申請を促す。	各地区分館長主事連絡会時に対象事業の申請を速やかに行うように周知徹底することを地区職員会議において依頼した。	分館役員までの周知徹底が十分ではない。
第3期	役員交代もあるため、年内事業の年内交付申請を促す。	申請のあった全事業について期間内に交付金を交付した。	分館事業の報告にあたって、地区CCでの確認が不十分である。
第4期	報告書提出前の地区CCでの確認を適切に行うよう地区職員会で徹底する。	分館職員研修会資料を活用して地区職員会で報告書の事前確認について周知徹底した。	学習活動が減少傾向にあること。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	分館事業の活発化を図るため分館の事業に対して交付金を交付している。分館事業に対して積極的な分館とそうでない分館があること、また体育レクリエーション事業は比較的多く、学習教養的講座が比較的小さいことから、分館活動の参考となるよう、地区職員会、分館長主事連絡会、分館職員研修会といった機会を捉えて、事例紹介等、活動に役立つ情報提供を行うことなど検討する必要がある。															
CH E C K	前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 07010301															

細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
分館事業の継続及び活発化を図るため、分館事業に対して交付金を交付している。分館事業に対する認識に分館によって差があること、また体育レクリエーション事業は比較的多く、学習教養的講座が比較的小さいことから、分館活動の参考となるよう、地区職員会、分館長主事連絡会、分館職員研修会といった機会を捉えて、事例紹介等、活動に役立つ情報提供を行うことなど検討する必要がある。	分館事業の活性化を図るため分館の事業に対して交付金を交付している。分館事業は、活発な分館とそうでない分館があることから、分館事業の参考となるよう分館相互の事例紹介など情報提供ができないか検討する必要がある。
前年度改革・改善策の実施状況	実施済
前年度細施策評価における今後の方向性	

今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
成果の方向性	成 果 の 方 向 性 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止	成 果 の 方 向 性 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止
CH E C K	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性
改 革 ・ 改 善 策	分館活動を継続し、さらに活発な分館事業が行えるよう、交付金という手段を活用して支援していく。また、地区職員課会等を通して、地区公民館主事の資質の向上を図る。	より活発な分館事業がおこなえるよう、交付金という手段を活用して支援する。

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	高齢者大学事業	事業期間	平成 〇〇 ~ 〇〇 年度	整理番号	07010305
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	作成担当者名	矢島喜久雄	連絡先	72-3266

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
				施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供		
				細施策 05 公民館の充実		
				事務事業 09 地域課題や生活課題への取り組み事業		
予算事業名				会計コード 001 款 10 項 05 目 02 事業 06		
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	高齢者が、教養、技能、体育レクリエーション等の学習を通じ、その年齢にふさわしい社会的能力を高めるとともに仲間づくりの輪を広げ、健康で生きがいのある生活を送ることができるために、この事業において「茅野市高齢者大学」を5月～10月に開設している。また遠隔地、農繁期のため通学できない人のため、泉野、湖東、北山地区については11月～2月に「茅野市高齢者大学地区学部」を開設している。					
現状と背景 （どうして）	「茅野市高齢者大学」に約150人の学生が5月から10月の継続的講座に参加している。また、「地区学部」でものべ100人余りの学生が11月から2月の継続的講座に参加しています。地域において高齢化が進む中、年齢を問わない生涯学習の重要性はますます高まっていることが背景として挙げられる。平成26年度で41回目を迎える事業です。					
対象	受益者 （誰のために）	高齢者大学受講生及び他講座受講生				
	対象 （直接働きかける）	おおむね55歳以上の市内在住者				
目的	意図 （どんな状態にしたいか）	今後益々高齢化が進む中「生きがい」や「張りのある」生活ができる生涯学習社会を築くため、講座が一定規模の受講者により開催されることで知の循環が進むようになる。				
手段・方法 （どうやって）	受講生の要望も踏まえた上で、適宜適切な内容の講座を、公民館及び他会場で開催する。 生涯にわたり学び続ける意欲を満たす講座内容にするとともに、わかりやすく視覚に訴えるようにする。					
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	成果指標	講座に参加することで、新しい知識を習得できる場を設ける	高齢者大学教養講座のうち、新規講座	%	当年度新講座数/当年度講座数	30
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		高齢者大学受講者数	参加者人数	人	参加者数	270

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)	円	1,018,216	1,088,037	1,024,372	909,248	1,024,000
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円		283,500	321,000	228,000	225,000
一般財源	円	1,018,216	804,537	703,372	681,248	799,000
職員数						
正規職員	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
嘱託職員	人	0.70	0.70	0.70	0.75	0.80
臨時職員	人		0.05	0.05	0.05	
合計	人	0.90	0.95	0.95	1.00	1.00
対象（者）数						
延利用（者）数 (b)						
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	18.00	19.00	18.00	16.00	83.00
活動指標	高齢者大学教養講座のうち、新規講座	目標	100	100	100	100
		実績	100	100	100	100
	達成率	100.00	100.00	100.00	100.00	—
	—	目標	—	—	—	—
—	実績	—	—	—	—	
—	達成率	—	—	—	—	
成果指標	参加者人数	目標	350	320	300	270
		実績	322	295	247	248
	達成率	92.00	92.19	82.33	91.85	—
	—	目標	—	—	—	—
—	実績	—	—	—	—	
—	達成率	—	—	—	—	
備考	市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号 03050102 03050201 03050301 03061302 成果指標をH27に引き下げたのは、会場の容量・規模を考慮すると、過大な数値を設定していたため。					

事務事業名	高齢者大学事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	07010305
担当部署	教育委員会 生涯学習部 生涯学習課	公民館	作成担当者名	矢鳥喜久雄	連絡先	72-3266	

期	目標	実績	課題
第1期	5月から、市公民館における高齢者大学を開講する。	茅野市高齢者大学には152人の受講申し込みがあった。	例外的に設けていた聴講生制度のあり方が課題。
第2期	幅広い学びを保障する、広範囲からの講師を招いての講座の開設。	中央で活躍している名誉教授を茅野市に別荘がある縁で招聘できた。特別講座としていた日帰り研修を、教養講座の一環として実施した。	茅野市を中心にした近隣からの講師の発掘が困難。
第3期	3地区での地区学部の募集を完結する。	3地区を合わせて100人に近い受講生を迎え、学ぶ意欲の高さを見た。	午後に行われる技能講座の希望が強く、教養講座の欠席者が多いこと。
第4期	次年度以降の内容を運営委員会に諮り、決定する。	運営委員会を開催し、次年度の講座内容を全て決定した。	学生・研究生・聴講生の割合が2:1:2で、研究生・聴講生の占める割合が多い。

事中評価																						
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>拡大</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	拡大	③	⑥	⑨	現状維持	④	⑧	⑩	縮小	①			休廃止			
今後の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦																	
	拡大		③	⑥	⑨																	
	現状維持		④	⑧	⑩																	
	縮小	①																				
休廃止																						
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>皆減</td> <td>縮小</td> <td>現状維持</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">コスト投入の方向性</td> </tr> </table>		皆減	縮小	現状維持	拡大		コスト投入の方向性														
	皆減	縮小	現状維持	拡大																		
	コスト投入の方向性																					

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																
課題	<p>高齢者の皆さんの学習意欲の向上や生きがいのある生活を支援するため、要望のある講座を積極的に開催しているが、要望を積極的に伝える受講者とそうでない受講者がいることで、やはり継続している受講者の声が大きくなりがちで対応に時間を割かざるを得ない。また、運営の仕方、固定化した受講生への対応等も課題として挙げられる。</p>															記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	07010306															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	高齡化社会の中、平成27年度には1年生から4年生、研究生、聴講生として152名の皆さんが受講した。高齢者のみなさんの生活に役立つ医療、健康、音楽、歴史等幅広いジャンルの講座を企画できた。過去受講者が増え200名以上の受講生があり、駐車場の面や講座運営が課題になっていたため受講資格を見直した。また3地区の地区学部では96名の参加があった。講座の企画から受講生の募集、大学の運営等を運営委員と一緒に進めることができた。						高齡者のみなさんの生活に役立つ医療、健康、音楽、歴史等幅広いジャンルの講座を企画できた。講座の企画から受講生の募集、大学の運営等を運営委員と一緒に進めることができた。			
前年度改革・改善策の実施状況	-					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後					
	成果の方向性	拡大			②	⑤	⑦	成果の方向性	拡大		
現状維持				③	⑥	⑨	現状維持				
縮小				④	⑧	⑩	縮小				
休廃止	①						休廃止				
	皆減 縮小 現状維持 拡大					皆減 縮小 現状維持 拡大					
	コスト投入の方向性										
改革・改善策	技能講座及び地区学部の内容を、妥当性、有効性の視点から次年度から見直す。類似の講座が各地で実施されているため、受講資格の運用もより適正に行うようにする。					技能講座及び地区学部の内容を、妥当性、有効性の視点から見直しが必要である。また、類似の講座が各地で実施されているため、受講資格の適正な運用も必要である。					

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小島吉彦
---------	------------	---------	--------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	図書館管理運営事業	事業期間	平成 1 ~ 年度	整理番号	07010501
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	五味 仁
				連絡先	72-9085

計	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
				施策	06	第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
				細施策	06	図書館の充実
				事務事業	01	施設維持・管理・運営事業
画	予算事業名	図書館施設管理費			会計コード	001 款 10 項 05 目 03 事業 03
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	・図書館施設の維持管理全般の業務。 ・火災報知器・灯油地下タンク点検・冷暖房設備保守点検・電気保安業務など、施設を維持するための業者への業務委託事業。他に清掃マトリースなど。				
	現状と背景 (どうして)	・多くの市民が利用される図書館であり、また公共施設でもあるため、専門知識や技術が求められる業務を業者に委託し、安全面・衛生面・環境面等で気持ちよく利用していただけるよう維持・管理する。 ・建築後35年が経ち、設備等の老朽化も進んでおり、運営に影響がでないよう維持・管理する必要がある。				
	目的	対象 受益者 (誰のために) 利用者 対象 (直接働きかける) 業者 意図 (どんな状態にしたいか) 図書館利用者が安全で快適に利用できるように、不具合箇所の早期発見とメンテナンスを行い、不快な気持を持たれない環境の整備を行う。				
L	手段・方法 (どうやって)	・午前1回、午後1回の館内を中心とした施設点検及び利用者の利用状態の見回りを行う。 ・月に1回は目視を中心とした確認を行う。 ・12月～3月は屋根からの落雪等の危険があるので、安全確認と事前に可能な限り雪下ろしを行う。				
	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？ 館外の見回りをする	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
N	活動指標		点検回数	回	月1回(4月～11月)+週1回(12月～3月)	24
	成果指標	成果・効果は何？ 施設の安全管理を行う	指標名称 管理上の事故非発生率	%	(1-事故発生件数÷284日)×100	100

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算 又は決算額)	平成28年度 事業計画(予算)			
事業費等(a)	円	11,391,500	10,855,000	9,885,076	9,207,933	12,716,000			
財源内訳									
国庫支出金	円								
県支出金	円								
地方債	円								
その他特定財源	円								
一般財源	円	11,391,500	10,855,000	9,885,076	9,207,933	12,716,000			
職員数	人								
正規職員	人	0.20	0.11	0.10	0.11	0.11			
嘱託職員	人		0.01	0.01					
臨時職員	人		0.01						
合計	人	0.20	0.13	0.11	0.11	0.11			
対象(者)数	人	56,030							
延利用(者)数(b)	人								
単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-			
受益者負担額	円								
市民一人当たりのコスト	円	203.00	194.00	177.00	164.00	242.00			
D	活動指標	点検回数	目標	回	590	650	24	24	24
			実績	回	740	760	22	21	
	達成率	%	125.42	116.92	91.67	87.50	-		
	-	-	目標	-					
			実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	-		
O	成果指標	管理上の事故非発生率	目標	%	100	100	100	100	100
			実績	%	100	100	100	100	
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-		
	-	-	目標	-					
実績			-						
達成率	%	-	-	-	-	-			
備考	H24・H25連続で活動指標の実績が目標を達成したため、H26年度から活動指標を変更する。								

事務事業名	図書館管理運営事業	事業期間	平成 1 ~	年度	整理番号	07010501
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	五味 仁	連絡先 72-9085

期	目 標	実 績	課 題
第1期	利用者が安全・安心して図書館利用ができるよう、建物を中心に経年劣化等により痛みが目立つ箇所の修繕計画を立てる。	昭和55年建設後、修繕・工事等一度も行われなく、外壁等に経年劣化が目立つようになった。平成28年度は1階フロア改修工事を、平成29年度は1階床の改修工事を計画する。	天井蛍光灯のコンバーターが経年劣化に不点灯が目立つようになった。一度に取替もできないため、利用者には不便をかけることが課題である。(平成26年度から4箇所修繕 1灯具25,704円)
第2期	小さな修繕の速やかな発注(例:今後考えられる利用に影響する最少蛍光灯具修繕箇所 40箇所)	天井蛍光灯のコンバーター1箇所修繕(発注から完了まで1週間)	夏季は日の暮れるのが遅いので良いが、冬季は暗くなる時間が早いので利用者への影響が大きいことが課題である。
第3期	不安箇所のある箇所は、今まで以上に確認を怠らない。	月に1度は業者に来てもらい、修繕の打合せをしながら建物の状況を確認する。	降雪の時期になるが、屋根の構造上、雪止めが設置出来ない。屋根の積雪が凍結し、通路等への落下を防ぐことが出来ないことが大きな課題である。
第4期	降雪があった時、手の届く屋根の雪は早めに落とし、利用者への安全措置を講じる。	今年は、降雪の回数、積雪量とも少なく、正面玄関屋根のからの雪落しを2回で済む。	大屋根からの落雪(雪の下は氷)をどのように防ぐかが課題である。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
築36年経過し、未改修の壁、床、電気設備等を中心に経年劣化によるトラブルが目立つようになった。天井蛍光灯を始め、分電盤内のトラブルが起こるようになり(今年に入って2回)、部分停電が発生するようになった。	
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	
外壁改修工事費H28年度当初予算 2,990,000円 1階床改修工事(平成29年度実施計画に上げる)	
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課 題	昭和55年に建設され35年が経過した。今までに耐震補強工事、屋根改修工事、外壁改修工事、内壁クロス張替工事・床の一部等を改修してきた。今年は、大きな工事は行わなかったが、建物以外の修繕も含め、18件の修繕を行った。経年劣化以外の突発的なトラブル等が生じ、利用者には不便を掛けないように計画的に改修を行っていきけるかが課題である。	記号の定義 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 07010502

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	電気、衛生設備等、設備関係の経年劣化による修繕をすることになったが、極力開館時間外で修繕が完了するようにし、利用者には迷惑を掛けずに済んだ。	設備等は事前にトラブル等が把握できない場合もあるが、大きな修繕になる前に業者にトラブル箇所等を見てもらい、サービスの低下にならないよう早めの対応を行っている。									
前年度改革・改善策の実施状況	実 施 済					前年度細施策評価における今後の方向性					

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 ( A C T I O N )	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	成果の方向性	拡 充		
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	方向性	現 状 維 持		レ	
性	縮 小		④	⑧	⑩	性	縮 小			
	休 廃 止	①					休 廃 止			
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

「施設の長寿命化計画」に添った施設・設備改修を行っていく。	「施設の長寿命化計画」に添った施設・設備改修を行っていく他、小破工事等も計画的に行っていく。屋根の雪止め設置工事が出来るか、今後も業者と最善策を検討していく。
-------------------------------	---

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		資料購入事業		事業期間	平成 1 ~	年度	整理番号	07010502					
担当部署		生涯学習課	図書館係	作成担当者名	辻井 まどか		連絡先	72-9085					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む								
			施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供								
			細施策	06	図書館の充実								
			事務事業	02	資料購入事業								
	予算事業名			会計コード	001	款	10	項	04	目	03	事業	04
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	・地域の①情報拠点として②読書施設として③地域資料の保存活用④住民の生涯学習を支援するという役割を果たすため、図書館の基本的業務である活字、映像、録音物、その他必要な資料を収集・購入する事業である。 ・購入する資料は、利用者からのリクエストを参考に、諏訪地域内及び県内図書館の所蔵を確認しつつ、職員による選書会議で決める。											
	現状と背景 （どうして）	開館して33年が経ち、本の汚損・破損も多くなった。内容が古くなったものや読まれなくなった本については定期的に除籍を行っている。新刊は毎年7万冊以上出版されているが、購入できる新刊本は年間約4,000冊である。											
	目的	受益者 （誰のために）	全市民及び市内通勤、通学者及び別荘所有者が対象である。										
		対象 （直接働きかける）	同上										
		意図 （どんな状態にしたいか）	・限られた予算内でバランスのとれた資料購入を行い、利用者の求める資料を的確に収集し提供する。 ・選書から発注までの期間をできるかぎり短く抑え、発注図書の100%の購入・納品を目指す。										
		手段・方法 （どうやって）	・職員の選書能力を高め、利用者が何を求めているかをリクエストサービス等で把握する。 ・自己研鑽（書店等での情報収集、新聞・雑誌等各種資料の書評欄や公共図書館への選書関係書籍などを読む等）の中での確かな選書を行う。 ・通常業務でのフロアワークや他市町村からの借り入れ資料で本についての知識を高め、他市町村の資料収集傾向を知る。										
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		職員による選書会議の開催	会議開催回数	回	選書会議開催回数月1回			12					
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		選書図書の速やかな発注により事故本（品切れ）をなくす	選書図書の整備率	%	選書購入冊数÷選書発注冊数×100			100					

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	11,700,000	11,700,000	8,707,664	8,701,531	8,702,000
	財源内訳						
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	11,700,000	11,700,000	8,707,664	8,701,531	8,702,000
	職員数						
	正規職員	人	0.73	0.73	0.57	0.46	0.46
	嘱託職員	人			0.24	0.35	0.35
臨時職員	人			0.11	0.06	0.06	
合計	人	0.73	0.73	0.92	0.87	0.87	
	対象（者）数	人	56,121	56,030	55,679		
	延利用（者）数 (b)	人	130,732				
	単位コスト (a)/(b)	円	89	—	—	—	—
	受益者負担額	円					
	市民一人当たりのコスト	円	208.00	209.00	156.00	155.00	236.00
活動指標	会議開催回数	目標	12	12	12	12	12
		実績	3	6	18	10	
		達成率	25.00	50.00	150.00	83.33	—
	—	目標	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—
		達成率	—	—	—	—	—
成果指標	選書図書の整備率	目標	100	100	100	100	100
		実績	97	100	98	100	—
		達成率	97.00	100.00	98.00	100.00	—
	—	目標	—	—	—	—	—
実績		—	—	—	—	—	
	達成率	—	—	—	—	—	
備考							

事務事業名	資料購入事業	事業期間	平成 1 ~	年度	整理番号	07010502	
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	辻井 まどか	連絡先	72-9085

期	目 標	実 績	課 題
第1期	職員による選書の迅速化	回覧順を変更することにより一般書の購入の迅速化が図れた。児童書は見計らいをしているため新刊をすぐに購入するわけではないが、書店見計らいも活用し、絶版前に購入できている。	職員の定休日にばらつきがあるため、選書会議が開催しにくい。
第2期	職員による選書の迅速化	回覧順を変更することにより一般書の購入の迅速化が図れた。児童書は見計らいをしているため新刊をすぐに購入するわけではないが、書店見計らいも活用し、絶版前に購入できている。	職員の定休日にばらつきがあるため、選書会議が開催しにくい。
第3期	職員による選書の迅速化	一般書購入の迅速化が図れている。児童書は見計らいをしているが、絶版前に購入できている。	職員の定休日にばらつきがあるため、選書会議が開催しにくい。
第4期	職員による選書の迅速化	一般書購入の迅速化が図れたため、絶版前に購入することができた。児童書は見計らいをしているが、新刊書については絶版前に購入できている。	職員の定休日にばらつきがあるため、選書会議が開催しにくい。

事 中 評 価				
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止	②	⑤	⑦
回覧の迅速化により定期的に図書購入ができているが、職員の定休日やカウンター業務、図書館外での会議が多く、時間内で選書会議を行うことが難しかった。		③	⑥	⑨
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）		④	⑧	⑩
選書資料回覧の迅速化により、定期的に新刊図書を購入できているが、職員の定休日やカウンター業務、会議が多く、選書会議を行うことが難しい。選書は大切な業務であるため、カウンター業務等を調整し、定期的に会議を行えるようにしたい。		①		
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック																					A
課題	毎週届く新刊全点案内を回覧し、職員及び司書で選書を行っているが、カウンター業務、会議、定休日等で選書会議を行うことが難しい。発注が遅れると品切れが発生することもあるため、定期的に会議を行ないスムーズな発注が行えるよう予定を立てたい。																				
		前年度総合評価判定					A					前年度評価シート整理番号					07010503				

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後									
							限られた予算の中で、図書資料購入方針に基づき整備を進めている。								
	前年度改革・改善策の実施状況					一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	今 後 の 方 向 性					改 革 ・ 改 善 策					
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
今 後 の 方 向 性	成果の方向性	拡 充	②	⑤	⑦	成果の方向性	拡 充				
改 革 ・ 改 善 策	成果の方向性	現 状 維 持	③	⑥	⑨	成果の方向性	現 状 維 持		レ		
	成果の方向性	縮 小	④	⑧	⑩	成果の方向性	縮 小				
	成果の方向性	休 廃 止	①			成果の方向性	休 廃 止				
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
		選書を行う者全員が揃うのは難しいため、何割以上の出席ということを決めて選書会議を行う。					図書資料の充実は、図書館運営にとって重要である。引き続き、図書資料購入方針に沿ってじい実を図るが、利用者ニーズも考慮する必要がある。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	電算維持事業	事業期間	平成 1 ~ 年度	整理番号	07010503
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	小林 昇平
				連絡先	72-9085

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
			施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供			
			細施策 06 図書館の充実			
			事務事業 03 電算維持事業			
	予算事業名	図書館ネットワーク管理費		会計コード 001 款 10 項 05 目 03 事業 06		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成7年度より諏訪広域6市町村の公共図書館の蔵書管理、貸出返却、予約等がコンピュータ化され、同時にコンピュータによるネットワーク化も構築した。</li> <li>ネットワークの核となるセンター館は（株）諏訪広域総合情報センター内に設置している。</li> <li>同一システムを使うことによるシステム開発（バージョンアップも）、維持管理の経費等のコスト削減を図っている。</li> </ul>				
	現状と背景 （どうして）	ネットワーク化されるまでは、相互貸借等の申し込みや本の所蔵確認等は電話またはF a xで行っていたため、時間と手間がかかっていた。コンピュータによるネット化により他館の蔵書確認や予約等が簡単に出来るようになり、事務改善と利用者へのサービスの向上に繋がった。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	全市民、市内通勤者、通学者、別荘所有者他。			
		対象 （直接働きかける）	図書館利用者でもまだインターネット利用の申し込みをされてない方や、インターネットで図書館の本を検索、予約等ができることを知らない方を対象とする。			
		意図	インターネット登録者数を増やし、メールでの予約件数を増やす。			
	手段・方法 （どうやって）	館内にインターネット利用のPR掲示。広報ちの、マスコミに記事掲載。ピーナチャンネル、図書館ホームページ等のメディアへPR。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		チラシの配布、広報等への記事によるPRを充実させる	PR回数	回	PR回数×2ヶ月に1回	12
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		インターネット登録者数を増やす	インターネット利用申込件数	件	インターネット利用申込件数の合計	2,000
	オンライン予約数	ネットワークからの予約件数	件	ネットワークからの予約件数	12,000	

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)	円	5,900,860	5,632,000	5,486,022	5,404,560	5,487,000
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円	5,900,860	5,632,000	5,486,022	5,404,560	5,487,000
職員数	人					
正規職員	人	0.03	0.01	0.02	0.03	0.03
嘱託職員	人	0.01				
臨時職員	人					
合計	人	0.04	0.01	0.02	0.03	0.03
対象（者）数	人					
延利用（者）数 (b)	人					
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	105.00	101.00	98.00	97.00	102.00
D （ ）	PR回数	目標	12	12	12	12
		実績	6	6	6	5
	達成率	50.00	50.00	50.00	41.67	-
	達成率	-	-	-	-	-
O （ ）	インターネット利用申込件数	目標	1,600	1,600	1,600	2,000
		実績	1,505	1,629	1,759	1,870
	達成率	94.06	101.81	109.94	93.50	-
	達成率	-	-	-	-	-
ネットワークからの予約件数	目標	12,000	12,000	12,000	12,000	
	実績	10,631	10,417	11,822	12,286	
達成率	88.59	86.81	98.52	102.38	-	
備考	対象者は、市民だけでないため平成23年度から対象者数の記載をしないことにした。					

事務事業名	電算維持事業	事業期間	平成 1 ~	年度	整理番号	07010503	
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	小林 昇平	連絡先	72-9085

期	目 標	実 績	課 題
第1期	今年度から目標値を改めているため、目標達成に向け、PR活動を進める。	新規登録者向けの登録の際にWebサイトの「すわズラー」への登録案内用紙を渡し、サービス内容を説明した。	・インターネット登録は、図書館利用登録を最初にした館でしか受け付け出来ないこと。 ・一度登録したインターネット利用のパスワードは、図書館に行かないと変更できないこと。
第2期	インターネット登録者が増えることによりリクエストも増えサービス向上に繋がっている。広報やメルマガなどを通じ、さらにPRしていく。	別荘者向けの広報「夏だより」等への掲載や、すわズラーのお知らせ掲示板に掲載した。	目標にしたメルマガなど、図書館システム(LMO)にはメルマガの機能があるが、有効に活用されていない。
第3期	メルマガの活用と、まずは目にひき、登録したいと思ってもらえる文章作りを行う。	市のメールマガジンで「茅野市図書館だより」の登録者が徐々に増えてきている。	図書館の情報発信の有効な手段として、メールマガジンを有効活用していくこと。
第4期	広域ネットワークの中で活用が出来ていないサービスを強化する。	6市町村の図書館のレファレンス事例をネット公開することで、利用者、職員ともに検索でき、参考にできるようになった。	市民サービス向上のため、ネット会議にて課題や提案を投げかけるなどし、順次検討していかなければならないこと。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 方 向 性
市のメールマガジンの登録者も70名を超え、徐々に増えてきた。しかしながら、ピーナチャンネルの文字放送など、広報媒体が増えてきたため、すべてを更新していく負担は生じてきている。	
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	
	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 年 度	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	インターネットを通じて予約は少しずつではあるが、毎年増加してきている。利用申し込み件数が近年設定した目標値を達成したので、今後も利用促進を図る。															
記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	06010504															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	より利用しやすいシステムへ検討、改善していく必要がある。	利用者の利便性の向上に繋がっている。また、窓口で1件1件対応するより利便性が向上している点で、インターネットを使っているリクエストは多くなっているが、業務の効率化になっている。									
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性					

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	現在の図書館システムは平成23年度に図書館システムバージョンアップをしました。メールマガジン・レファレンスの記録を6館で共有できるシステムなど新たな機能が追加され運用がスタートしているため、サービスの向上に努めていく。 2ヶ月に1回の6市町村の担当者会議を充実させ、システム向上に繋げる。	現在の図書館システムは平成23年度に図書館システムバージョンアップをしました。メールマガジン・レファレンスの記録を6館で共有できるシステムなど新たな機能が追加され運用がスタートしているため、職員をはじめ利活用を進める。 平成29年度システム更改に向け、現在の業務を見直し、新たな機能を模索していく。								
今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止									
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	図書館通常事務	事業期間	平成 1 ~ 年度	整理番号	07010504
担当部署	生涯学習部	作成担当者名	功力由希子	連絡先	72-9085

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む 施策 06 第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供 細施策 06 図書館の充実 事務事業 04 図書館通常事務事業		
	予算事業名	図書館運営費		会計コード 001 款 10 項 05 目 03 事業 02		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	図書館の最も基本的な業務は本・雑誌・紙芝居などの活字資料やCD・DVDなどの音や映像資料、そして電子的な資料などの収集・提供・保存です。これらのサービスと大きく関連する業務にリクエストサービス・相互貸借サービス・利用者の質問や相談に答えるレファレンスサービス等があります。 図書館庶務や図書館運営の基本となる事務を行う事業です。				
	現状と背景 （どうして）	図書館庶務や図書館運営の基本となる事業である。図書館は地域の情報の拠点として、本・雑誌・新聞・リーフレット等の活字資料や、CDやDVDなどの視聴覚資料、またインターネットやデータベース等の情報を収集保存し、市民に提供しています。				
目的	受益者 （誰のために）	全市民、市内通勤者、通学者、別荘所有者。				
	対象 （直接働きかける）	同上				
的 意 図 （どんな状態にしたいか）	意図	図書館は、本・雑誌などの資料を収集・提供・保存する場所という外に、仕事や生活の役に立つ多くの情報を手に入れられる場所、市民の書齋であるということを知ってもらい、そして、地域のシンボル・市民の心のよりどころとなることを目指します。				
	手段・方法 （どうやって）	正面玄関および館内のテーマ展示をとおし、さまざまな分野の本を手にとってもらう。茅野市図書館に所蔵がない本、人気本などはリクエストしてもらい、生活に役立つ図書館として親しんでもらう。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		館内のテーマ展示	展示回数	回	正面玄関前テーマ展示回数+児童コーナー テーマ展示回数	20
	リクエスト件数	件数	件	所蔵本のリクエスト数+郡内・郡外相互貸借 数	20,500	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
図書館入館者数を増やす	図書館入館者数の増	%	H27年度入館者数/H26年度市民プランの 目標数入館者数（160,000人；H29年度）	100		

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	18,763,506	18,593,000	17,396,691	14,464,347	16,247,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	18,763,506	18,593,000	17,396,691	14,464,347	16,247,000	
職員数	人						
正規職員	人		2.50	2.77	3.75	3.80	
嘱託職員	人		2.20	2.96	4.08	2.98	
臨時職員	人		2.48	1.46	0.75	0.70	
合計	人		7.18	7.19	8.58	7.48	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	334.00	332.00	311.00	258.00	965.00	
D O （ ）	活動指標	展示回数	目標	回		20	40
			実績			36	
	達成率	%	-	-	-	180.00	-
	件数	目標	件			20,500	20,000
実績					16,860		
達成率	%	-	-	-	82.24	-	
成果指標	図書館入館者数の増	目標	%		100	100	
		実績				86	
達成率	%	-	-	-	86.00	-	
備考	-	目標					
		実績					
達成率	%	-	-	-	-	-	

（成果指標）平成29年度の目標160,000人。平成26年度の入館者数は、134,590人。（平成25年度は、140,102人）

事務事業名	図書館通常事務	事業期間	平成 1 ~	年度	整理番号	07010504	
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	功力由希子	連絡先	72-9085

期	目標	実績	課題
第1期	さまざまな世代に関心を持ってもらえる展示計画を立てる。茅野市にない本を取り寄せることができるサービスを窓口で紹介する。	「新生活スタート応援BOOK」や「善光寺御開帳」、「むかしのあそび」の展示を行った。「むかしのあそび」は講座「おじいちゃんおばあちゃんどむかしのあそびをたのしもう」に併せて企画した。	さまざまな年齢層の方に興味を持っていただくことができた。展示内容を来館した方以外にもPRしていく必要がある。既存の利用者へリクエストサービスの活用法をお知らせする。
第2期	地元新聞社の紹介本コーナーで、展示に併せた記事を提供し、本の紹介とともに展示のお知らせを行う。引き続きリクエストサービスの案内と、インターネットからのリクエスト方法を窓口で案内する。	山の日、終戦70年、縄文文化月間に併せた展示。夏休みを控え市内観光の展示も行った。児童コーナーでは調べ学習作品や自由研究の資料を展示した。芥川賞「火花」の予約件数は62件(9/30現在)。	縄文の展示は質問が数件あり、職員全員が説明できるようにしておく必要があった。芥川賞・直木賞は話題性が高いので、潜在的な利用者へのPRにつなげたい。
第3期	より魅力的な展示にするため、他部署からも資料を収集する。展示内容の確認を職員会でを行い、来館者の本の利用につなげる。人気本の寄贈のお願いをHPや広報、館内掲示で発信する。	茅野駅開業の展示では博物館より写真パネルを借り本と併せて展示することで、魅力ある展示となった。 人気作家や予約件数が多い本を寄贈していただけたことで、リクエスト待ちの期間短縮につながった。	市民の生活に役立つ展示にするため、職員一人ひとりが情報に敏感になることが必要である。
第4期	年度当初の計画になくても、話題になっている事柄の展示を行い、市民の生活に役立つ本を紹介する。	御柱祭の展示は関心が高く、パスファインダーを設置したことにより、御柱祭について知りたい方のニーズに応える糸口となっている。縄文大使の任命に伴い、小林紀晴氏の展示を行った。	地域の御柱祭への関心が高まり、調査・相談件数が増加することが予想される。展示と併せパスファインダーの見方も含め、本を提供していく。職員は郷土関連の情報にアンテナを高くすることが求められる。

の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成果の方向性	②	⑤	⑦
	既存の利用者へのPRだけでなく、潜在的な利用者へのPRが必要となっている。		現状維持	③	⑥	⑨
	図書館サービス・展示の案内をする時には、小さなお子さんから高齢の方まで、一人一人の利用者が分かりやすい説明をできるようにしなくてはいい		縮小	④	⑧	⑩
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)		休廃止	①		
展示をとおし、普段手に取ることのない分野の本の利用につながっている。魅力ある展示を新聞等で広報することで、生活に役立つ図書館のPRとなっている。また、本のリクエストサービスは多くの需要があることから、今後も必要不			皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性			

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定	
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定		
評価の観点					4					4					4	A	
チェック																	
課題	<p>今年は御柱祭もあり、地域の行事や話題の事柄について情報を求めて来館される方の増加が予想される。引き続き展示コーナーでの資料の提供と、調査・相談へ応えられるようアンテナを高くし資料を収集する。また、来館者が自ら本へたどり着けるよう、タッチパネルやパスファインダーの使用方を説明していく。</p>															記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要
																前年度総合評価判定	A
																前年度評価シート整理番号	07010504

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	マイナンバー制度や信州山の日など、市民の関心が高い展示を行うことができた。図書館には生活に役立つ資料があることのPRにつながった。 御嶽山の噴火や、課題図書・自由工作の展示では、夏休みの調べ物に必要な資料を提供できた。突発的な事象に対しても展示替えを行い柔軟に対応することができた。 人気本の寄贈を館内・HP等でお願いしたことで、図書館に本を寄贈できることを知っていただく機会となった。						図書館は、公共施設の中でも利用者が多い施設である。図書館を、市民の皆さんの身近な施設になるよう取り組んでいる。			
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡充		②	⑤	⑦	成果の方向性	拡充		
	現状維持		③	⑥	⑨		現状維持			
	縮小		④	⑧	⑩		縮小			
	休廃止	①					休廃止			
	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	来館者が自ら必要とする情報にたどり着けるよう、図書館の使い方を説明する機会を設ける。タッチパネルの操作方法と、パスファインダーの使い方、諏訪広域総合目録すわズラー内にあるレファレンス・事例検索の紹介を行う。					市民の図書館として気軽に立ち寄れる図書館、憩いの場となれる図書館、そして市民に役に立つと思われる様々な情報発信の場となれるような図書館づくりを目指すうえでも、職員一人一人が些細なことも情報を収集し活用していく。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小島吉彦
---------	------------	---------	--------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		読書推進事業		事業期間	平成 1 ~ 年度	整理番号	07010506					
担当部署		生涯学習課	図書館係	作成担当者名	小林 昇平	連絡先	72-9085					
計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む							
				施策	05 第5節 熟年期：蓄えた知識・技能を地域社会に活かし健康でゆとりとした時間を味わう							
				細施策	02 ゆとりとした時間を味わい、生涯にわたって学び続ける場を提供します							
				事務事業	03 図書館を使った生涯学習の場提供事業							
予 算 事 業 名	読書推進事業		会計コード	001	款	10	項	05	目	03	事業	05
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動を通じて「ひとりづくり」「まちづくり」を行っていく。</li> <li>・講座等を通じて地域の情報発信の場として、また市民の方の安らぎの場、憩いの場としての図書館づくりをしていく。</li> <li>・おはなし会などを開催して、読書の楽しみや親子のコミュニケーション（ことばとこころ）の大切さを知ってもらおう。</li> <li>・市民ボランティアに活動の場の提供を行う。</li> </ul>											
現状と背景 （どうして）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活字離れが課題となり、読む力、聞く力、話す力が年齢を問わず課題となっている。人間の脳や、感情を育てていく上で肉声で伝えることが大切であるが、子どもに伝える方法を知らない親が多いし、場を求めており、年々家族みんなでの参加が多い。また、読書ボランティア活動をしている方々からの要望（勉強会・講演）が多い。</li> </ul>											
目 対 象	受益者 （誰のために）	赤ちゃんとお年寄りまでの市民及びボランティア団体。										
	対象 （直接働きかける）	同上										
意 図 （どんな状態にしたいか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはなし会・講座・イベント等を通じて読む力、聞く力、話す力の大切さを知ってもらおう。読書の大切さを知ってもらおう。</li> <li>・ボランティア団体の活動の場や、勉強の場の提供をし、今後の活動に役立ててもらおう。</li> </ul>											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内保育園、幼稚園、小・中・高校、公共施設、大型店、読りむいんちの関係へポスターや案内チラシの配布をする。</li> <li>・市のホームページ、諏訪広域図書館情報ネットワーク、ビーナチャンネルなどの情報ツールを活用して情報を発信する。</li> <li>・図書（絵本）を通して読み聞かせだけでなく、幅広い分野（パネル・紙芝居・人形劇・親子遊び等）を取り入れる。</li> <li>・おはなしボランティア団体に発表の場として図書館を提供する。</li> </ul>											
N 評 価 指 標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
	活動指標	文芸講演会・各種講座の開催周知をする	配布案内チラシ数	枚数	市内保育園＋幼稚園＋小中高校＋公共施設＋読りむいんちの関係＋他市町村図書館				10,000			
		ボランティア団体の参加を呼びかける	読み聞かせ・講演・イベント開催数	回	読み聞かせ回数＋講演会回数＋イベント開催数				120			
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値			
	企画参加者数を増やす	企画参加者増加率	%	今年度企画参加者数÷前年度企画参加者数×100				100				

実 施 状 況	項 目	単 位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
	財 源 内 訳	事業費等 (a)	円	414,601	551,000	328,219	136,179	213,000
国庫支出金		円						
県支出金		円						
地方債		円						
その他特定財源		円						
一般財源		円	414,601	551,000	328,219	136,179	213,000	
正規職員		人	0.29	0.29	0.11	0.23	0.22	
嘱託職員		人	0.10	0.10	0.11		0.27	
臨時職員		人	1.00	1.00	0.01		0.05	
合計		人	1.39	1.39	0.23	0.23	0.54	
D O 活 動 指 標	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	7.00	10.00	6.00	2.00	48.00	
	配 布 案 内 チ ラ シ 数	目標	枚数	10,000	5,000	5,000	5,000	5,000
		実績		7,420	4,500	4,500	4,500	
		達成率	%	74.20	90.00	90.00	90.00	-
		目標	回	120	120	120	120	120
	読 み 聞 か せ ・ 講 演 ・ イ ベ ン ト 開 催 数	実績		113	124	116	115	
達成率		%	94.17	103.33	96.67	95.83	-	
目標		-						
実績		-						
成 果 指 標	目標	%	100	150	100	100	100	
	実績		126	135	90	118	100	
	達成率	%	126.00	90.00	90.00	118.00	100.00	
	目標	-						
備 考	07010509市民参加の場の提供・07010510地域のシンボルよりどころ事業・07010512世代間交流事業・07010513図書館を使った生涯学習の場の事業の以上4事業は、平成27年度から07010506読書推進事業に含める。							

事務事業名	読書推進事業	事業期間	平成 1 ~	年度	整理番号	07010506	
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	小林 昇 平	連絡先	72-9085

期	目 標	実 績	課 題
第1期	広報媒体を活用し、定例のおはなし会の参加者を増やす。	定例のおはなし会は例年並みの参加者だった。昨年度第2日曜日の午前に変更した「紙芝居だいすき」は参加者も増えた。 ・H26年度平均17.2人、H27年度平均21.3人	平日のおはなし会に参加の充実が課題。 (現在、毎月第3火曜日にパネルシアターと、茅野高生によるおはなし会)
第2期	平日のおはなし会のPRと、茅野高生によるおはなし会を年4回に充実した。	だんだんと開催が浸透していった結果、両プログラムとも参加者が増えてきた。特に、高校生によるおはなし会は毎回楽しみに来てくれる方がいる。	特別おはなし会の充実と、スキル向上に向けた講座の実施を計画。
第3期	読書に親しむ企画を考えていく。	秋の読書旬間に合わせ、定例おはなし会、製本講座の実施、読書通帳を作成し小学生を対象にプレゼントした。読書通帳は予定した数はすべて利用者の手に渡り喜ばれた。	読書に親しむ企画は学校なども似た内容を行っていることから、連携も必要。
第4期	親子で楽しめるプログラムを開催する。	クリスマス週間として、期間中に本を借りた方にクリスマスプレゼントを渡した。おはなし会も盛況だった。 また、2月には地元茅野の寒天をテーマにしたおはなし会を実施。親子で寒天について親しんだ。	今後とも、各ボランティアグループと連携を深め、充実した講座を企画していく。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 昨年より、定例のおはなし会のPR、内容充実にも力を入れている。今後はより一層読書ボランティアグループとの連携やスキルアップできる方法を考えていく必要がある。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 休 廃 止 方 向 性
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	<p>子供たちのためのおはなし会やイベントは充実してきているので、今後も引き続き、中高生さらに大人を対象にした行事を開催していくことが望まれる。 職員の人員が減った中、ボランティアの方の参加の機会が多く求められていく。</p>															
記号の定義	<p>A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	06010507															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果が上ってきている。平成23年度は中学生から読み聞かせのイベントに読み手として参加してもらった。また、図書館利用の少ない中高生と退職された団塊の世代の人たちへのサービスが課題である。						読み聞かせのボランティア団体の協力を得ながら、年々読書推進の成果が上ってきている。高校生の読み聞かせも定着してきたので、中高生の利用促進を図りたい。また、継続して退職された団塊の世代の人たちへのサービスが課題である。			
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 ( A C T I O N )	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充			
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
方向性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
方向性	休 廃 止	①				休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

改革・改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般向けの講演会を計画済み。</li> <li>ボランティア活動の機会を捻出していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文芸講演会の開催に向けて講師と協議していく。</li> </ul>
--------	---	--

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	子ども読書活動応援センター事業	事業期間	平成 18 ~ 年度	整理番号	07010507
担当部署	教育委員会事務局	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	辻井まどか
				連絡先	72-9085

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
			施策 01 第1節 周産・乳幼児期：みんなと遊び、人間としての生活や心の基本を身につける			
			細施策 03 子どもたちが様々な遊びや体験を通して心と体を育てられるよう応援します			
			事務事業 03 読書活動推進事業			
	予算事業名	子ども読書活動応援センター事業費		会計コード 001 款 10 項 05 目 03 事業 09		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	平成18年4月に「第1次茅野市子ども読書活動推進計画」（ちの子ども読書の森づくりプラン）が策定され、現在「第2次子ども読書活動推進計画」（平成24年～平成29年）をもとに、「たくましく やさしい 夢のある子ども」に育つことに願い、公民協働で全市的に読書活動に取り組んでいます。子ども読書活動推進計画を遂行するにあたり事務局として、また子どもの読書に関してサポートする「子ども読書活動応援センター」を設置し、専門知識を持った嘱託職員が配置されています。				
	現状と背景 （どうして）	「第1次子ども読書活動推進計画」から重点事業として取り組んでる、「茅野市小中高調べ学習コンクール」をきっかけに、教科で図書館を利用する小中学校が増え、それに伴い、資料不足となり、学校間や市図書館から借りても不足するため、参考図書資料を応援センターに設置して、各学校の計画に沿った図書利用ができるシステムを構築する必要がある。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	小学生・中学生			
		対象 （直接働きかける）	小学生・中学生・親			
		意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館・公共図書館でも所蔵はしているが、不足する調べ学習用の参考図書（図鑑類）を複本として応援センターに設置。</li> <li>・複本が多数あることにより、同じテーマで調べ学習、グループ学習を行う授業の支援となる。</li> </ul>			
	手段・方法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の蔵書状況の把握と司書教諭・学校司書からの要望等をもとに選書を行う。</li> <li>・購入本リストの全校配布と利用規定の作成。</li> <li>・購入資料（朝日ジュニア学習年鑑70冊、日本のすがた40冊、日本国勢図絵20冊、世界国勢図会20冊、百科事典ポプラディア2セット、ポプラディア情報館50冊1セット（予算1,000,000円）</li> </ul>				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		調べ学習用の資料を充実させる	購入した資料は最低1回は利用される	%	貸出冊数÷購入冊数×100	100
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		全国コンクール入賞作品点数を増やす	応募点数前年度と比較しての入賞作品の割合	%	H27÷H26(12作品)×100	100

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)	円	2,673,554	2,632,187	2,351,869	5,570,745	2,723,000
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円				3,110,000	
一般財源	円	2,673,554	2,632,187	2,351,869	2,460,745	2,723,000
職員数	人					
正規職員	人	0.02	0.02	0.02	0.05	0.10
嘱託職員	人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
臨時職員	人					
合計	人	1.02	1.02	1.02	1.05	1.10
対象（者）数						
延利用（者）数 (b)						
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	48.00	47.00	42.00	100.00	110.00
D （ ）	活動指標	購入した資料は最低1回は利用される	目標	%	100	100
		実績	%	92	92.00	
	-	目標	%	-	-	-
		実績	%	-	-	-
O （ ）	成果指標	応募点数前年度と比較しての入賞作品の割合	目標	%	100	100
		実績	%	83	83.00	
	-	目標	%	-	-	-
		実績	%	-	-	-

備考  
 ・平成27年度図書館振興財団助成事業（単年度事業）  
 ・平成26年度の全国コンクールへの出品作品点数が22作品の内、12作品が入選。全国コンクールの入賞は奨励賞以上（佳作は該当しない）  
 ・全国コンクールへの応募できる点数は、市コンクールへの応募点数から小学校低学年・高学年・中学校、各2%以内の上限がある。

事務事業名	子ども読書活動応援センター事業	事業期間	平成 18 ~	年度	整理番号	07010507	
担当部署	教育委員会事務局	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	辻井 まどか	連絡先	72-9085

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・年間事業スケジュールを5月初旬までに立てる。 ・調べ学習用に図書購入した本を5月末までに貸し出せる状態にする。 ・第1回目の研修会を6月中旬までに実施	・年間事業スケジュールを立て、「調べ学習推進委員会」に示す。 ・装備等の変更により、6月中旬以降の貸出変更 ・日程見直しにより、研修会は8月11日に開催	司書教諭や他の教職員への負担が増える中で、全小中学校教職員の調べ学習に対する理解と、知識の向上をどのように図っていくかが課題である。
第2期	調べ学習研修会への教職員参加者数の増 ・1回目(学校図書館長・司書教諭等) 70名 ・2回目(北部中・豊平小・湖東小・北山小)80名 ・3回目(司書教諭・学校司書・希望者) 40名	都合により、3日行う研修会の全3回を8月11日の1日で行う。1回目9時～12時、2回目13時～16時、3回目17時～18時30分。1・2回目の参加者の合計は43名、3回目は24名であった。	・研修の機会を作る必要があるが、先生方の異動や今後の調べ学習の充実を考えると、校内研修を工夫して継続的に研修に取り組む必要がある。 ・中学校での資料活用が少ないので工夫が必要。
第3期	市調べ学習コンクールへの応募点数の増 ○目標 200点 (実績:平成26年度143点・平成25年度230点・平成24年度187点)	応募点数 153点(小学校129点、中学校24点) 全国コンクールへの応募点数は、小学校17点、中学校5点の計22点。入賞件数は10点。	・応募総数は1000点を超えるが、調べ学習としてまとまった作品が少なかった。今後も調べ方・まとめ方の指導を継続して行う必要がある。
第4期	当初の予定にはなかったが、平成28年度の「調べ学習コンクール」に向けて、調べ方・まとめ方について学校図書館長・司書教諭・学校司書等指導者向けの研修を計画する。	・宮川小学校において、宮川小学校教員と市内小中学校司書教諭、学校司書、富士見町立小中学校、原村立小中学校の教職員を対象に読書教育を支える学校図書館の活用研修会を2月8日に開催した。	・今後も研修の機会を作る必要があるが、交付金は平成27年度限りであるため、校内研修を工夫するなどして、調べ学習に対する理解と知識の向上を図っていく。

事 中 評 価					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 果 拡 充 後 の 現 状 維 持 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性	②	⑤	⑦	
助成事業で購入した資料は、小学校では活用され同じ事典をもとに勉強しているのが児童は先生の説明を理解しやすくなった。また先生も教えやすくなった。中学校では購入した本の活用が少ないため、情報教育を行っていくということが見えてこない。		③	⑥	⑨	
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)		④	⑧	⑩	
助成事業は平成27年度の単年度事業のため助成事業は終了だが、通常の子ども読書活動応援センター事業は継続する。(助成事業費:3,110,000円)		①			
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司書教諭や他の教職員への負担が増える中で、全小中学校教職員の調べ学習に対する理解と、知識の向上をどのように図っていくかが課題である。</li> <li>・子ども読書活動応援センターの現状は、学校図書館支援の比重が高く、また業務量も多く、本来の子ども読書活動応援センターの目的の一つでもある市民を対象とした、本に関する相談業務等の応援が出来ていない。</li> </ul>															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	07010507															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	平成18年度に「茅野市子ども読書活動推進計画」が策定され、市の行政計画として位置づけられた。事業が開始されて9年が経過した。応援センターの業務の見直し、応援センターの機能の充実と改善など、徐々にではあるが課題解決はされつつある。	平成23年度に「第2次茅野市子ども読書活動推進計画」を策定した。調べ学習作品の内容も年々充実してきているのも、学校側の理解が大きく影響している。今後、全小中学校で出前の調べ学習研修会が持てることが望ましい。平成27年度は、図書館振興財団から助成を受け資料の充実と指導者育成を行った。								
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充			レ
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持				
方向性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
方向性	休 廃 止	①				休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	・図書館職員の正規職員1名が、子ども読書活動応援センターの業務となり、体制的には職員体制が改善された。しかし、図書館職員が減った中での業務のため、図書館業務のうちでも特にカウンター業務へ影響が出ないよう、早めに事業企画等を進めていく。					今後、調べ学習コンクールへ応募がない「親子の部」「高校の部」への応募が間がられるが、子ども読書活動応援センターの機能・役割を考えた場合、職員体制を含めた業務の見直しの検討が必要となる。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	図書館分室運営事業	事業期間	平成 1 ~ 年度	整理番号	07010505
担当部署	生涯学習課	作成担当者名	辻井 まどか	連絡先	72-9085

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む 施策 06 第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供 細施策 06 図書館の充実 事務事業 05 図書館分室運営事業		
	予算事業名	分室運営事業費		会計コード 001 款 10 項 04 目 03 事業 07		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	・茅野市では平成14年「茅野市子ども家庭応援計画」（どんぐりプラン）が策定され、そのプランの下に市内10地区に子育ての拠点となる図書館分室を活用した「地区子ども館」が整備された。 ・児童サービスの一環として、本館から遠い地区の子どもたちが自ら本を借り、読書に親しむ機会を設けるという目的で分室が設置された。現在は地区子ども館の機能の一つ（屋根のある、本のある公園）として運営されている。				
	現状と背景 （どうして）	・すべての地区に分室を設けることで、市民の身近な場所に図書館がある状態となり、公平に図書館サービスを行っている。 ・地区子ども館の利用はあっても、本を借りていく人が少ない。				
目的	対象 （誰のために）	受益者	各地区の全住民			
	対象 （直接働きかける）	対象	同上			
目的	意図 （どんな状態にしたいか）	各地区子ども館利用者に本の利用を促したい。（本の貸出期間は3週間以内）				
	手段・方法 （どうやって）	・新刊を中心に図書のご案内を行い（他館、他分室のものも含む）、リクエスト（希望図書）を積極的に受け利便性を高める。 ・利用者に本に興味を持ってもらうよう定期的にテーマ展示を行い、図書の貸出人数と貸出冊数を増やす。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		テーマ図書の展示を行う	テーマ図書実施回数	回	月1回×12回×10分室	120
	読書活動に関する行事（おはなし会）を実施する	読書活動関係行事実施回数	回	年20回×5分室+月12回×5分室	160	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
地区子ども館利用者の図書貸出人数を増やす	図書貸出人数	人	10分室の図書貸出人数の合計	25,000		

実施状況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	20,504,002	20,308,259	499,420
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
職員数	一般財源	円	20,504,002	20,308,259	499,420	498,396	500,000
	正規職員	人	0.79	0.79	0.03	0.08	0.08
	嘱託職員	人	0.03	0.03		0.02	0.02
	臨時職員	人	10.57	10.57			
	合計	人	11.39	11.39	0.03	0.10	0.10
状況	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
状況	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
状況	市民一人当たりのコスト	円	365.00	363.00	9.00	9.00	21.00
	活動指標	テーマ図書実施回数	目標	60	120	120	120
実績			100	119	110	179	
達成率		%	166.67	99.17	91.67	149.17	-
読書活動関係行事実施回数		目標	160	160	174	174	174
		実績	137	114	127	136	
達成率		%	85.63	71.25	72.99	78.16	-
-	目標	-	-	-	-	-	
実績	-	-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-	
成果指標	図書貸出人数	目標	25,000	25,000	25,000	25,000	20,000
		実績	14,977	14,961	16,755	11,192	
	達成率	%	59.91	59.84	67.02	44.77	-
	-	目標	-	-	-	-	-
実績	-	-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	図書館分室運営事業	事業期間	平成 1 ~	年度	整理番号	07010505	
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係	作成担当者名	辻井 まどか	連絡先	72-9085

期	目 標	実 績	課 題
第1期	資料貸出人数の増加	前年度と比較し、全体的に利用人数及び冊数が微減している。	本館・分室間での図書の入替えにより、利用増を目指す。
第2期	資料貸出人数の増加	前年度と比較し、全体的に利用人数及び冊数が微増している。	図書の入替え、テーマ図書の展示等により利用増を目指す。
第3期	資料貸出人数の増加	前年度と比較し、全体的に利用人数及び冊数が微減している。	図書の入替え、テーマ図書の展示等により利用増を目指す。
第4期	資料貸出人数の増加	前年度と比較すると、利用人数及び貸出冊数は増となった。	今後も図書の入替え、テーマ図書の展示等により利用増を目指す。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 各分室により図書館機能についての考え方にばらつきが生じてきている。選書基準についても職員が変わった場合に引き継がれていない分室がある。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 選書基準の確認と、分室間で本を回転させることで棚に新鮮味を持たせ、利用を促進する。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4					4	A
課題	<p>選書については実際に子どもと接している各分室職員の意見を取り入れているが、茅野市図書館の選書基準と合わない資料が上がってくることや複本が多数になることがあり、本館児童担当（司書）が検討・調整をした上で発注を行っている。このことが本を買ってもらえないという不満につながっていることが考えられるため、今後も分室職員には選書について説明していくようにしたい。</p>																				
	前年度総合評価判定					A					前年度評価シート整理番号					06010506					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後									
		各地区に分室があり市民の利便性は良くなってきているが、ここ数年、貸出者数と貸出冊数は全体的に減少している。また、地区子ども館との併設のため、子どもの利用が主であり、多くの大人の利用は望めない。今後も分室を拡充することは難しいと思われるので、分室機能を見直す必要があります。													
	前年度改革・改善策の実施状況					一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	今 後 の 方 向 性					改 革 ・ 改 善 策										
		成 果 の 方 向 性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	②	⑤	⑦	③	⑥	⑨	④	⑧	⑩	①
		成 果 の 方 向 性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止					レ					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性
	資料購入費は増額しないが、分室間で資料を回転させることにより、棚に新鮮味を持たせる。また、テーマ図書展示を行うことで、子ども達に本を紹介する。					現在、読書活動推進のためのイベント開催やテーマ展示、分室本の除籍と分室間の交換などを行い、利用者サービスに努めているが、利用者ニーズの把握も必要と考える。										

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	読書推進事業（諏訪東京理科大学図書館との連携事業）	事業期間	平成 1 ~ 年度	整理番号	07010511
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館	作成担当者名	五味 仁
				連絡先	72-9085

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
				施策	06	第6節 生涯を通じて学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
				細施策	06	図書館の充実
				事務事業	04	図書館通常事務事業
	予算事業名	読書推進事業			会計コード	001 款 10 項 05 目 03 事業 05
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	図書館業務の一つに「学校図書館との連携」があります。大学図書館・公共図書館利用者の学習、教育及び研究活動の発展に資することを目的としている。				
	現状と背景 （どうして）	諏訪東京理科大学図書館と茅野市図書館は、平成23年7月1日付けで、「諏訪東京理科大学図書館と茅野市図書館との連携協力に関する覚書」を交わしましたが、市民及び諏訪東京理科大学学生の利用が少ないため、より多くの市民と学生に大学図書館、公共図書館を利用の促進を図る。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	受益者			市民・諏訪東京理科大学学生
		対象 （直接働きかける）	対象			市民・諏訪東京理科大学学生
	手段・方法 （どうやって）	諏訪東京理科大学図書館は市民の利用増を、茅野市図書館は理科大学学生の利用増を図る。				
		定期的に諏訪東京理科大学図書館側と打合せを行い、アンケート調査を行うことや、双方の図書館のHP等でPRしていく。既に実施している連携業務は、①相互貸借の実施 ②茅野市図書館で借りた本を諏訪東京理科大学図書館へ返却すること。				
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		諏訪東京理科大学図書館との連携のPR	PR回数	回	市図書館、大学図書館双方のPR回数	6
		成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	成果指標	相互貸借の増	相互貸借件数	件	今年度の相互貸借件数	3
		大学図書館へ市図書館の返却件数の増	返却件数	件	今年度の返却件数	24

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況	事業費等 (a)	円						
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円						
状況	職員数	人	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
D （ ）	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	-	1.00	
	活動指標	PR回数	目標	4	4	4	4	6
			実績					
		達成率	%	-	-	-	-	-
		-	目標	-	-	-	-	-
	実績		-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-		
成果指標	相互貸借件数	目標	0	0	0	0	2	
		実績						
	達成率	%	-	-	-	-	-	
	返却件数	目標	15	20	17	21	24	
実績								
達成率	%	-	-	-	-	-		
備考								

事務事業名	読書推進事業（諏訪東京理科大学図書館との連携事業）	事業期間	平成 1 ~	年度	整理番号	07010511	
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館	作成担当者名	五味 仁	連絡先	72-9085

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期			
	第2期			
	第3期			
	第4期			

事 中 評 価

今 後 の 方 向 性	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	成果の方向性	拡 充	②	⑤	⑦
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	成果の方向性	現 状 維 持	③	⑥	⑨
		成果の方向性	縮 小	④	⑧	⑩
		成果の方向性	休 廃 止	①		
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			

評価年度 当年度

評 価 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定  <b>B</b>			
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4	判定
	チェック					4					レ	3					
課 題	<p>第1四半期の課題に上げてあるが現在、諏訪東京理科大学図書館の本を茅野市図書館へ返却することは、理科大学図書館の管理規則が厳しいためできないが、今後、理科大学図書館の本を茅野市図書館へ返却できるかが課題。</p> <p>他の自治体の状況を図書館専門雑誌やインターネット等で検索・調査してみるが、茅野市は公共図書館と学校図書館との連携の内容は、色々取りこんでいるが、一つ一つの連携を見るとより充実していく必要性がある。</p>												記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要			
前年度総合評価判定																	
前年度評価シート整理番号																	

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前						細 施 策 評 価 後					
	<p>・高校との連携は、今までは生徒の職場体験の受入だけであったが、今年度初めて茅野高校に児童担当職員が絵本等の読み方の指導に出向いた。</p> <p>・学校図書館司書・司書教諭・図書委員のお薦め本の紹介を計画し、公共図書館を身近な場所に、少しは思ってもらえたと思う。</p>						<p>諏訪東京理科大が図書館との連携は、やや行き詰っている感がある。一方、高校との連携は、茅野高校の生徒さんに絵本等の読み方の指導に行ったことにより、図書館での茅野高生のおはなし会の開催に繋がったことは、学校図書館との連携の良い例である。1月と3月の2回開催。</p>					
	前年度改革・改善策の実施状況						実施済	前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ A C T I O N ）	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
		成果の方向性	拡 充	②	⑤	⑦	成果の方向性	拡 充			
		成果の方向性	現 状 維 持	③	⑥	⑨	成果の方向性	現 状 維 持			レ
		成果の方向性	縮 小	④	⑧	⑩	成果の方向性	縮 小			
		休 廃 止		①		休 廃 止					
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
<p>今まで、学校司書会等の機会でもしか学校へ出かけていなかった。待ちの姿勢でなく、積極的に学校へ出向き連携についてを密にしていく。</p>						<p>小さなことでも、現場等に出向くことにより新たな連携にも繋がる。今後も地道な活動に取り組んでいく。また、公立化の協議を注視したい。</p>					

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	資料収集事業（美術館）	事業期間	平成 22 ~ 年度	整理番号	07010205
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	北澤 ゆき子
				連絡先	632

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第3章 生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む		
			施策 06 第6節 生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供			
			細施策 07 美術館の充実			
			事務事業 01 資料収集事業			
	予算事業名	美術館費		会計コード 001 款 10 項 05 目 01 事業 12		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	美術館の管理は、指定管理者制度の導入により（※）地域文化創造が行っている。美術館で所有している作品は、市の芸術的資産であり、市民憲章の「文化の香り高いまち」を目指すために欠かせないものである。				
	現状と背景 （どうして）	美術館の管理は、指定管理者制度の導入により（※）地域文化創造が行っている。美術館で所有している作品は、市の芸術的資産であり、市民憲章の「文化の香り高いまち」を目指すために欠かせないものである。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	市民			
		対象 （直接働きかける）	指定管理者・美術品寄附等検討委員会・教育委員会			
		意図	芸術財産の収集・保全をはかり調査研究に役立てるとともに、市民に広く公開し美術教育を実践する場とする。			
	手段・方法 （どうやって）	美術館としての機能を果たすための資料の収集及び保管、資料の修理修復等を行う。				
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		美術品寄附等検討委員会の開催	開催数	回	年間	1
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		美術館の年間入館者数	美術館の入館者数	人	年間	15,000

実施状況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	520,134	495,180	309,828	384,295
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円				3,616	27,000	
	一般財源	円	520,134	495,180	309,828	380,679	476,000	
	職員数	人	0.10	0.10	0.10	0.11		
状況	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
O （ ）	臨時職員	人	0.01	0.01	0.01			
	合計	人	0.11	0.11	0.11	0.11		
D （ ）	活動指標	対象（者）数						
		延利用（者）数 (b)						
	成果指標	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
		受益者負担額	円					
	O （ ）	開催数	目標	1	1	1	1	1
			実績	2	1	1	1	
		達成率	%	200.00	100.00	100.00	100.00	-
		-	目標					
			実績					
		達成率	%	-	-	-	-	-
	O （ ）	美術館の入館者数	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
			実績	19,493	17,716	17,347	12,781	15,000
達成率		%	129.95	118.11	115.65	85.21	100.00	
-		目標						
実績								
達成率	%	-	-	-	-	-		
備考	市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号 03060701 03060702							

事務事業名	資料収集事業（美術館）	事業期間	平成 22 ～	年度	整理番号	07010205	
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	北澤 ゆき子	連絡先	632

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・指定管理者との連絡調整を密に行う。 ・美術品寄贈者の紺綬褒章上申 ・必要に応じ、寄付等検討委員会を開催する。	・適宜、指定管理者との連絡調整を行った。 ・美術品寄贈者の紺綬褒章上申を行った。	・美術品寄附等検討委員会委員の内規の見直しの検討が必要である。
第2期	・指定管理者との連絡調整を密に行う。 ・美術品寄贈者の市長表彰内申 ・美術品寄附等検討委員会を開催する。	・7月9日紺綬褒章伝達式の開催。 ・8月1日美術品寄贈者の市長表彰。 ・8月24日美術品寄附等検討委員会を開催。	・美術品寄附等検討委員会委員の内規の見直しとあり方の検討が必要である。
第3期	・指定管理者との連絡調整を密に行う。 ・必要に応じ、寄付等検討委員会を開催する。	・適宜、指定管理者との連絡調整を行った。 ・小学校での対話による芸術鑑賞実施のため、校長会での説明を指定管理者と共にを行った。	・内規見直しのため委員にアンケートを実施する必要がある。
第4期	・指定管理者との連絡調整を密に行う。 ・必要に応じ、寄付等検討委員会を開催する。	・適宜、指定管理者との連絡調整を行った。 ・内規見直しのためのアンケートの実施。	・アンケート結果を受け、登録博物館となるための検討が必要である。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 果 拡 充 後 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 方 向 性
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課 題	現在茅野市美術館は博物館類似施設となっているが、登録博物館となることが検討されている。登録博物館となるためには、条例の整備が必要であり、美術品寄附検討委員会のあり方と合わせて検討が必要である。	記 号 の 定 義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定		A
前年度評価シート整理番号		01070201

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	美術館の管理は、指定管理者制度の導入により隣地域文化創造が行っている。美術館を充実させるための施策等については、指定管理者と協力・連携を図りながら行っていく必要がある。						美術館の管理は、指定管理者制度の導入により隣地域文化創造が行っている。美術館を充実させるための施策等については、指定管理者と協力・連携を図りながら行っていく必要がある。			
前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性				

今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後									
	成果の方向性	拡 充			②	⑤	レ	⑦	拡 充					レ	
方向性	現 状 維 持			③	⑥		⑨	現 状 維 持							
方向性	縮 小			④	⑧		⑩	縮 小							
方向性	休 廃 止	①						休 廃 止							
方向性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									

改革・改善策	・美術品寄附等検討委員会のあり方の見直し。 ・登録博物館となることの検討。	・美術品寄附等検討委員会のあり方の見直し。 ・登録博物館となることの検討。
--------	--	--

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	生涯学習課長	小 島 吉 彦
---------	------------	---------	--------	---------